

令和元年度
男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告

【 調査について 】

1. 調査の目的

市民の男女共同参画に関する意識や実態を明らかにし、来年度予定している次期「大田市男女共同参画計画」策定や今後の事業の基礎資料とする。

2. 調査の設計

- (1) 調査対象：大田市内在住の18歳以上 2,000人
- (2) 抽出方法：無作為抽出
- (3) 調査方法：郵送による配布・回収
- (4) 調査期間：令和元年9月2日（月）～9月17日（火）
- (5) 調査内容
 - ①男女の役割や平等意識に関することについて
 - ②女性と仕事に関することについて
 - ③仕事、家庭生活、地域活動や個人の生活に関することについて
 - ④男女の人権に関することについて
 - ⑤男女共同参画に関する用語や制度、機関について
 - ⑥男女共同参画推進事業について全19問アンケート
- (6) 調査結果のまとめ

3. 回収結果

- (1) 有効回収数：787人
(女性430人、男性346人、その他0人、性別無回答11名)
- (2) 有効回収率：39.4%

回答者の内訳		実数（人）				構成比（％）			
		全 体	女 性	男 性	その他	全 体	女 性	男 性	その他
総数		787	430	346	0	100.0	100.0	100.0	0.0
性別	女性	430	430			54.6	100.0		
	男性	346		346		44.0		100.0	
	その他	0			0	0.0			0.0
	性別未記入	11				1.4			
年代別	18歳～19歳	2	1	1	0	0.3	0.2	0.3	0.0
	20歳代	35	23	12	0	4.4	5.3	3.5	0.0
	30歳代	58	36	22	0	7.4	8.4	6.4	0.0
	40歳代	91	48	43	0	11.6	11.2	12.4	0.0
	50歳代	106	71	35	0	13.5	16.5	10.1	0.0
	60歳代	209	108	100	0	26.6	25.1	28.9	0.0
	70歳以上	278	143	133	0	35.3	33.3	38.4	0.0
	年代未記入	8	0	0	0	1.0	0.0	0.0	0.0
職業別	農業	45	19	26	0	5.7	4.4	7.5	0.0
	漁業	4	1	3	0	0.5	0.2	0.9	0.0
	林業	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	商工業	77	31	46	0	9.8	7.2	13.3	0.0
	会社員	224	104	119	0	28.5	24.2	34.4	0.0
	パート、アルバイト	104	88	16	0	13.2	20.5	4.6	0.0
	家事専業	78	78	0	0	9.9	18.1	0.0	0.0
	学生	8	6	2	0	1.0	1.4	0.6	0.0
	無職	229	98	129	0	29.1	22.8	37.3	0.0
	その他	6	0	0	0	0.8	0.0	0.0	0.0
無回答	12	4	0	0	1.5	0.9	0.0	0.0	
配偶者	いる	565	292	270	0	71.8	67.9	78.0	0.0
	いない	213	137	76	0	27.1	31.9	22.0	0.0
	無回答	9	1	0	0	1.1	0.2	0.0	0.0
配偶者の職業別	農業	37	25	12	0	4.7	5.8	3.5	0.0
	漁業	7	6	1	0	0.9	1.4	0.3	0.0
	林業	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	商工業	72	54	18	0	9.1	12.6	5.2	0.0
	会社員	166	109	57	0	21.1	25.3	16.5	0.0
	パート、アルバイト	76	17	58	0	9.7	4.0	16.8	0.0
	家事専業	30	2	28	0	3.8	0.5	8.1	0.0
	学生	1	0	1	0	0.1	0.0	0.3	0.0
	無職	164	72	90	0	20.8	16.7	26.0	0.0
	その他	6	3	3	0	0.8	0.7	0.9	0.0
無回答	6	4	2	0	0.8	0.9	0.6	0.0	
世帯構成	単身	79	51	28	0	10.0	11.9	8.1	0.0
	夫婦のみ	222	109	113	0	28.2	25.3	32.7	0.0
	親子二世帯	335	188	144	0	42.6	43.7	41.6	0.0
	三世帯以上	115	66	49	0	14.6	15.3	14.2	0.0
	その他	11	6	5	0	1.4	1.4	1.4	0.0
	無回答	25	10	7	0	3.2	2.3	2.0	0.0

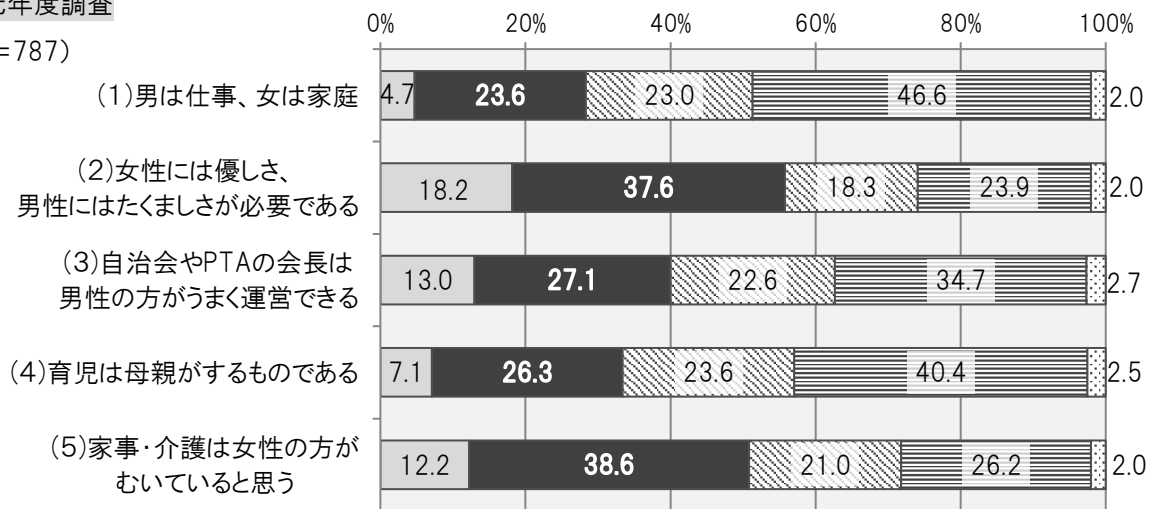
■ 男女の役割や平等意識に関することについて

問1. 次にあげることがらについて、あなたはどのように思われますか。

- ・前回調査と比較すると、いずれの項目とも否定する回答が増加している。
- ・「女性には優しさ、男性にはたくましさが必要である」という意識を否定する回答は42.2%（そう思わない23.9%、どちらかと言えばそう思わない18.3%の計）で、前回の29.0%から13.2ポイント増加している。
- ・「家事・介護は女性の方がむいている」という意識について、否定する回答の計は47.2%に留まり、前回調査42.5%からの大きな変化は見られない。

令和元年度調査

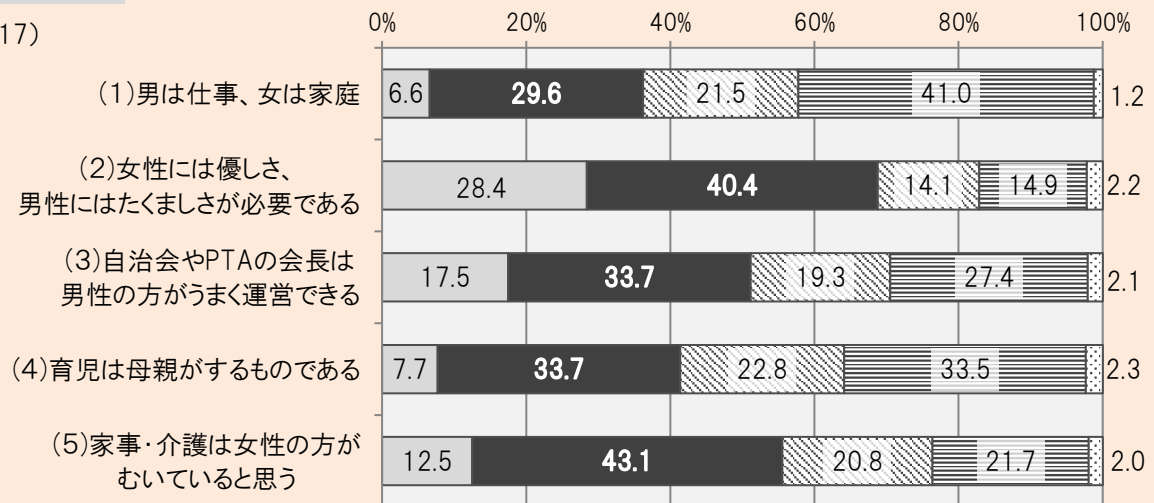
(n=787)



□そう思う ■どちらかと言えばそう思う ▨どちらかと言えばそう思わない ■思わない □無回答

平成26年度調査

(n=817)



□そう思う ■どちらかと言えばそう思う ▨どちらかと言えばそう思わない ■思わない □無回答

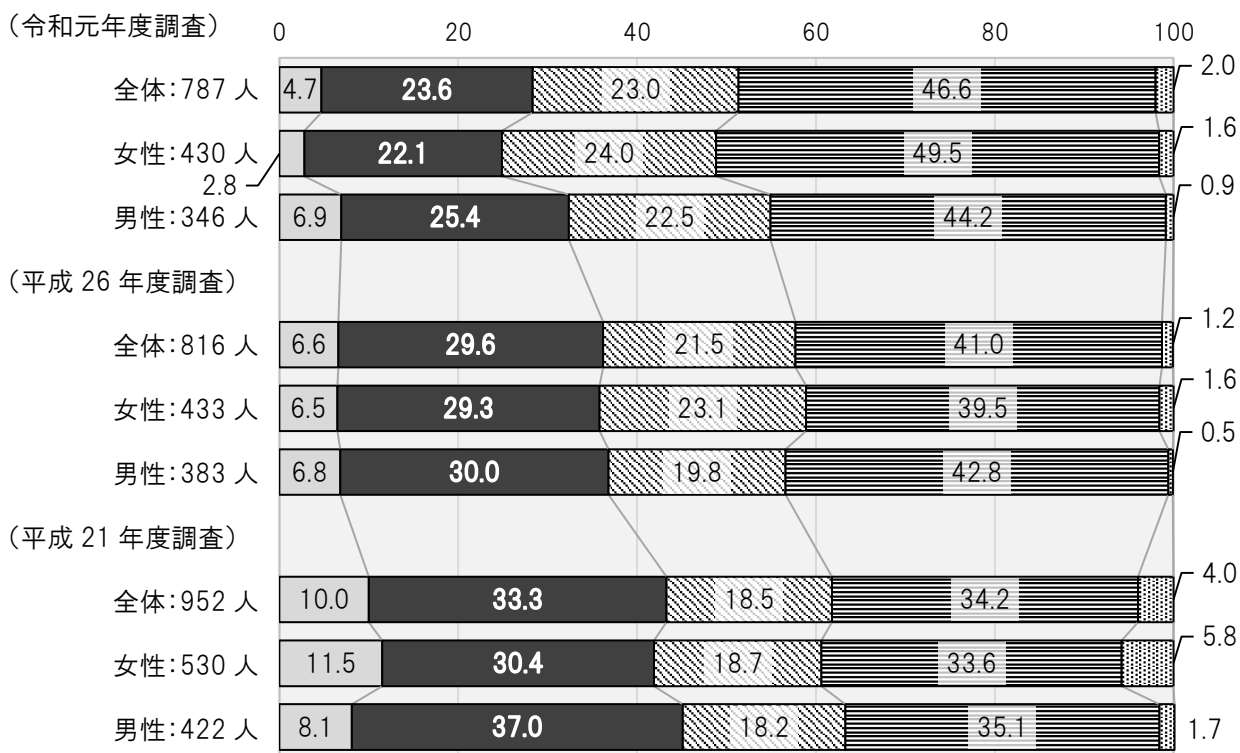
(1) 男は仕事、女は家庭を守る

・「そう思わない (46.6%)」「どちらかといえばそう思わない (23.0%)」の否定的に考える人の計が 69.6% で、この割合は H26 年度調査 (62.5%) と比較して 7.1 ポイント、H21 年度調査 (52.7%) と比較して 16.9 ポイント増えている。

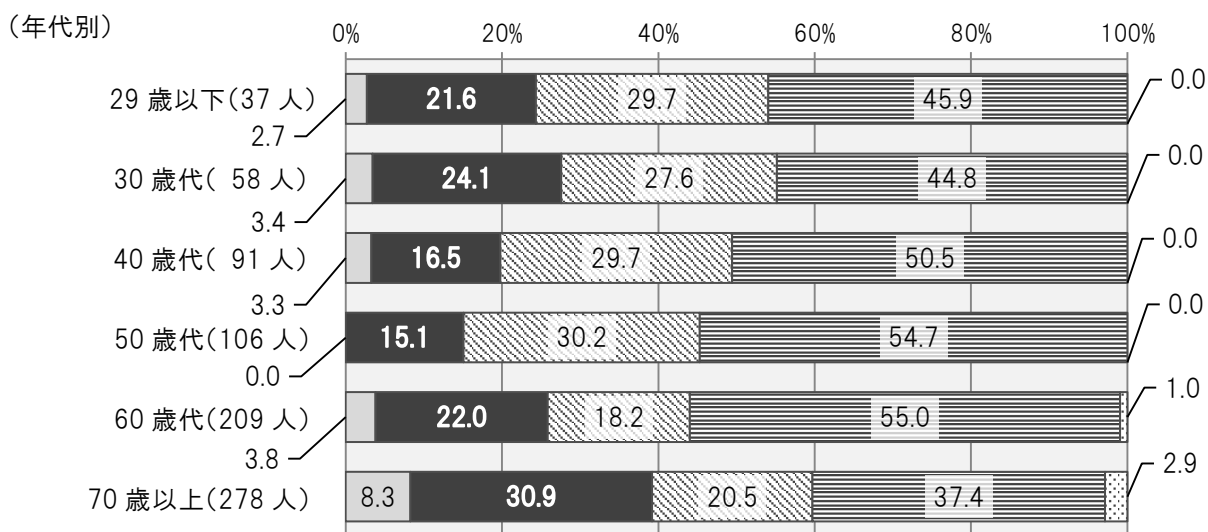
・性別では、男性 (66.7%) より女性 (73.5%) の方が否定的に考える人の割合が高い。

・年代別では、全ての年代で半数以上が否定的となった。70 歳以上の年代でも、否定的に考える人の計 (57.9%) が 5 割を超えた。

男は仕事、女は家庭



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩思わない □無回答



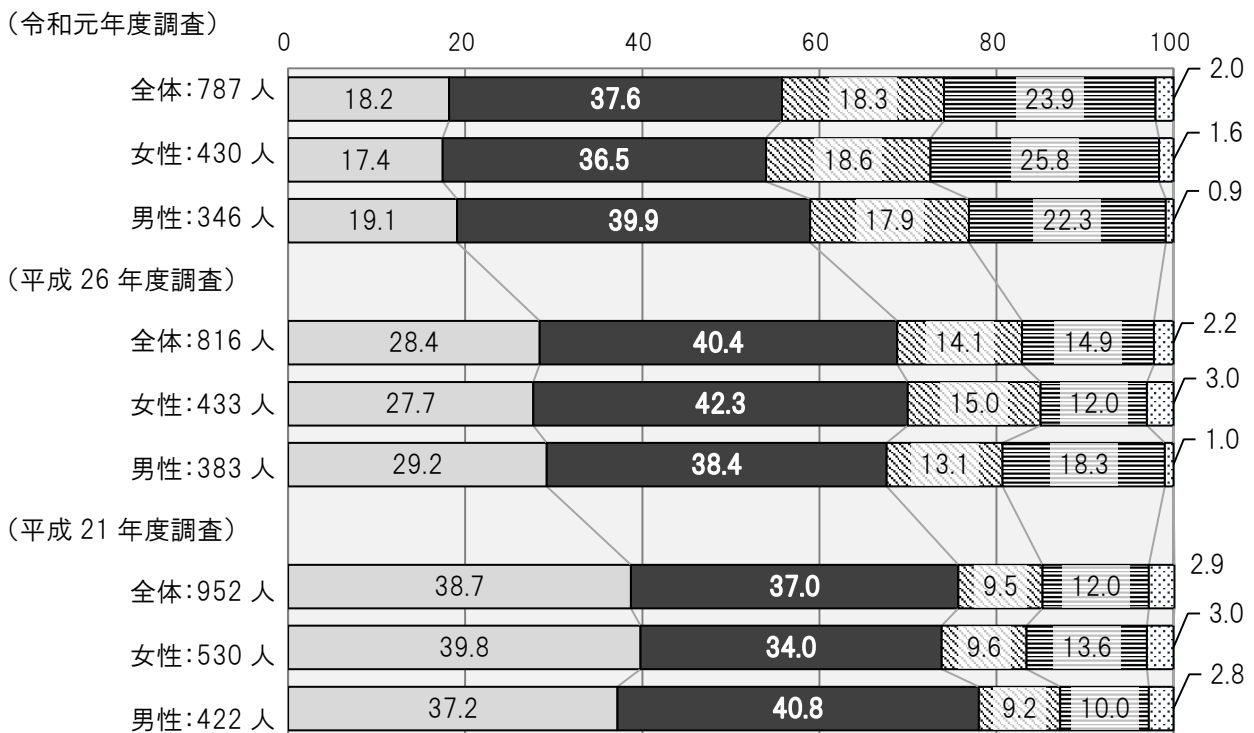
(2) 女性には優しさ、男性にはたくましさが必要である

・「そう思う (18.2%)」、「どちらかといえばそう思う (37.6%)」の肯定的に考える人の計は 55.8%、「そう思わない (23.9%)」、「どちらかといえばそう思わない (18.3%)」の否定的に考える人の計は 42.2%で、肯定的に考える人の割合が 5 割を超えている。

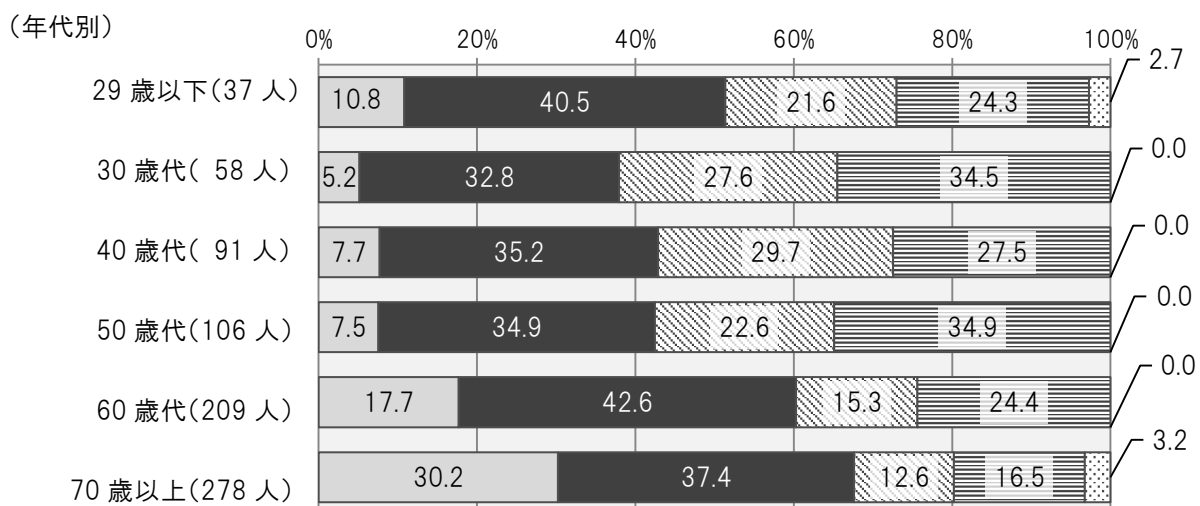
・H26 年度調査と比較すると否定割合が 13.2 ポイント増加 (否定計 29.0%→42.2%) しており、「男女の役割や平等意識」を問う項目の中で、変動幅が一番大きくなっている。

・年代別では、29 歳以下と 60 歳以上の年代で肯定意識が高くなっているが、30 歳代から 50 歳代では否定意識が高い。前回調査と比較して、40 歳代では否定意識が 20 ポイント増加 (否定計 37.0%→57.2%) している。

女性には優しさ、男性にはたくましさが必要



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▤思わない ▧無回答



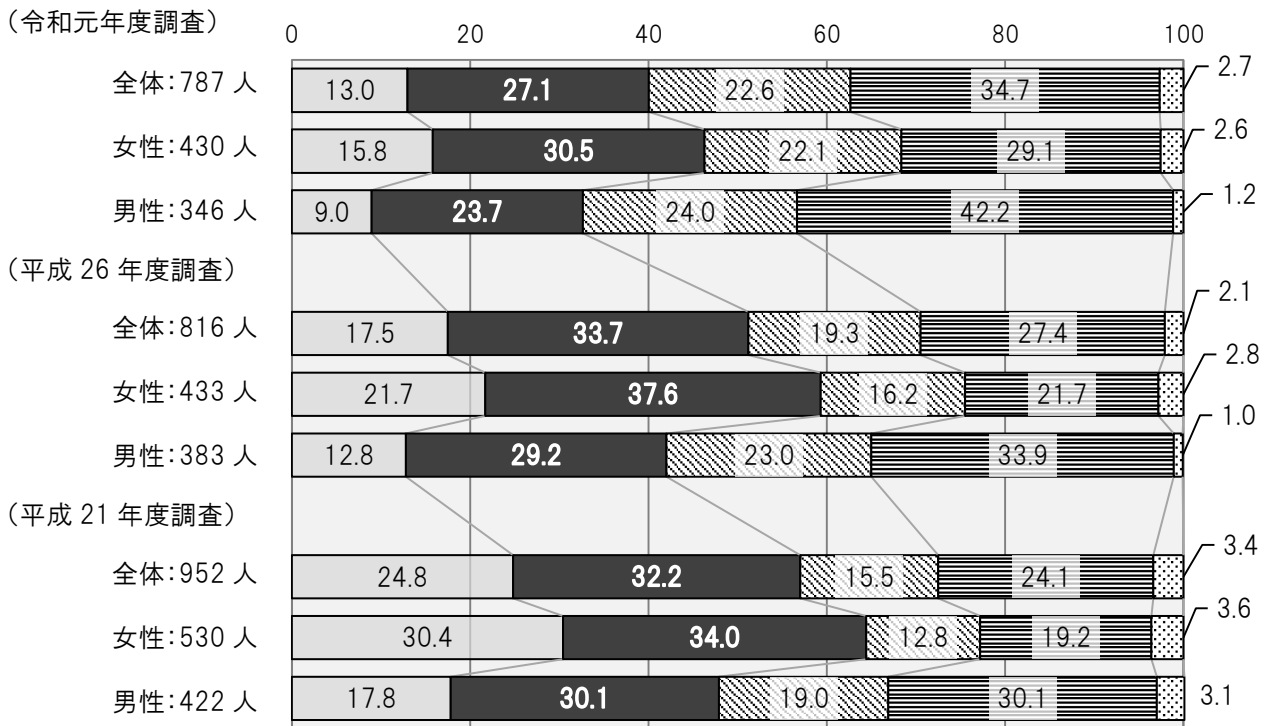
(3) 自治会やPTAの会長は男性の方がうまく運営できる

・「そう思う (13.0%)」、「どちらかといえばそう思う (27.1%)」の肯定的に考える人の計は40.1%、「そう
 思わない (34.7%)」、「どちらかといえばそう思わない (22.6%)」の否定的に考える人の計は57.3%で、否
 定意識はH26年度調査 (46.7%) より10.6ポイント、H21年度調査 (39.6%) より17.7ポイント増となっ
 ている。

・女性の否定割合を比較すると、H21年度調査 (32.0%)、H26年度調査 (37.9%) であったが、今回調査で
 は51.2%と初めて半数を超えた。しかし男女の意識差は依然として大きく、前回調査と同じ傾向にある。

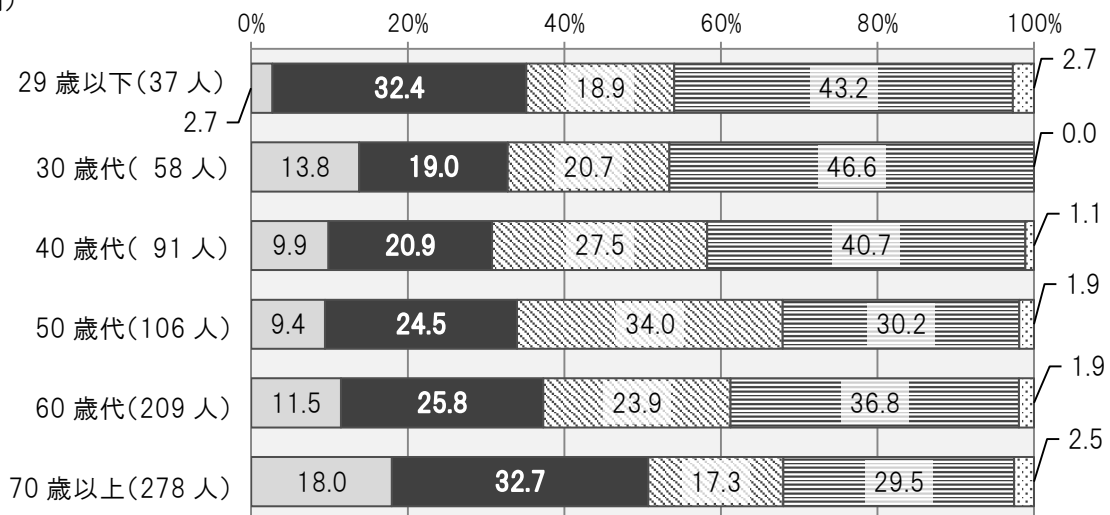
・年代別では、70歳以上世代を除く全ての世代で否定的に考える人の割合が6割を超えている。

自治会やPTAの会長は男性の方がうまく運営できる



□そう思う ■どちらかといえばそう思う ▨どちらかといえばそう思わない ▩思わない □無回答

(年代別)

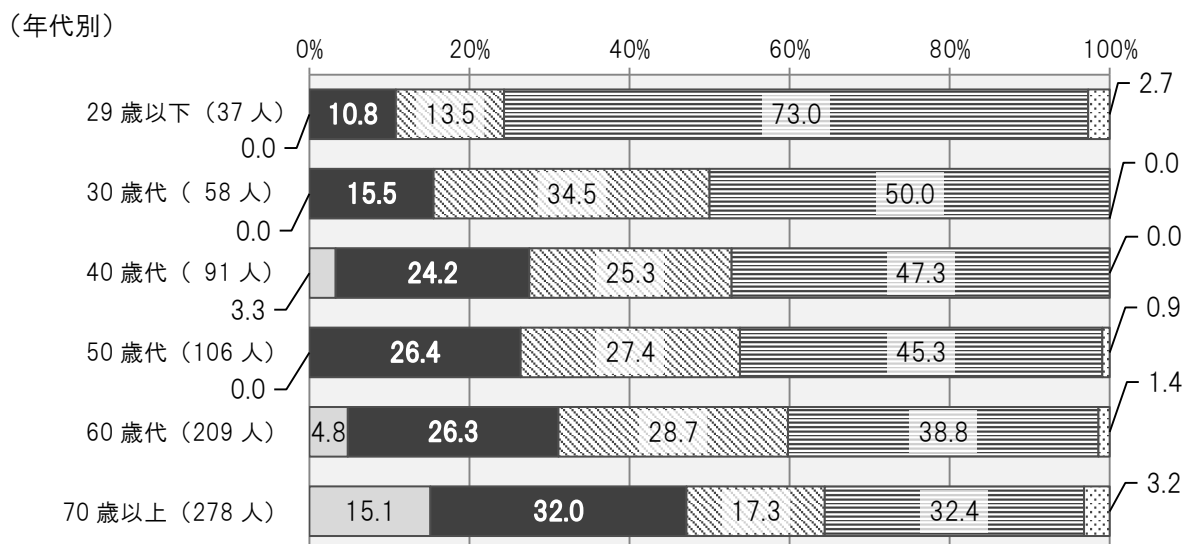
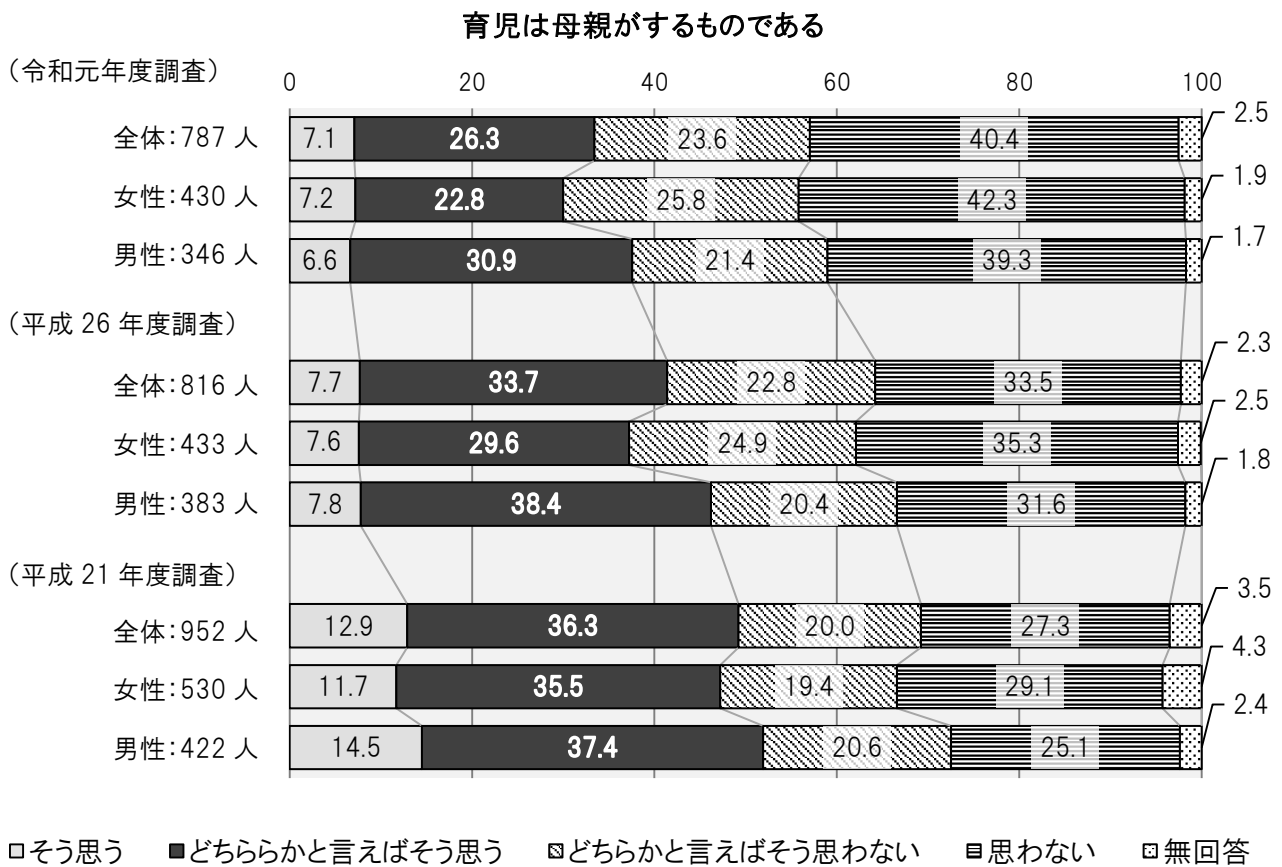


(4) 育児は母親がするものである

・「そう思う (7.1%)」、「どちらかといえばそう思う (26.3%)」の肯定的に考える人の計は 33.4%、「そう
 思わない (40.4%)」、「どちらかといえばそう思わない (23.6%)」の否定的に考える人の計は 64.0%と肯定的
 に考える人の割合が H26 年度調査 (56.3%)、H21 年度調査 (47.3%) と比較して低くなっている。

・性別で見ると、今回調査と H26 年度調査では同様の傾向にあるが、H21 年度調査と比較すると、男性の否
 定意識 (H21 年度調査 45.7%→令和元年度調査 60.7%) は 15 ポイント増えており、この 10 年で男性の育児
 に対する意識にも変化が見られる。

・年代別では、全ての年代で否定意識の割合が 5 割以上を示しているが、70 歳以上の否定意識の割合は他の
 年代と比較すると低くなっている。

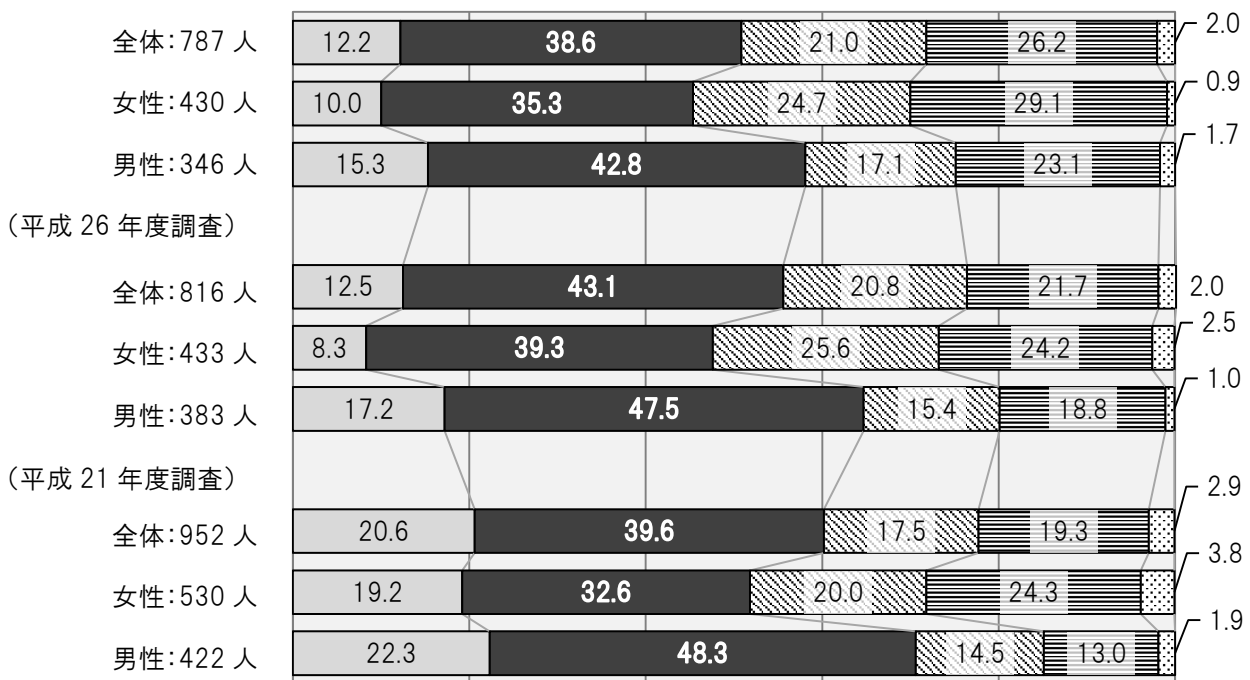


(5) 家事・介護は女性の方がむいていると思う

- ・肯定割合 50.8%、否定割合 47.2%と、全体で比較するとその差は大きくないが、性別で比較すると女性より男性の肯定意識が高く、12.8ポイント差となっている。H21、H26 年度調査と同様の傾向にある。
- ・年代別では、29 歳以下で否定意識が 70.3%であったのに対し、70 歳代以上では否定意識が 31.6%と大きな差があった。また、40 歳代、60 歳代、70 歳代以上の否定割合が高くなっている。

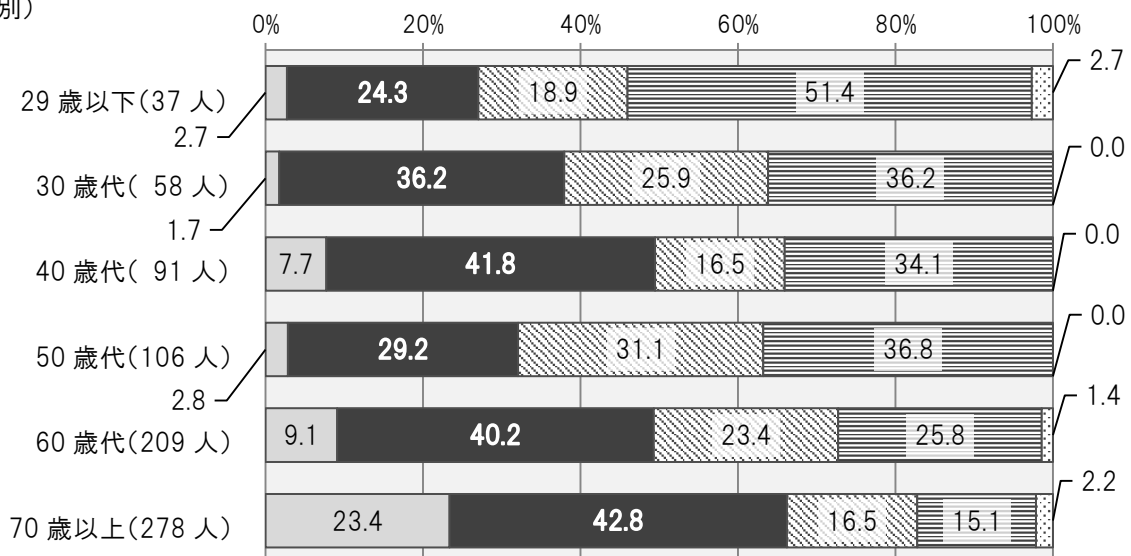
家事・介護は女性の方がむいていると思う

(令和元年度調査)



□そう思う ■どちらかと言えばそう思う ▨どちらかと言えばそう思わない ▩思わない □無回答

(年代別)



問2. 次の各項目の男女の地位の現状についてどのように思われますか。あなたの気持ちに最も近いものに○印をつけてください。

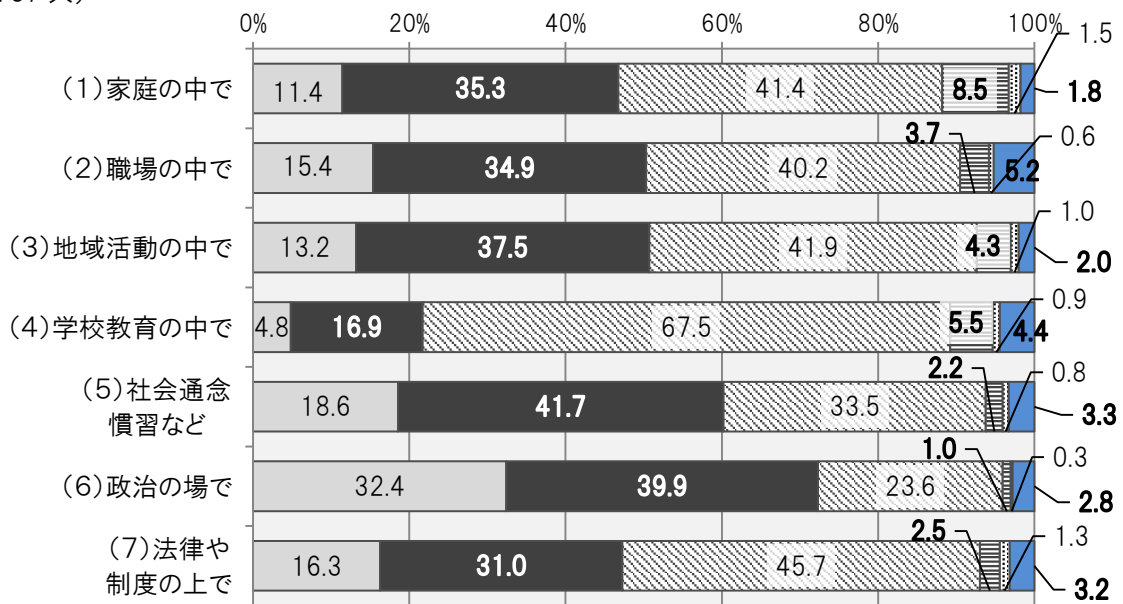
・男女の地位の現状について「平等」と回答した割合が高かったのは「学校教育の中で (67.5%)」、「法律や制度の上で (45.7%)」、「地域活動の中で (41.9%)」、「家庭生活の中で (41.4%)」となった。

・「男性が優遇」及び「やや優遇」を合計した男性の優遇を感じる割合は「政治の場で (72.3%)」が最も高く、次いで「社会通念、慣習など (60.3%)」、「地域活動の中で (50.7%)」、「職場の中で (50.3%)」となっている。

・男性の優遇感を性別に見てみると、**全ての分野で女性の方が男性よりも『男性の優遇』を感じている割合が高い。**特に「法律や制度の上で」は23.5ポイント差（女性58.2%、男性34.7%）と性別で大きな開きがある。次いで、「地域活動の中で」17.2ポイント差となっている。

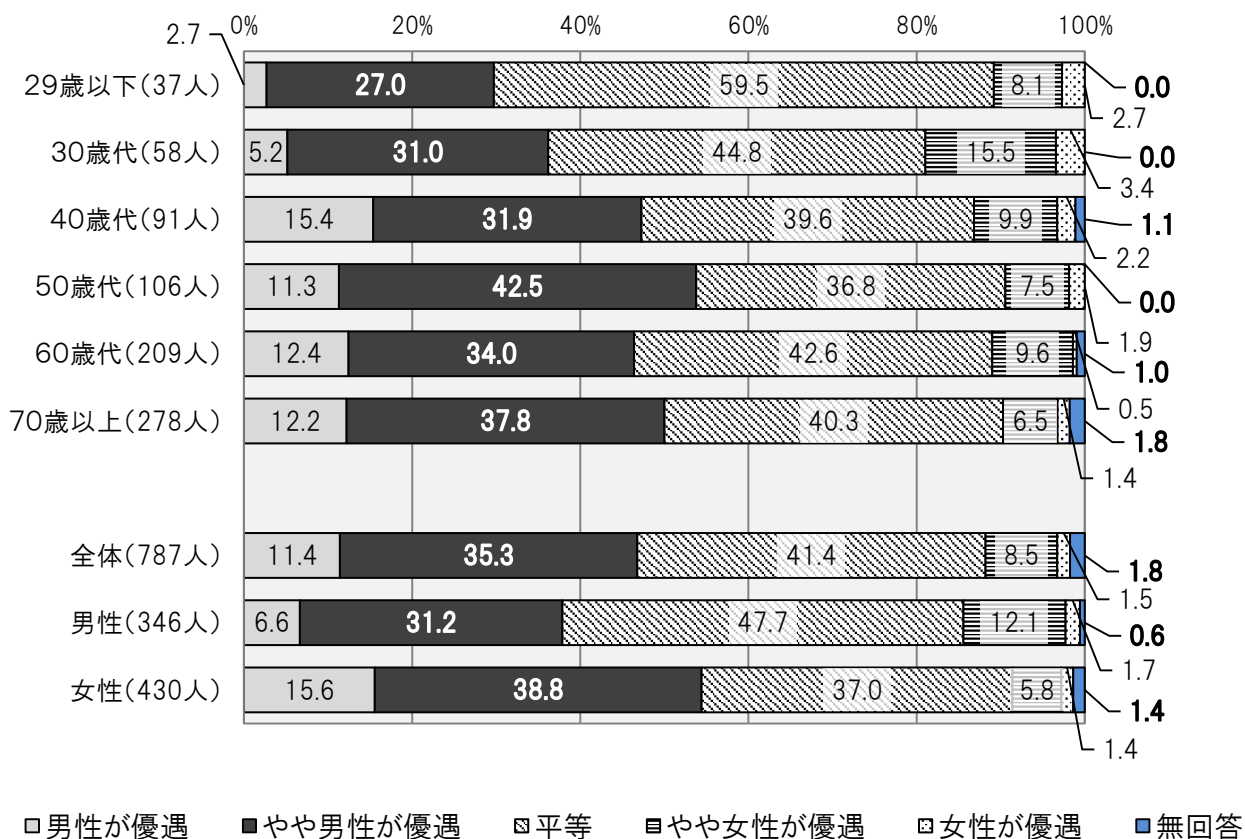
・年代別に見ると、「家庭の中で」「職場の中で」「地域活動の中で」では、他の年代と比較して29歳以下と30歳代で「平等」の割合が高くなっている。また「社会通念・慣習」の分野では、70歳以上で「男性が優遇 (29.8%)」と最も高い一方、「平等 (58.4%)」の割合も最も高くなっている。

(n=787人)

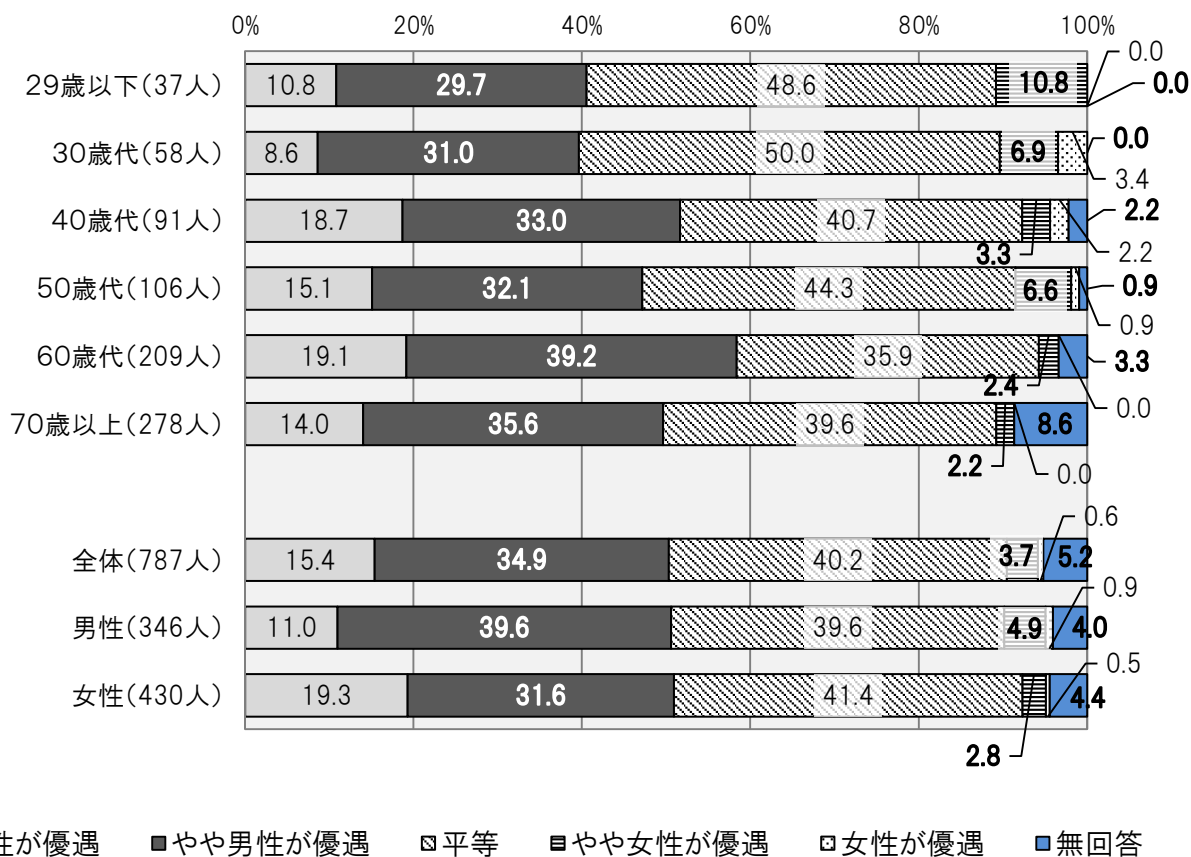


□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 ▪女性が優遇 ■無回答

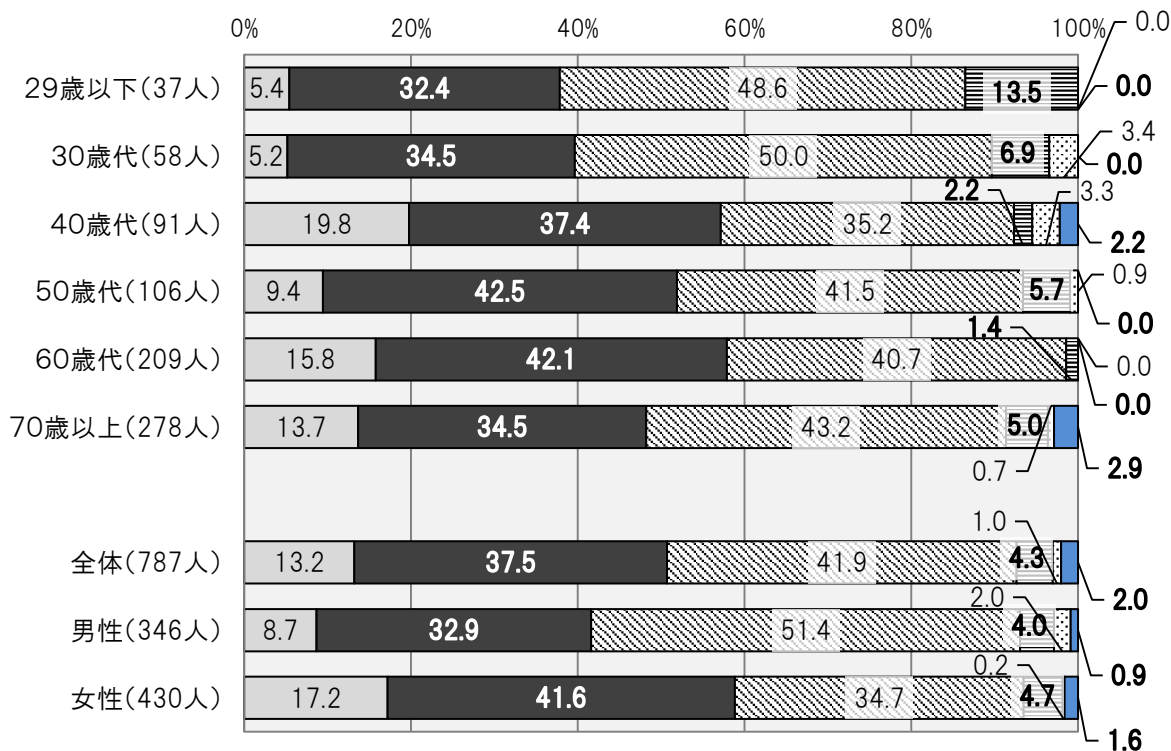
家庭の中で(年代別・性別)



職場の中で(年代別・性別)

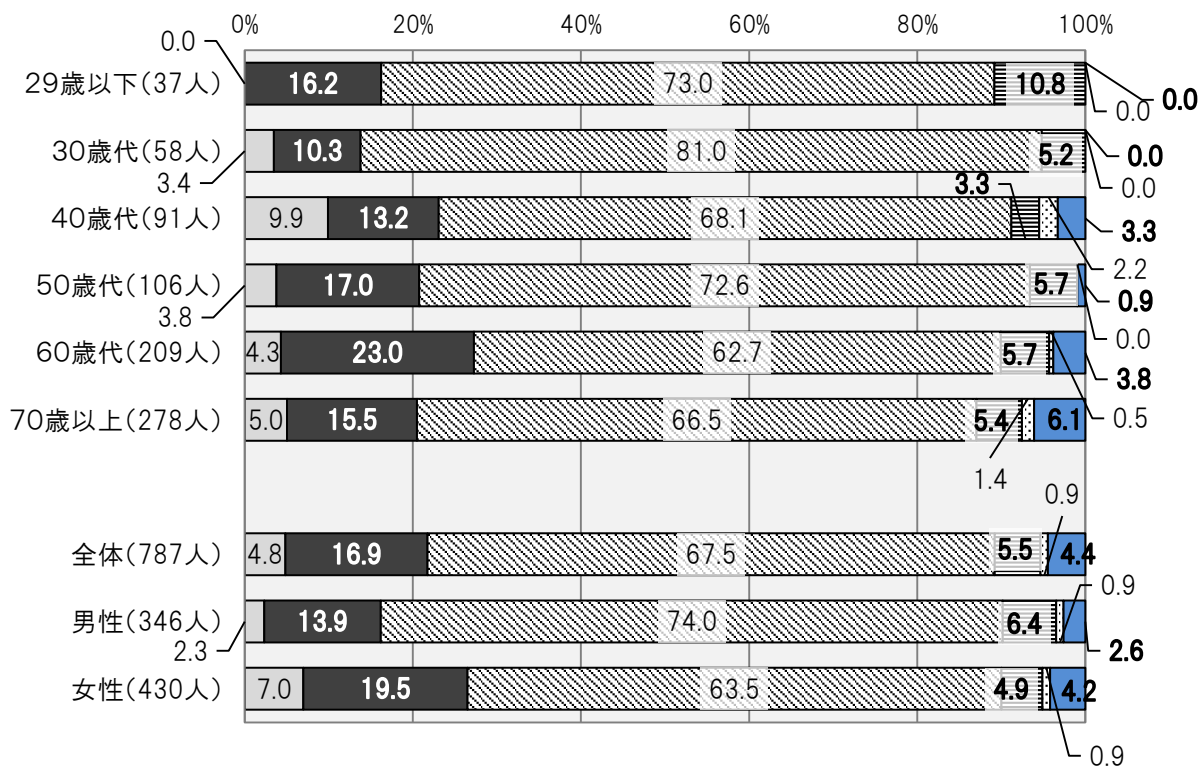


地域活動の中で(年代別・性別)



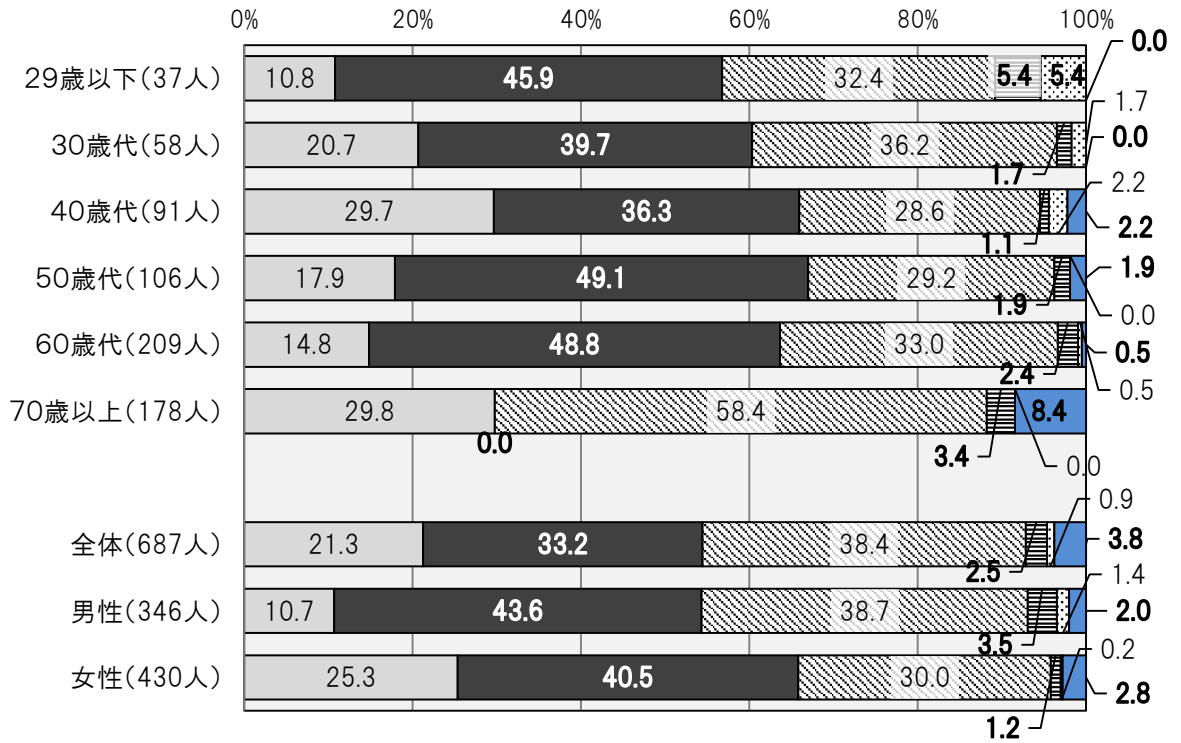
□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 □女性が優遇 ■無回答

学校教育の中で(年代別・性別)



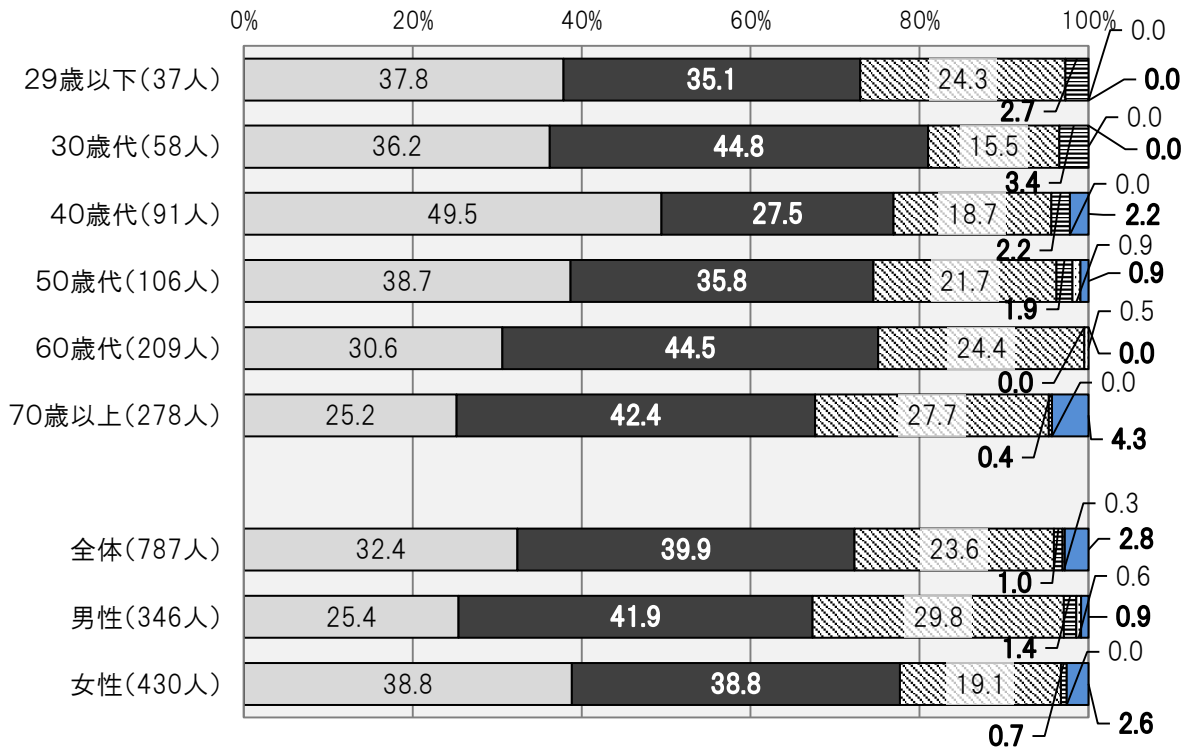
□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 □女性が優遇 ■無回答

社会通念・慣習(年代別・性別)



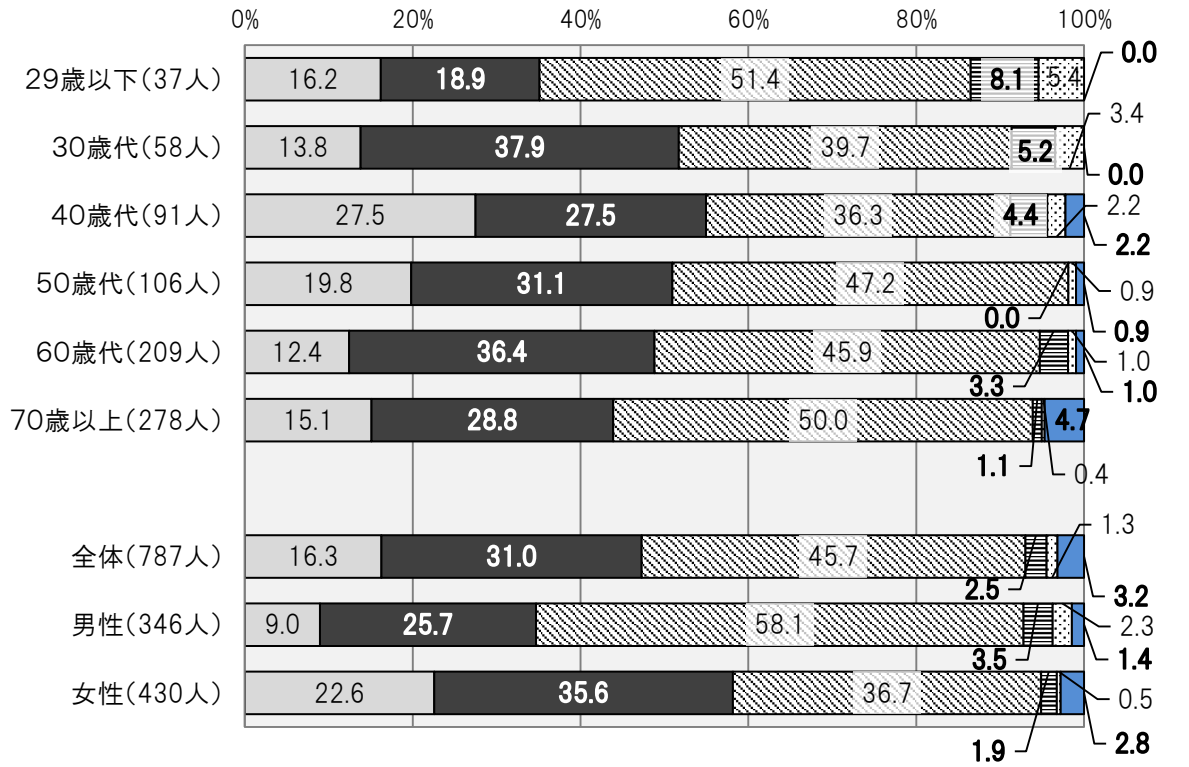
□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 ▤女性が優遇 ■無回答

政治の場(年代別・性別)



□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 ▤女性が優遇 ■無回答

法律・制度の上で(年代別・性別)



□男性が優遇 ■やや男性が優遇 ▨平等 ▩やや女性が優遇 □女性が優遇 ■無回答

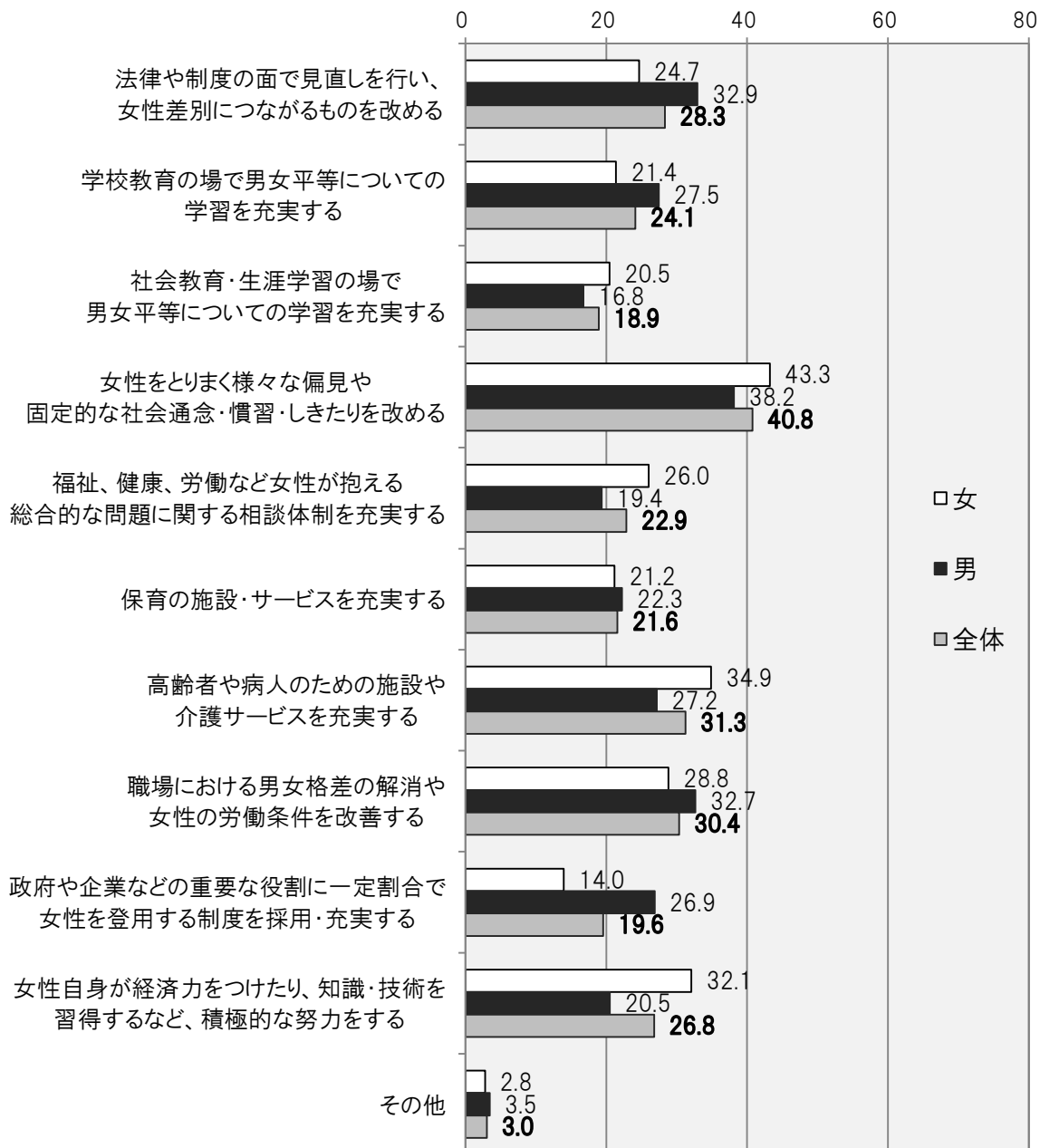
問3. 今後、男女が様々な分野で平等になるためにはどのようなことが必要だと思われますか。
必要だと思われる項目に○印をつけてください。

・男女が様々な分野で平等になるために、どのようなことが必要だと思いますか（複数回答）については、「女性をとりまく様々な偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める（40.8%）」、「高齢者や病人のための施設や介護サービスを充実する（31.3%）」、「職場における男女格差の解消や女性の労働条件を改善する（30.4%）」となった。

・性別で見ると、「女性をとりまく様々な偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める」は性別問わず**支持**されていた。女性では2番目に「高齢者や病人のための施設や介護サービスを充実する（34.9%）」、男性では2番目に「法律や制度の面で見直しを行い、女性差別につながるものを改める（32.9%）」が支持されている。

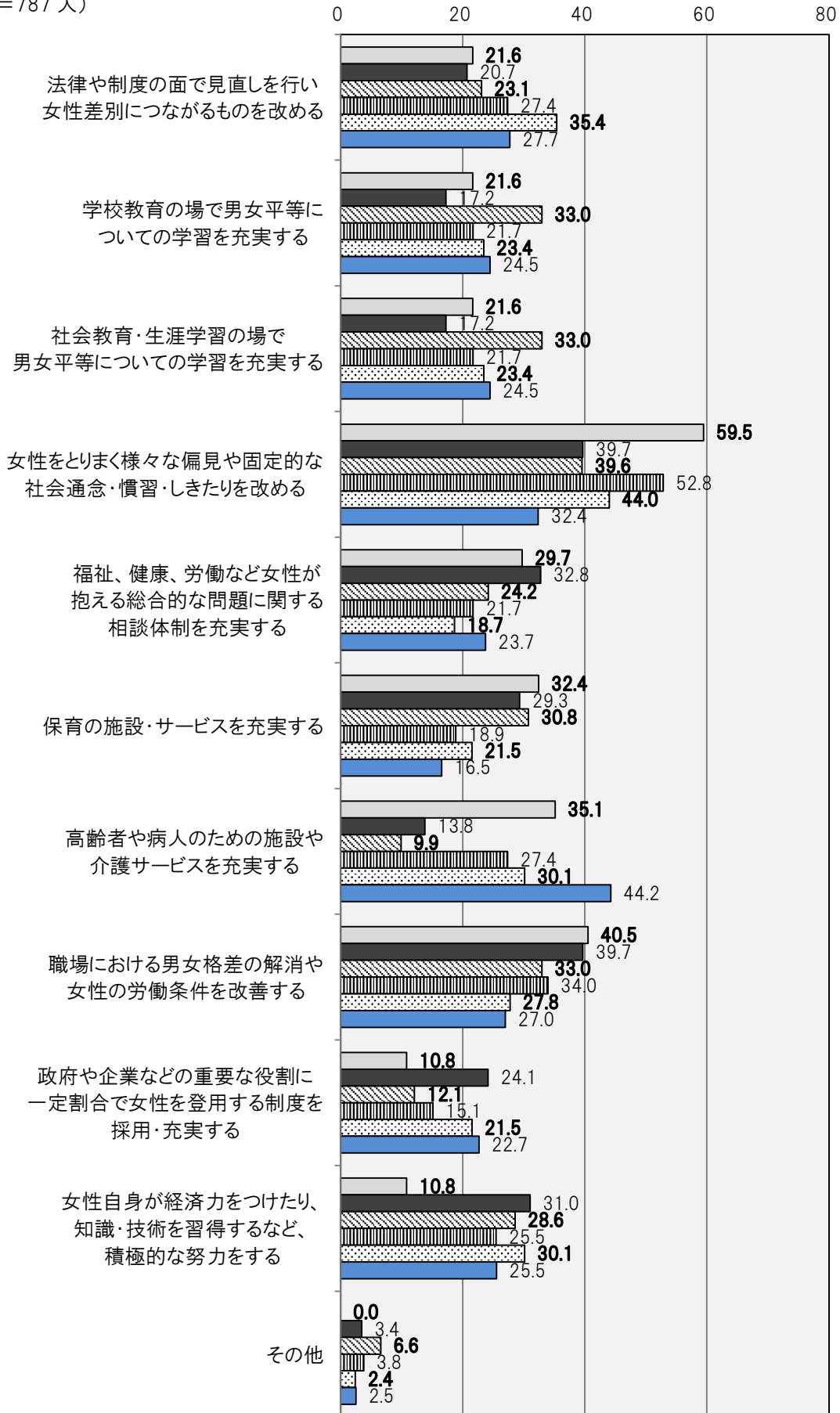
・年代別で見ると、29歳以下の「女性をとりまく様々な偏見や固定的な社会通念・慣習・しきたりを改める（59.5%）」の支持が高くなっている。

(n=787人)



男女が様々な分野で平等になるために必要なこと(年代別)

(n=787人)



□29歳以下 ■30歳代 ▣40歳代 ▤50歳代 ▥60歳代 ■70歳代以上

問3記入欄 回答

出産と女性のキャリア形成のシステムを考える必要がある(キャリアが出産で中断しない様に)。

女性の特性を磨いて活かす。

体力、性格等どうしようも無いところをもっと考慮すべき。何でも平等というのは無理。

女性が働くための環境整備、子育て中なら子どもの病気で休まなくてはならないとか、取りやすい環境。夫婦負担の違い。

選択項目の1～9まですべて必要だと思うが、この中に答えはないような気がする。

高齢者を大事にしすぎる所が(場所ではない)あると思う。寝たきり等より未来ある子どもの教育。現在の教育者を教育しなければならないニュースを聞いたたび道徳を考えます。私の子どもの頃は国語本の終わりに「竹取物語」「笠地蔵」「つるの恩返し」等がありました。

全ての分野で平等など無意味 なぜそこまで平等にこだわるのか理解しがたい。性別がある以上平等などありえないと思う。男女それぞれ能力や特性があるのだからそれを活せばいいのでは？

日常生活での家族の協力が平等をつくと思う。

パートナーや家族の理解。

生まれ持った男女の差、環境を元に平等に近づける。

女性の政治家が少ない(諸外国と比較しても)。もっと増えたら良いと思う。

10. の「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的な努力をする」が大事だと思うが、女性だけでは難しいので支援が必要である。

みんな人間というお互いを尊重する気持ちを持つ。

男、女それぞれ役目があるのでいちがいに平等はおかしい。男に子どもは生めない。何もかも平等は社会主義国である。良くない。

人それぞれ、無理に差別と言わなくても良い。

男性の女性に対する意識改革。

経済が生活における子育てその他配慮の必要な事項を男女がバランス良く役割分担を考えつつ家庭生活なり職場環境を整えることが求められる時代。

女性は女性の強みを活かせる場を作るべき。

もう動けなくなりなにも出来なくなった者からいわせていただくと今はもう女性男性という区別はなくなりつつあると思います。私自身もよくわかりません。

女性男性差別があるんですか？よくわかりません。

大部分の女性は”平等”を求めるより、パートナーや家庭内での理解、協力、支援を必要としているように思います。

安倍政権をやめさせる。

意識改革。

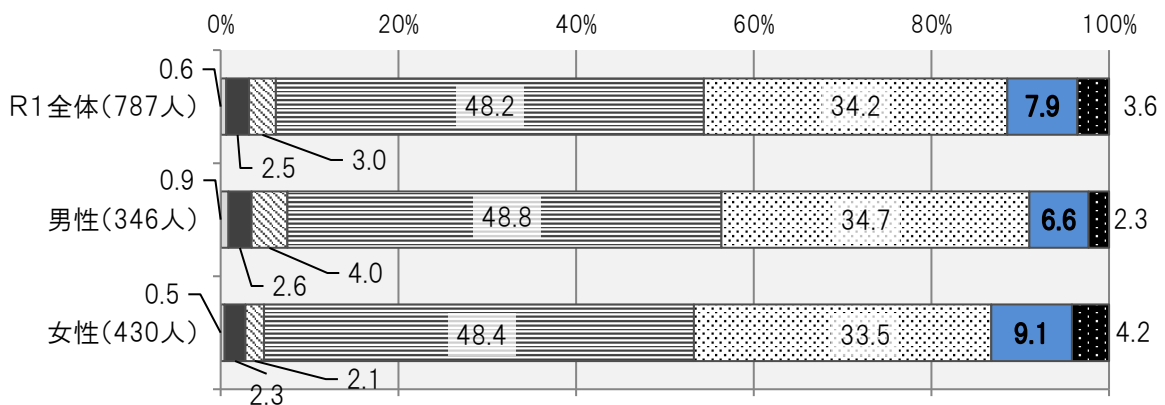
■ 女性と仕事に関することについて

問4. 一般的に女性と仕事について、あなたはどのように思われますか。

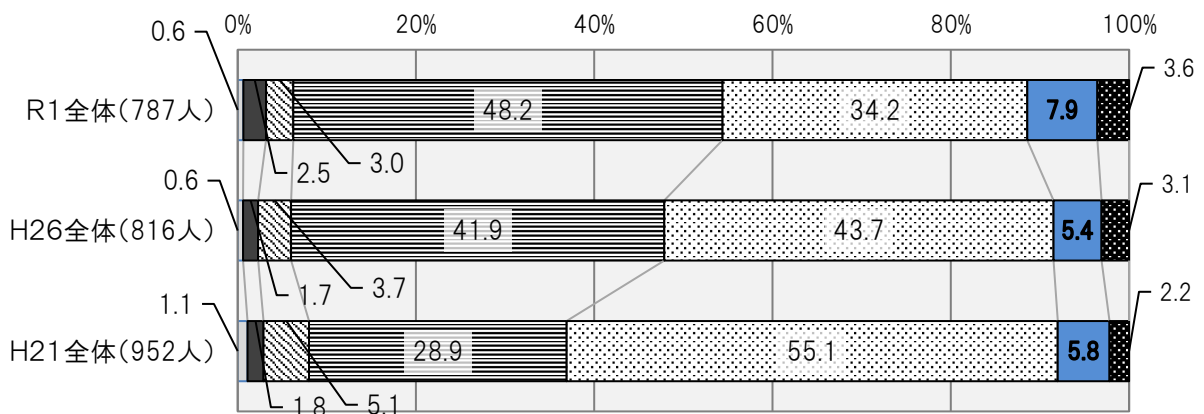
・「子どもができてもずっと仕事を続ける方がよい (48.2%)」の「**就労継続型**」の割合が最も高く、次いで「子どもができたなら仕事を辞め、子育てが落ち着いた頃に再び仕事に就く方がよい (34.2%)」の「**中断・再就労型**」が支持されている。

・H21、H26 年度調査と比較すると、「**就労継続型**」の支持率は実施ごとに高まり、対照的に「**中断・再就労型**」の支持率は低下し、今回調査で逆転している。

・H26 年度調査では女性の「**中断・再就職型**」の支持率が高かったが、今回調査では性別による差は少ない。
 ・年代別では大きな差は見られないが、40 歳代以下で「その他」の割合が高くなっている。「その他」の内容としては、「本人の意思による」という回答が多かった。また、「仕事をしない」「結婚するまで・子どもができるまで仕事を続ける」は一定数支持されているが、70 歳以上で支持されている割合が高い。

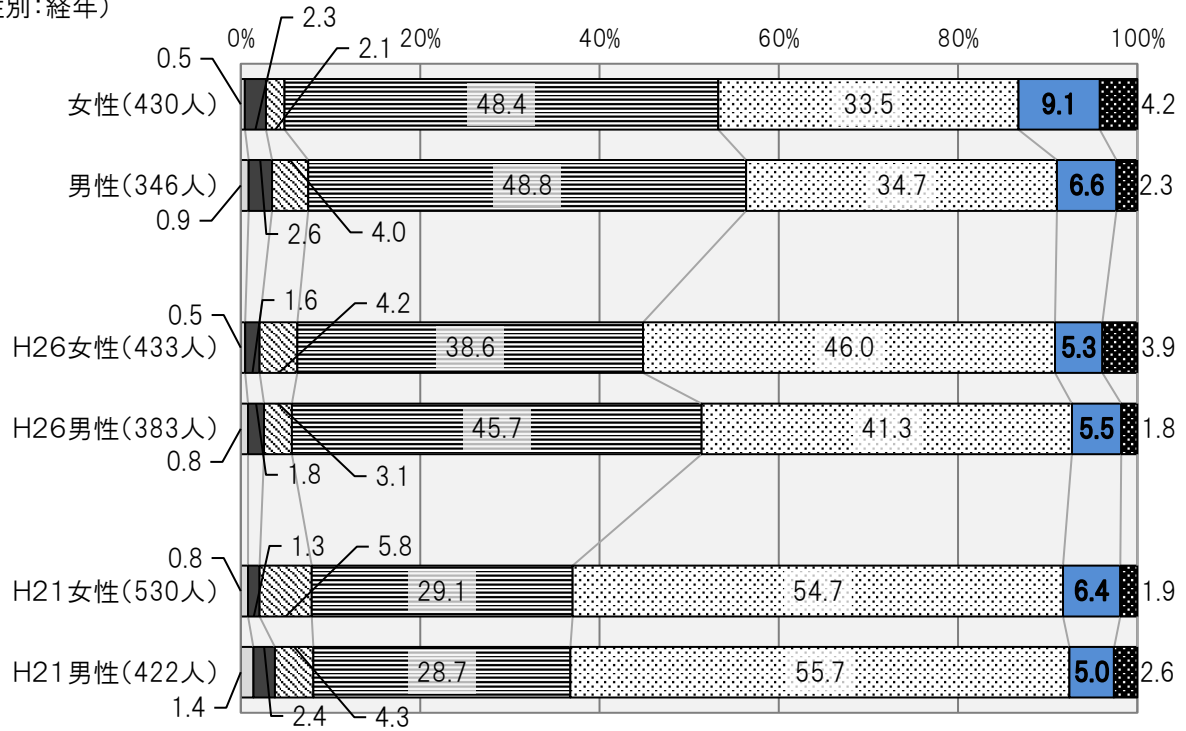


女性と仕事について



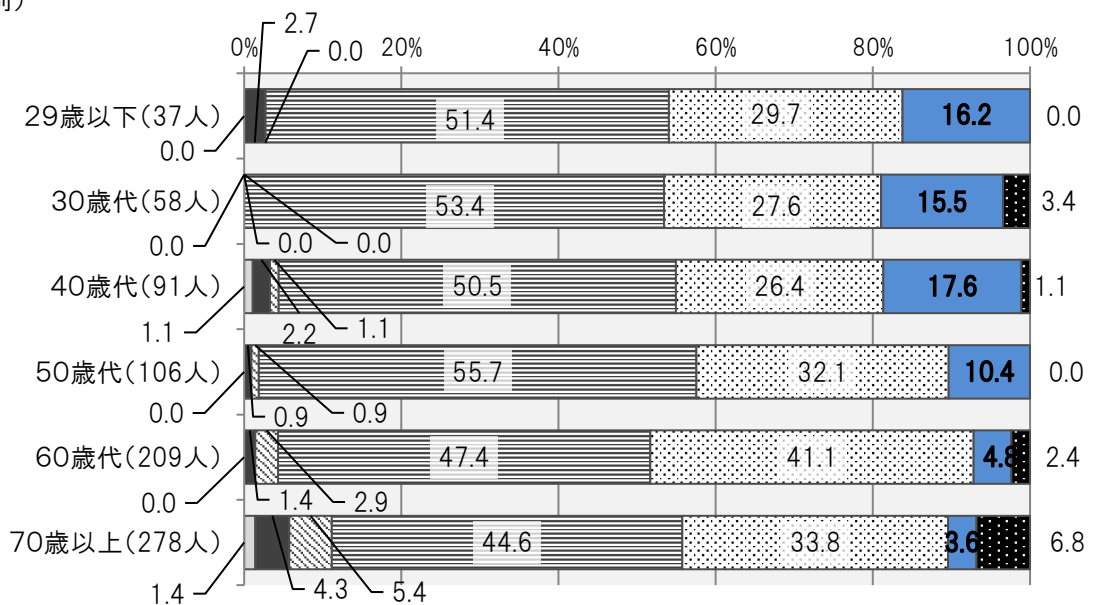
- 女性に仕事につかない方がよい
- 結婚するまで仕事を続ける
- 子どもができるまでは、仕事を続ける
- 子どもができてもずっと仕事を続ける
- 子どもができたなら仕事を辞め、子育てが落ち着いた頃に再び仕事に就く
- その他
- 無回答

(性別：経年)



- 女性は仕事につかない方がよい
- 結婚するまで仕事を続ける
- ▨ 子どもができるまでは、仕事を続ける
- ▩ 子どもができてずっと仕事を続ける
- ▧ 子どもができたなら仕事を辞め、子育てが落ち着いた頃に再び仕事に就く
- その他
- 無回答

(年代別)



問4記入欄 回答
乳幼児期に一定期間子どもと過ごせるのが良い(仕事は続けるが)。
本人の意思次第。
生活・子育て等可能であれば何でも良い。
個人の自由。状況にもよる。
家庭に合ったやり方でよいと思う。
状況によりかわると思うし、人それぞれ。
仕事の内容にも経済的にもよるので、また、子どもが出来にくい人もあるのでそれぞれ家庭に応じて考えれば良い。
本人の環境と価値観でよいと思います。
生活環境の違いでした方がよい人もいればなくてもよい人もいる。よって何ともいえない。
収入が少ないから共働きは当たり前では。
好きにすれば良い。
人それぞれだと思う。
家庭全体の収入など人によってちがうので。
働く意思があるのなら働き続けるべきだと思う。子どもができたなら夫婦でより良い方法を考える。
子どもができて仕事は続けるが勤務時間等優遇が必要と思う。
本人の意志によるものだと思う、子育てに専念したいならそれを選択すべき。
本人が決めればよいと思う 他人が口出すことではない。
その人、夫、家庭の状況、理解によるので一概には言えない。
それぞれの理由があると思うので「よい」「よくない」は決められない。
その現場、立場で様々有ると思います。お互いよく話合って決めることが大事と思う。
仕事をするしない、どちらがよいというわけではなくどちらかであっても、それを選択できる社会がよいと思う。
それぞれのやり方でいい。
4. の「子どもができてずっと仕事を続ける方がよい」が理想だが、それができる環境が整っていない。
家族を大切にできる職場選びが好ましい。
続けたい人は環境に関わらず続けるべき。
女性だからという価値観ではなく個々のタイミングで仕事との付き合い方は変わるもの。
独身のとき、結婚した後、子どもを産んだ後、子どもが手を離れた後などで臨機応変に働ければよい。
好きにしたらよい。
人それぞれだと思う。
仕事をした方が良いが、子供が小さいうちは産休を取り育てるべき。
女性の意志を尊重し仕事を続けさせる。意欲のある人はすることが望ましい。
個人の価値感が優先だと思う。
3才位まではなるべく親と一緒にでありたい。子供の気持安定のため。
女性と言っても、個人個人で能力・性格が異なるので、一概に言えない。
する、しないは本人の自由、あとはパートナーの経済力。
どちらでも良い！
本人の意思によって、やるやらないを決めれば良いと思う。
子育ても仕事も両立できるよう就労時間短縮や経済的助成を見直して欲しい。

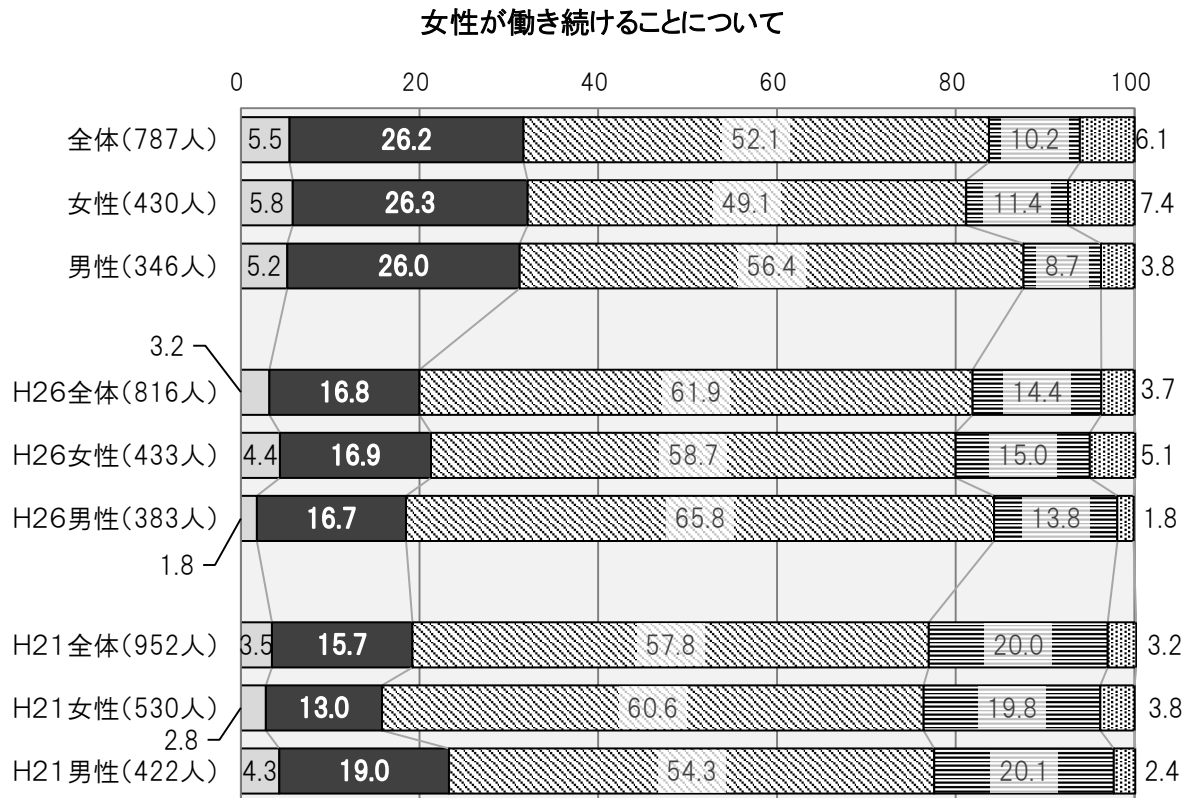
それぞれ家族の事情があるので、自分で決める。
家庭による。
女性も自ら進出できる環境の整備が必要。
人による。性差として女性が家事に向いているのは事実。
子どもができて男女どちらでも融通のきく職場がほしい。
育児休暇を充実し、3歳までは家で育児(直接)し、その間も給料がもらえるような体制があってほしい。
その家庭で話し合いで決めればよいこと。
子供の問題だけでなく、親等の介護が必要になった場合も仕事が続けられる方がよい。
人それぞれ自由に選択できる社会が必要。
本人の意思で、選択が可能にできるような社会にする。
好きな生き方をすればよい。
その人の価値感、考えでよい。
育児や緊急事態に対応できる環境が整っていれば仕事は続けられる。
産休、育休をとりやすい職場を増やし仕事をつづける。
生活の為、働かざるをえないと思う。
それぞれの女性が自分の望む生き方を理解し支援する。
各家庭で決めれば良い。
その時の状況で判断すればいい。
若い方にもうゆずるしか私には考えられません。
その方の考えで決められたらよいと思います。
当事者の希望が優先。各個人、家庭内で決めればよいと思います。
個々の環境や性格によるので、これが良いというのはないが、仕事に就けるチャンスが常にあるべき。
家庭の事情によりあらゆる可能性があると思う。

問5. 一般的に女性が働き続けていくことについて、現在どのような状況にあると思われますか。

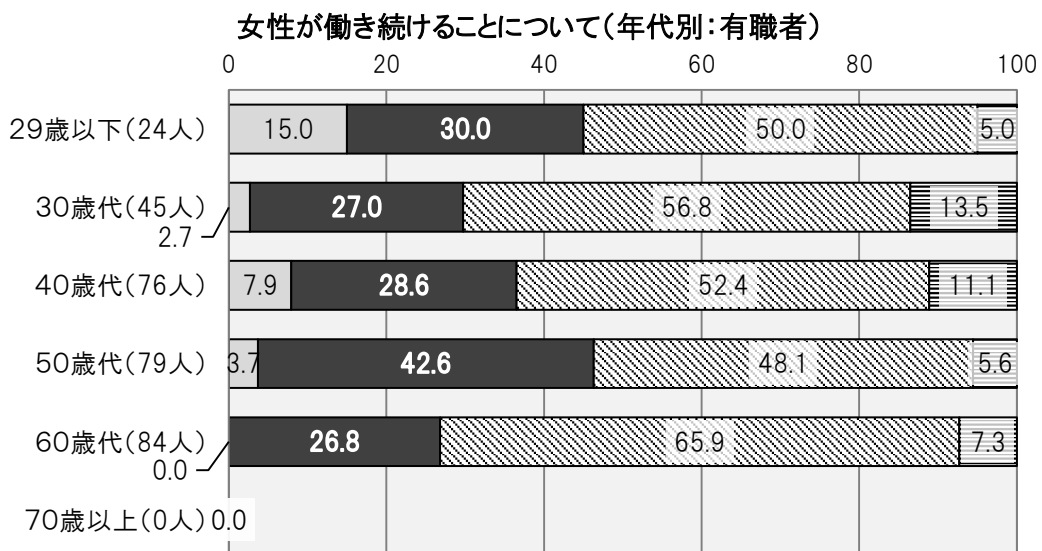
・『働き続けにくい (62.3%)』(働き続けにくい 10.2%、どちらかといえば働き続けにくい 52.1%の計)、『働き続けやすい (31.7%)』(働き続けやすい 5.5%、どちらかといえば働き続けやすい 26.2%の計) となり、全体として 2 : 1 で働き続けにくさを感じている人が多いという結果となった。

・H21、H26 調査と比較すると、『働き続けやすい』は増加しており、改善傾向が見られる。

・有職者 (5. 会社員、6. パート等) のみを抽出してみると、『働き続けにくい』は 60 歳代で 73.2% と最も高く、次いで 30 歳代 70.3%、40 歳代 63.5% となっており、子育てや介護などを負担する時期と重なる世代では『働き続けにくい』という割合が高くなっている。



□働き続けやすい ■どちらかといえば働き続けやすい ▨どちらかといえば働き続けにくい ▩働き続けにくい ◻無回答

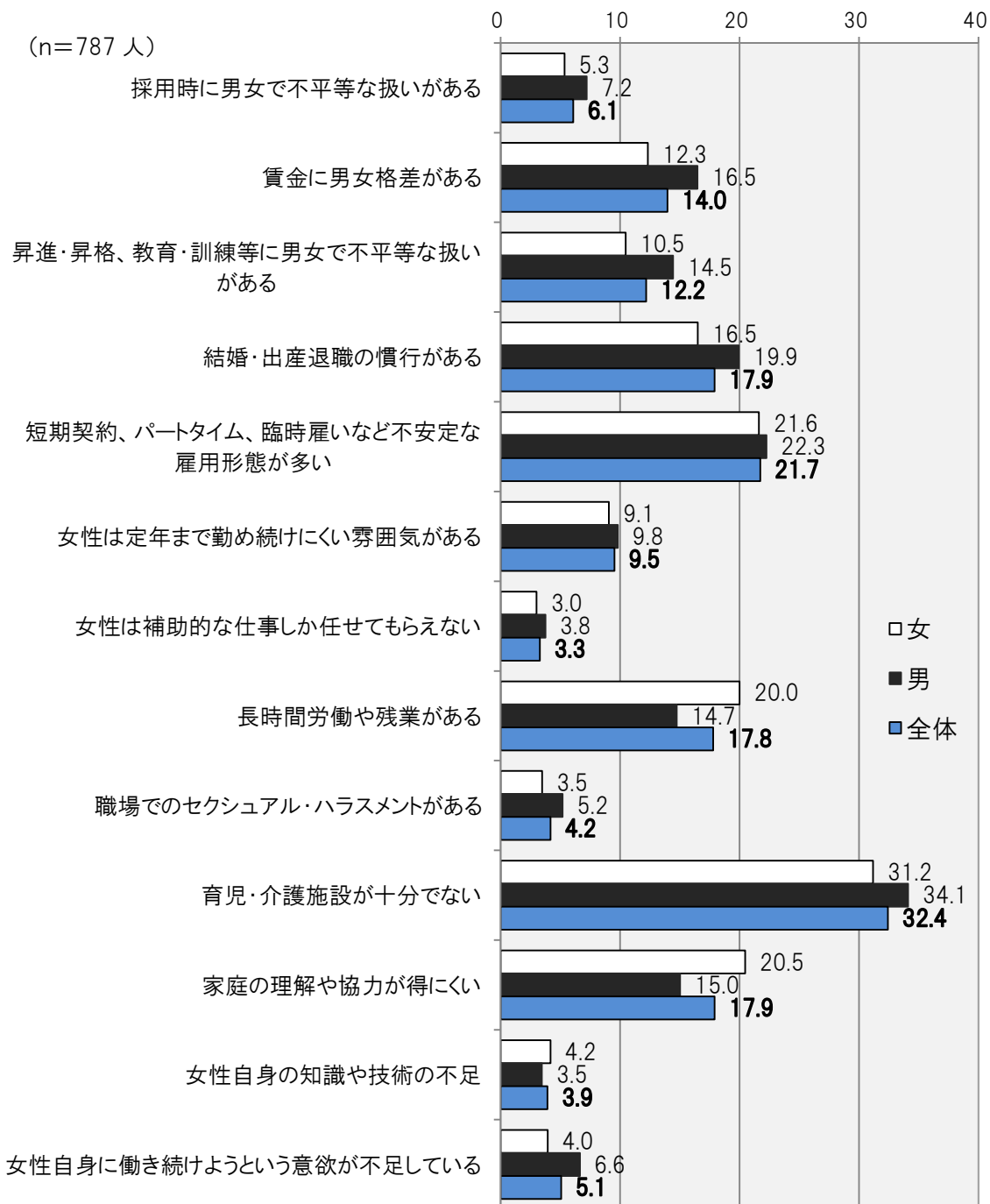


問5-1. 女性が働き続けていく上で、障がいとなっているのはどのようなことだと思いますか。

・「どちらかといえば働きづづげにくい」「働きづづげにくい」と回答した人へ、障がいとなっていることは何かと質問（複数回答）したところ、「育児・介護施設が十分でない（32.4%）」「短期契約、パートタイム、臨時雇いなど不安定な雇用形態が多い（21.7%）」となった。

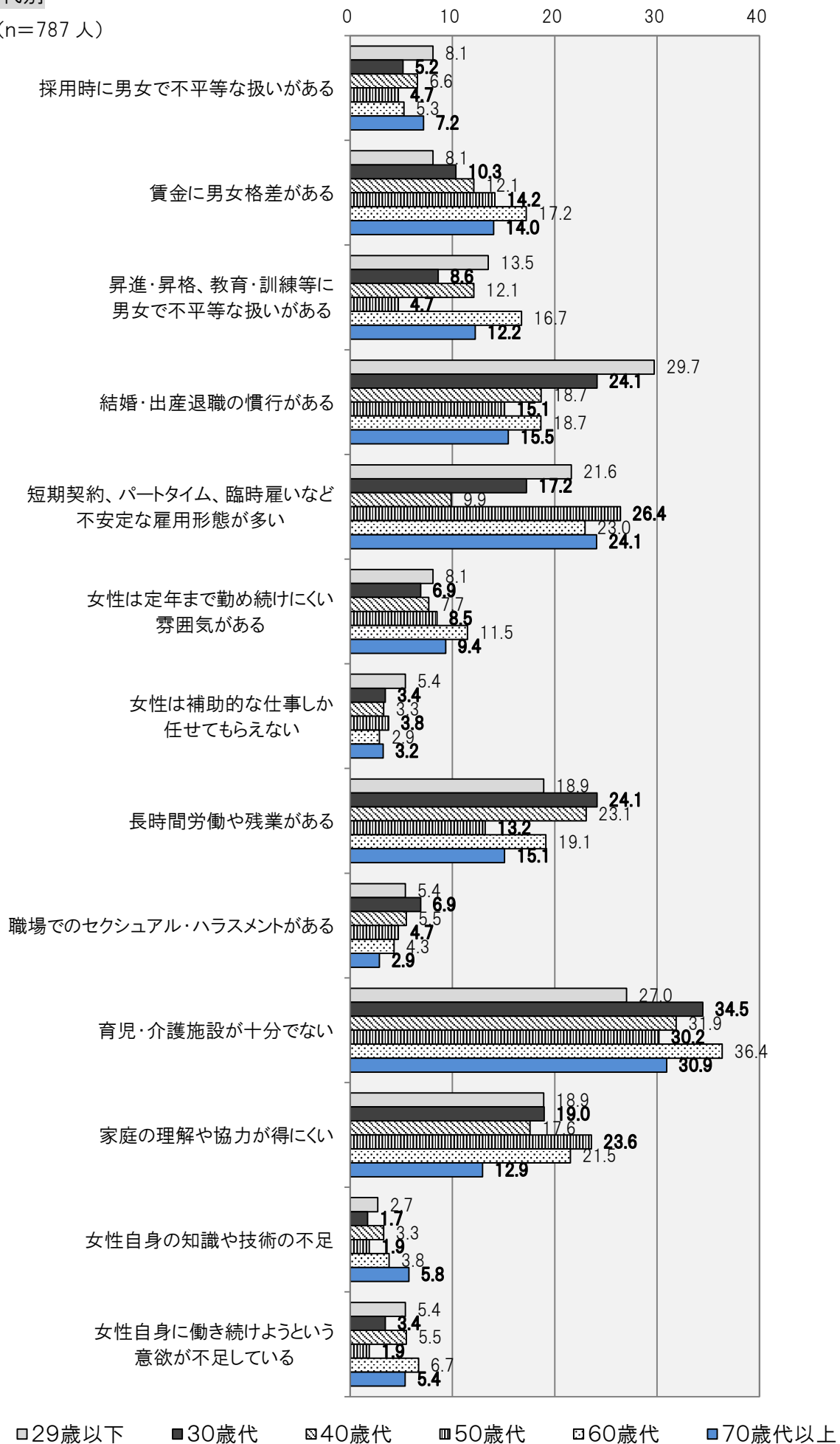
・性別では「長時間労働や残業がある」「家庭の理解が得にくい」について、男性より女性の支持率が高くなっている。

・年代別で見た場合も、全ての年代において「育児・介護施設が十分でない」の支持率が高く、また前回調査においても高い割合を占めていたことから、育児・介護施設については重要な課題であると考えられる。



年代別

(n=787人)



問5-1 記入欄 回答

未婚や子どもがいなければ人として未熟、半人前とレッテルを貼られ、子どもがいれば子育て、学校行事や子どもの病休は女性がするもの、という暗黙のルールがあるように思うから。

選択肢が3つまでというのはどうかと思う。

育児、介護、仕事となると職場の理解が大切となってくる。

行政的支援体制がおそまつ！！

育児休業から復帰する時のフォローアップなど復帰しやすい体制整備。

人間関係。

子どもの為に仕事時間を減らしたり、休む事もしたいが、申し出にくい。お金が必要なので働きたいが、こういう事があると、いっそ仕事はしないでおこらう・・・という考えになってしまう。

職種によって違いがあると思われるので何とも言えない。

子育てや家事と仕事、どちらも中途半端だと悩む。

高齢者でも体力に自信がある者特に女性に職場を開いてほしい。

夫の転勤。

何かあると女性が動かなければならない状況や環境。

仕事先が少ない。

親の介護で施設にあずけるには負担が多い為仕事をやめてしまう。

職場の男性の女性への理解の不足(身体的な体調等の配慮)。

非常に厳しい内容の現実があり管理職の基本的な人権の理解が低い事業所もあると思う。

今ごろの女性は割り切って自分でいろいろ判断されて良くやられているように思います。

産休、育休利用時のフォローが十分でない。

現在の経済社会を担うのに適した性格の女性が少ない。

女性も男と女は同じ平等な立場になることをもっと認識すべき。

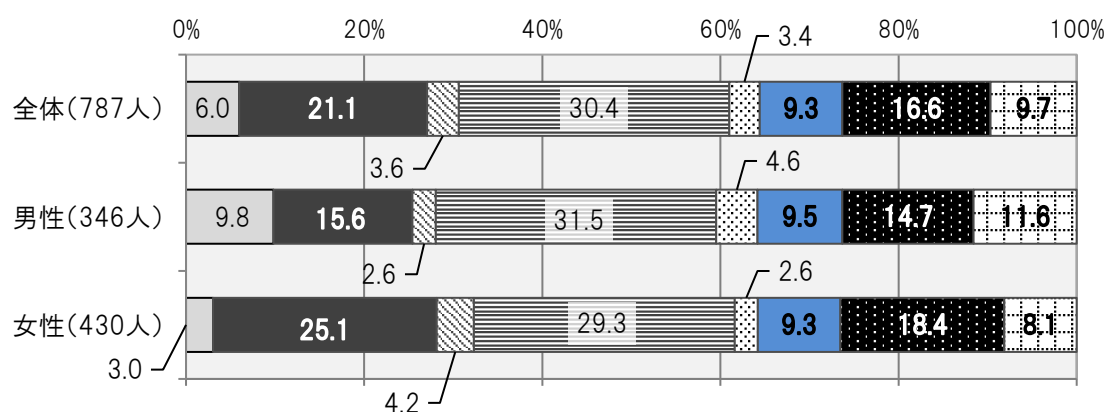
■ 仕事、家庭生活、地域活動や個人の生活に関することについて

問6. 生活の中での、仕事と家庭生活または地域活動（学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどを含む）や個人の生活の優先度について、お聞かせください。

(1) あなたの希望に最も近いものはどれですか。

・希望は「仕事と家庭生活をともに優先したい (30.4%)」、次いで「家庭生活を優先したい (21.1%)」、「仕事と家庭生活と地域活動や個人の生活をともに優先したい (16.6%)」となっており、前回調査とほぼ同様の傾向である。

・性別で見ても同様の傾向であるが、女性の「家庭生活を優先したい」割合は25.1%となっており、男性(15.6%)と比べ高く、逆に男性の「仕事を優先したい (9.8%)」は、女性 (3.0%) より高くなっている。



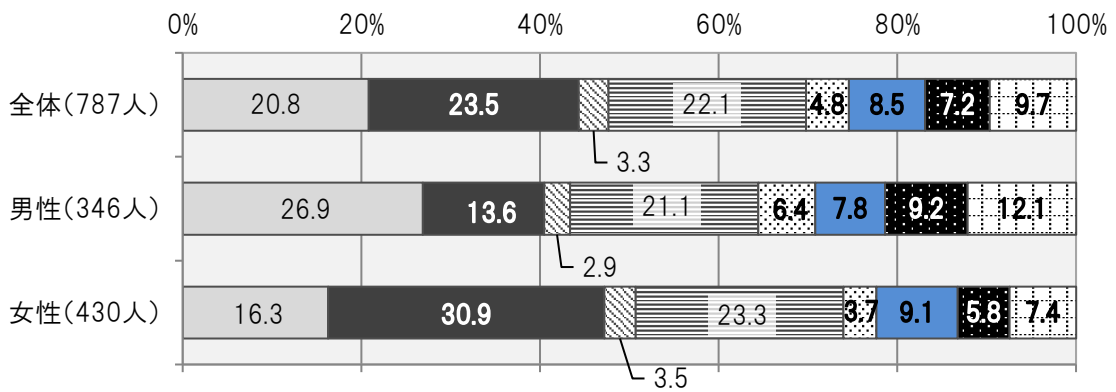
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域活動や個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先したい
- 無回答

(2) あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。

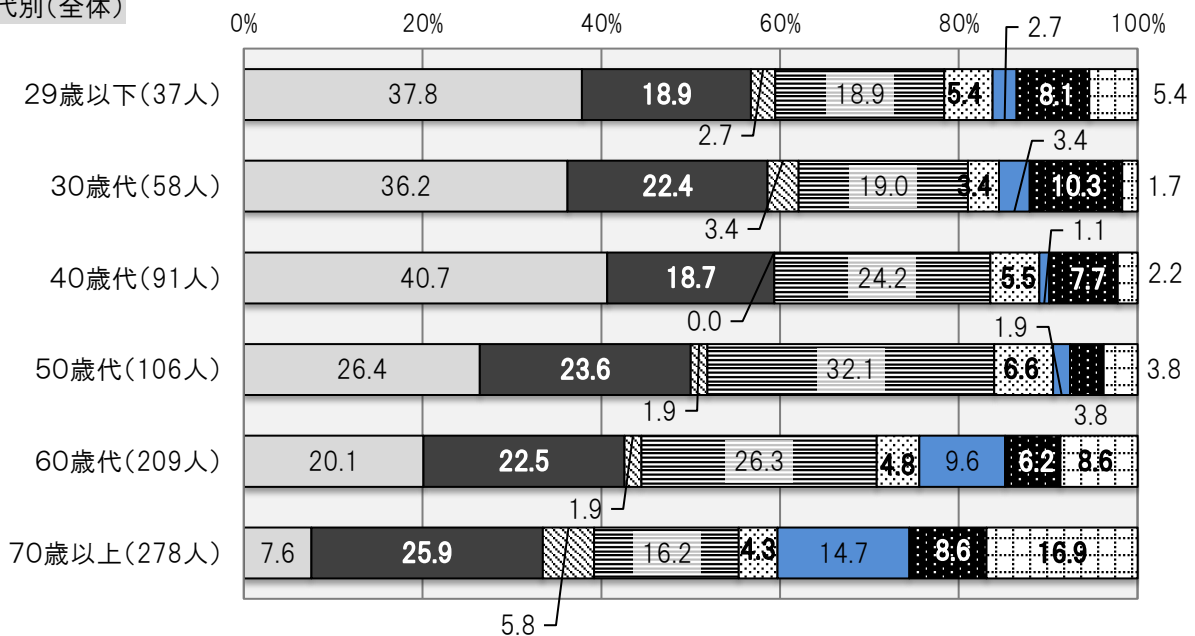
・現実では「家庭生活を優先している（23.5%）」、「仕事と家庭生活をともに優先している（22.1%）」、「仕事を優先している（20.8%）」となっている。

・男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」と考えているが、現実では、男性は「仕事を優先している（26.9%）」、女性は「家庭生活を優先している（30.9%）」と、女性は家庭生活を、男性は仕事を優先している割合が高い結果となった。H26年度調査もほぼ同様の結果となっている。

・年代別に見ると、若い世代で「仕事を優先している」割合は高いが、「家庭生活を優先」または「仕事と家庭をともに優先」している割合も、世代を通じてほぼ同じ程度となっている。



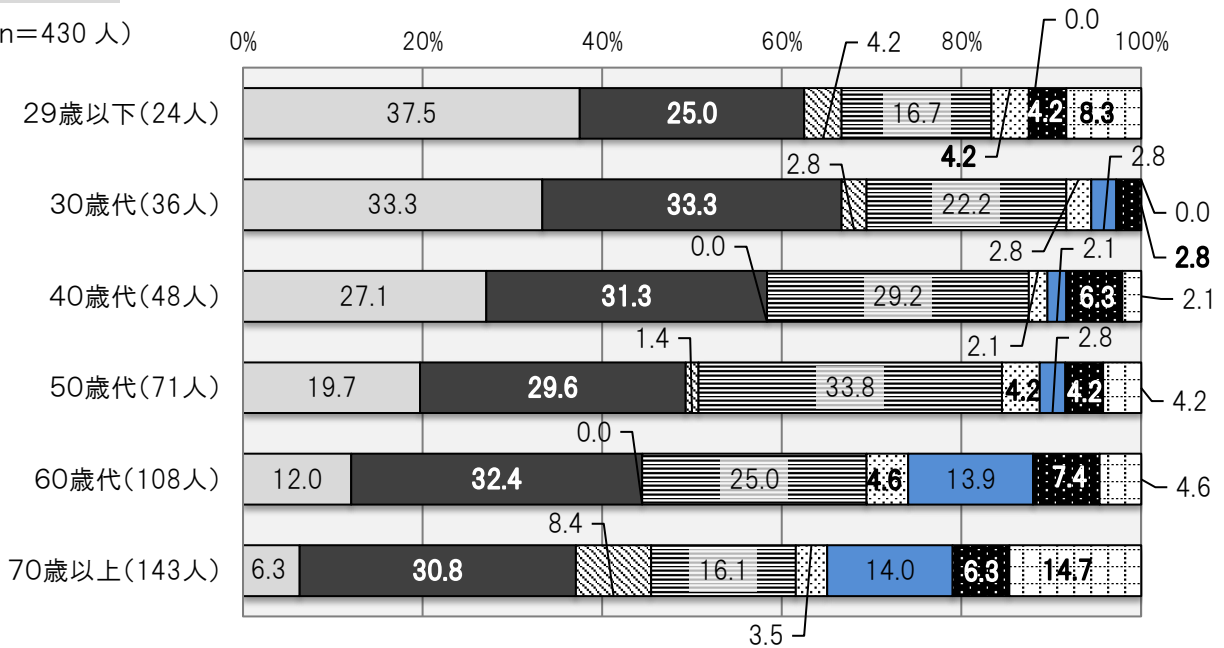
年代別(全体)



- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- ▨「地域活動や個人の生活」を優先している
- ▩「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▧「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- ▦「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- ▣「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- 無回答

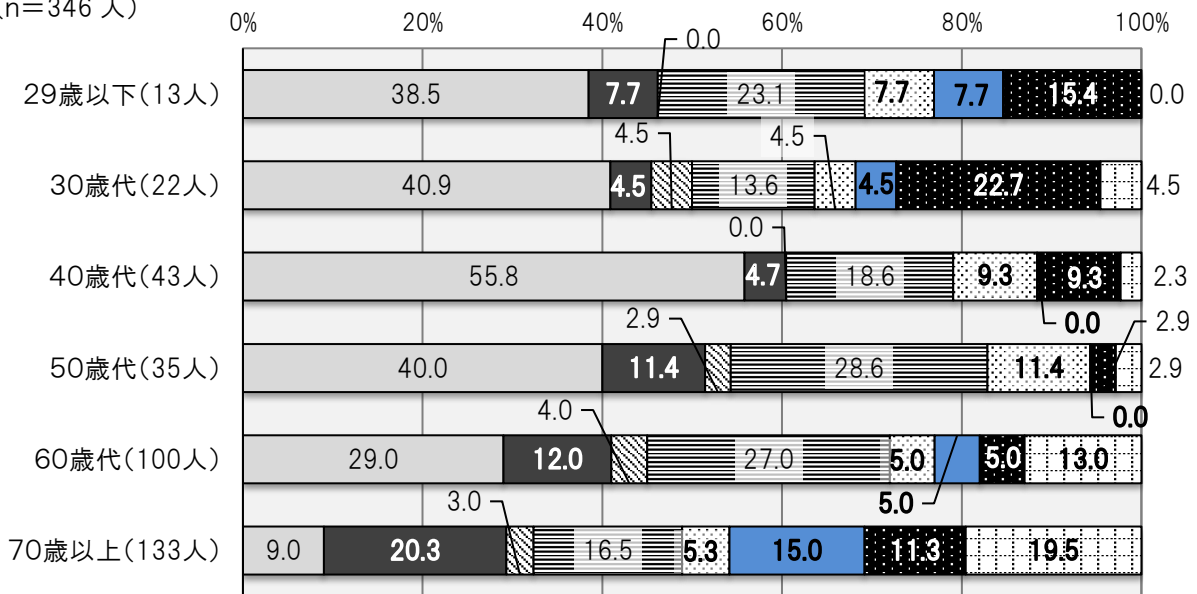
年代別(女性)

(n=430人)



年代別(男性)

(n=346人)



- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- ▨「地域活動や個人の生活」を優先している
- ▩「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▧「仕事」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- ▦「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- ▤「仕事」と「家庭生活」と「地域活動や個人の生活」をともに優先している
- 無回答

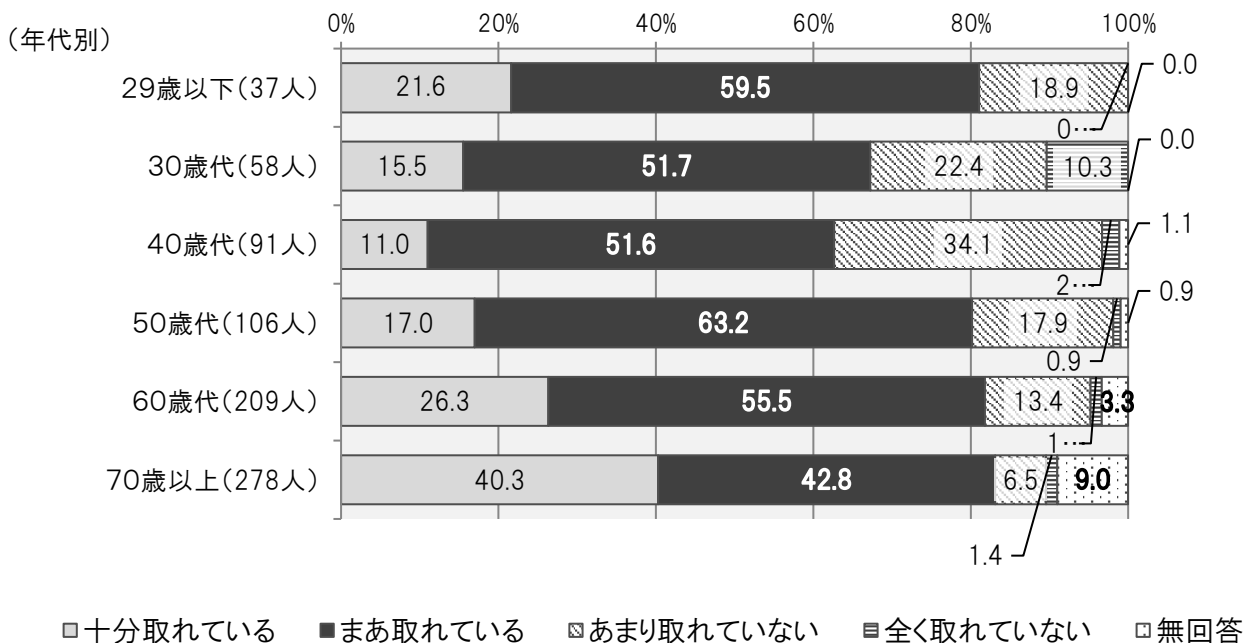
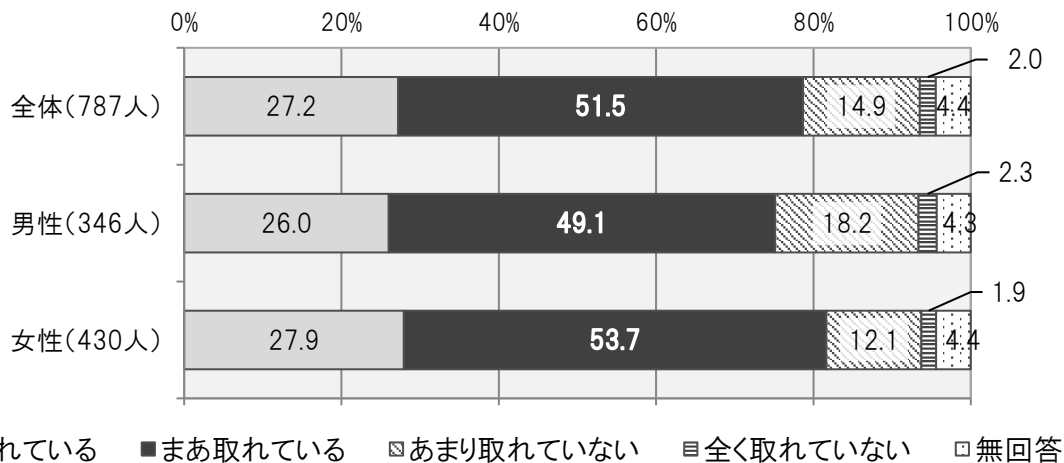
問7. あなたは、次のことさらに十分時間はとれていますか。

(1) 家庭生活のための時間

・「十分に取れている (27.2%)」、「まあ取れている (51.5%)」を合計した『取れている』と思う人の割合は8割弱となっている。

・性別で見ると、女性の『取れている』と思う人の割合の計が81.6%と男性(75.1%)より6.5ポイント高くなっている。問7の質問の中で、女性の割合が高いのはこの項目のみである。

・年代別では29歳以下を除き、『取れている』人の割合は年代が上がるにつれて高くなっている。70歳代以上では83.1%と最も高くなっている。29歳以下では『取れている』割合が8割を超えているが、30歳代、40歳代になると6割程度に留まり、30歳代では「全く取れていない(10.3%)」の割合が他の世代と比較し高くなっている。

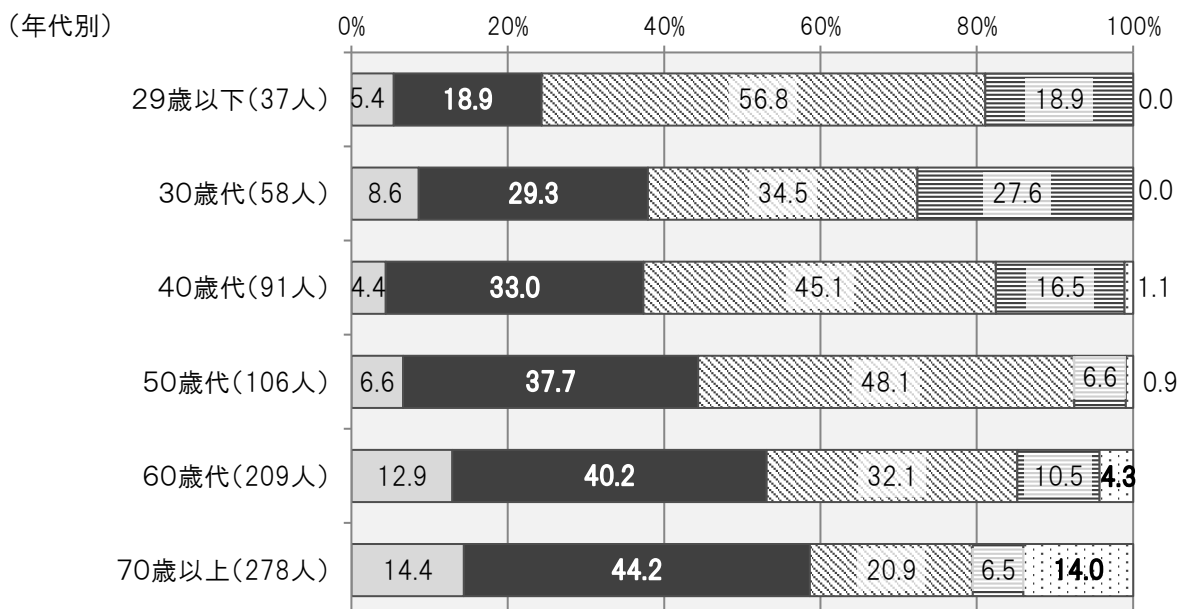


(2) 地域・社会活動に参加する時間

- ・『取れている (49.3%)』(十分に取れている 11.1%、まあ取れている 38.2%の計) に対し、『取れていない (44.1%)』(全く取れていない 10.9%、あまり取れていない 33.2%の計) と、全体として大きな差はない。
- ・性別で見ると、女性 (46.1%) より男性 (53.8%) の方が『取れている』と思う人の割合が高く、H26 年度調査 (女性 45.7%、男性 53.8%) においても同様の傾向である。
- ・年代別では年齢が上がるにつれて『取れている』と思う人の割合が高くなる一方、30 歳代で「全く取れていない (27.6%)」と思う人の割合が他の世代と比較し、最も高くなっている。



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

(3) 学習・研究、趣味・娯楽、スポーツなどのための時間

・「十分取れている (11.9%)」、「まあ取れている (39.3%)」と合わせて、『取れている』と思う人の割合が全体の5割を超えている。

・性別で見ると女性 (47.9%) より男性 (55.5%) の方が『取れている』と思う人の割合が高く、H26 年度調査 (女性 45.8%、男性 54.8%) と比較しても同様の傾向である

・年代別では、29 歳以下を除き年代が上がるごとに『取れている』と思う人の割合が高くなっている。この項目でも、29 歳以下では『取れている』と思う人は 54.0%となっているが、30 歳代、40 歳代になると3割程度になっている。「全く取れていない」と思う人の割合も30 歳代が 22.4%と最も高くなっている。

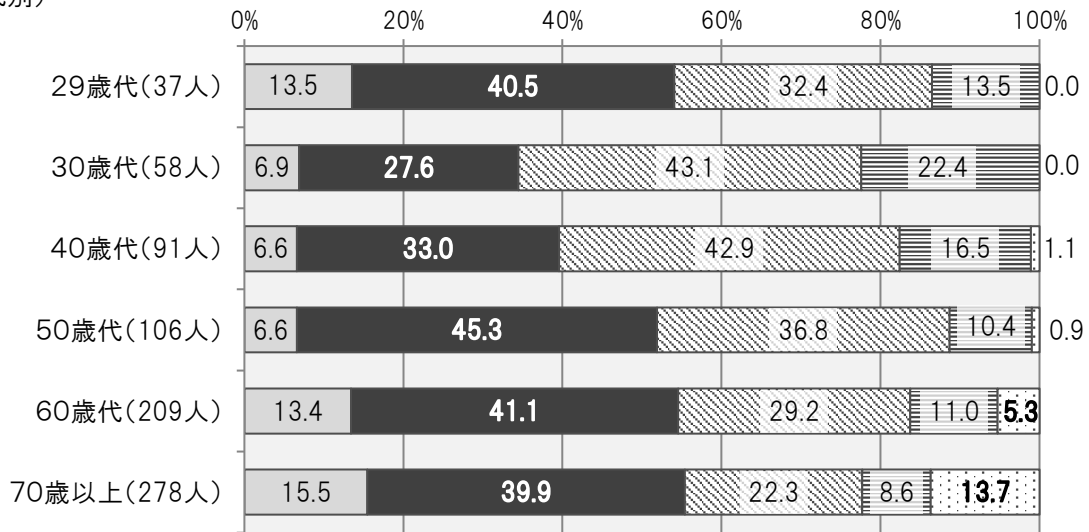
H26 年度調査で 50 歳代は『取れている (36.4%)』、『取れていない (62.3%)』と、『取れていない』と思う人の割合が高かったが、今回調査では『取れている (51.9%)』、『取れていない (47.2%)』と取れていると思う人の割合が 15.5 ポイント高くなっている。



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

令和元年度調査

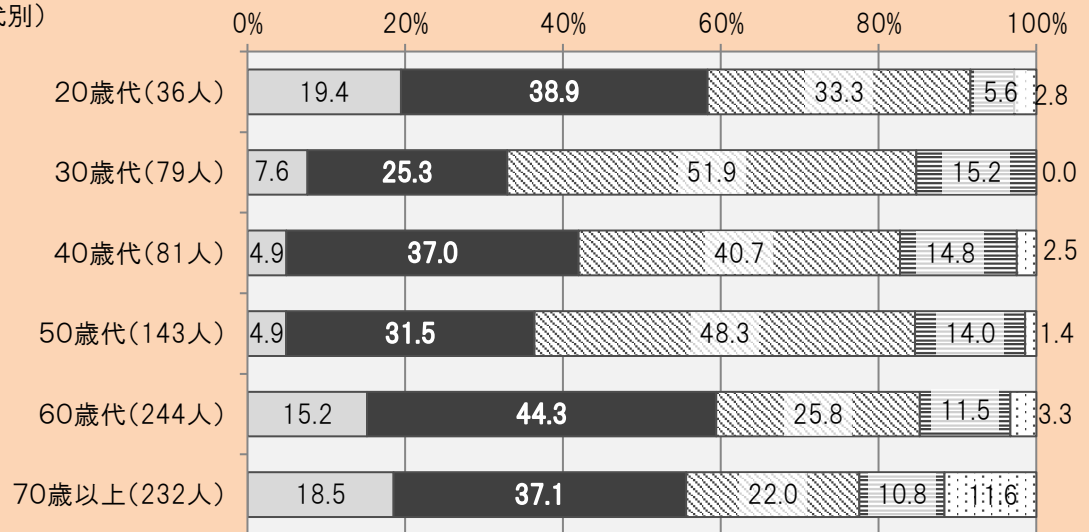
(年代別)



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

平成 26 年度調査

(年代別)

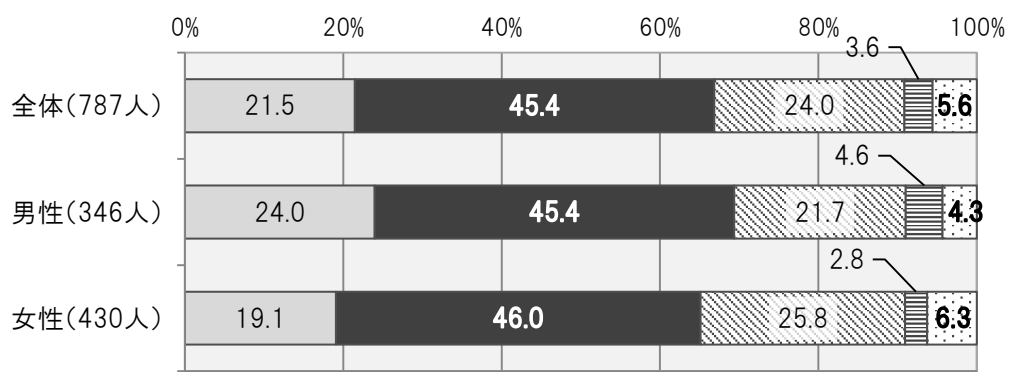


□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

(4) 休養のための時間

・「十分取れている (21.5%)」、「まあ取れている (45.4%)」と『取れている』と思う人の割合は6割を超えている。

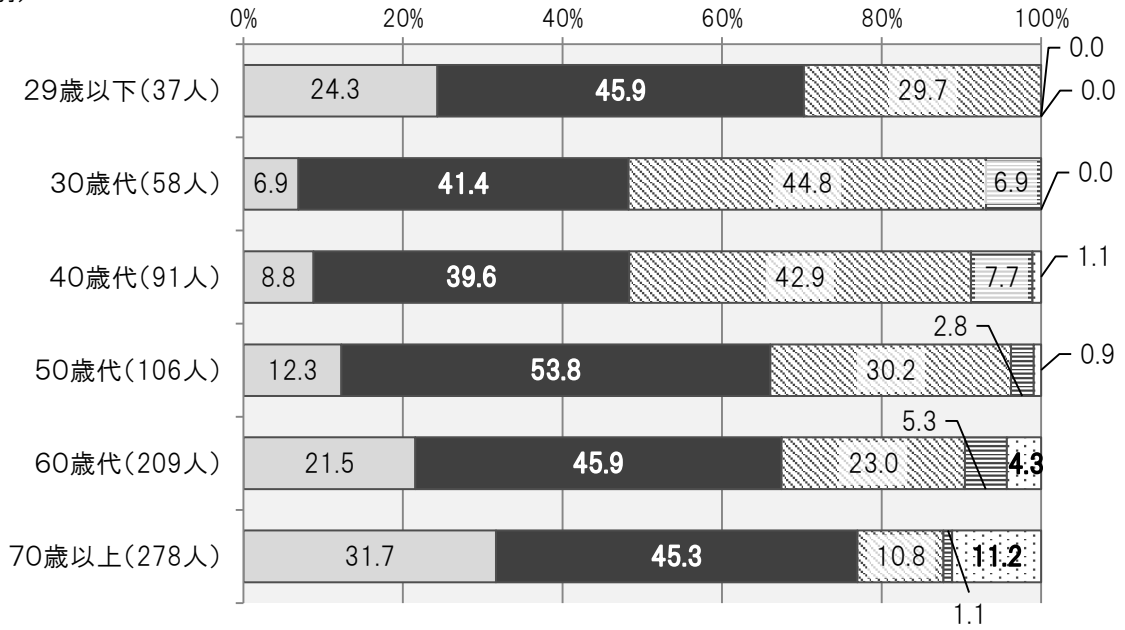
・『取れている』と思う人のうち、特に50歳代ではH26年度調査で53.2%であったのが今回調査で66.1%と12.9ポイント増加しており、伸び率が一番高い結果となった。



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

令和元年度調査

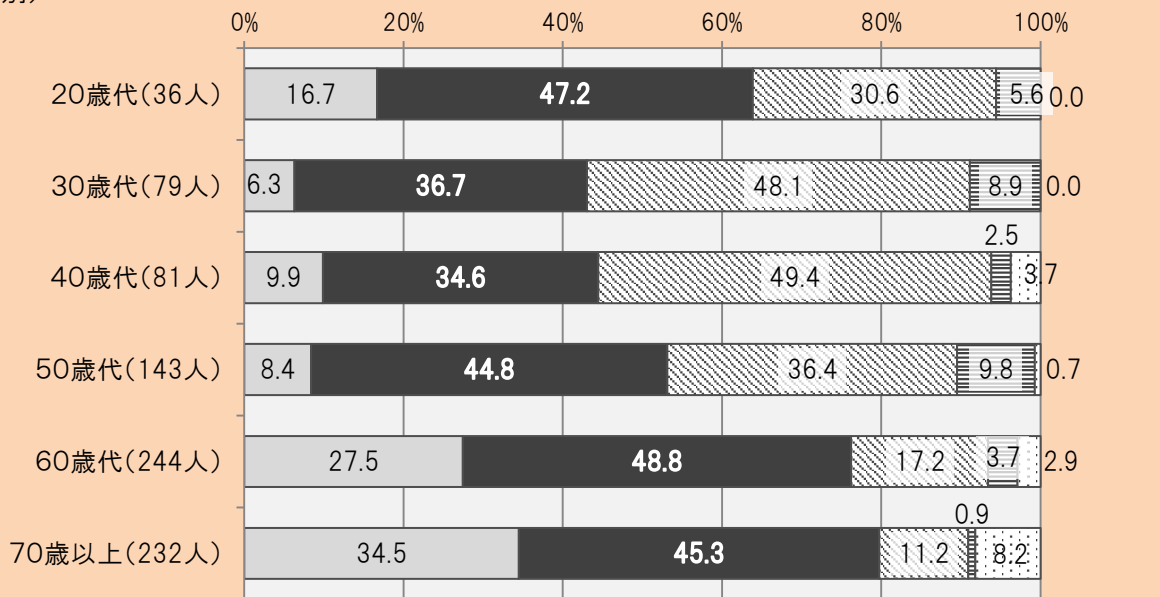
(年代別)



□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

平成 26 年度調査

(年代別)



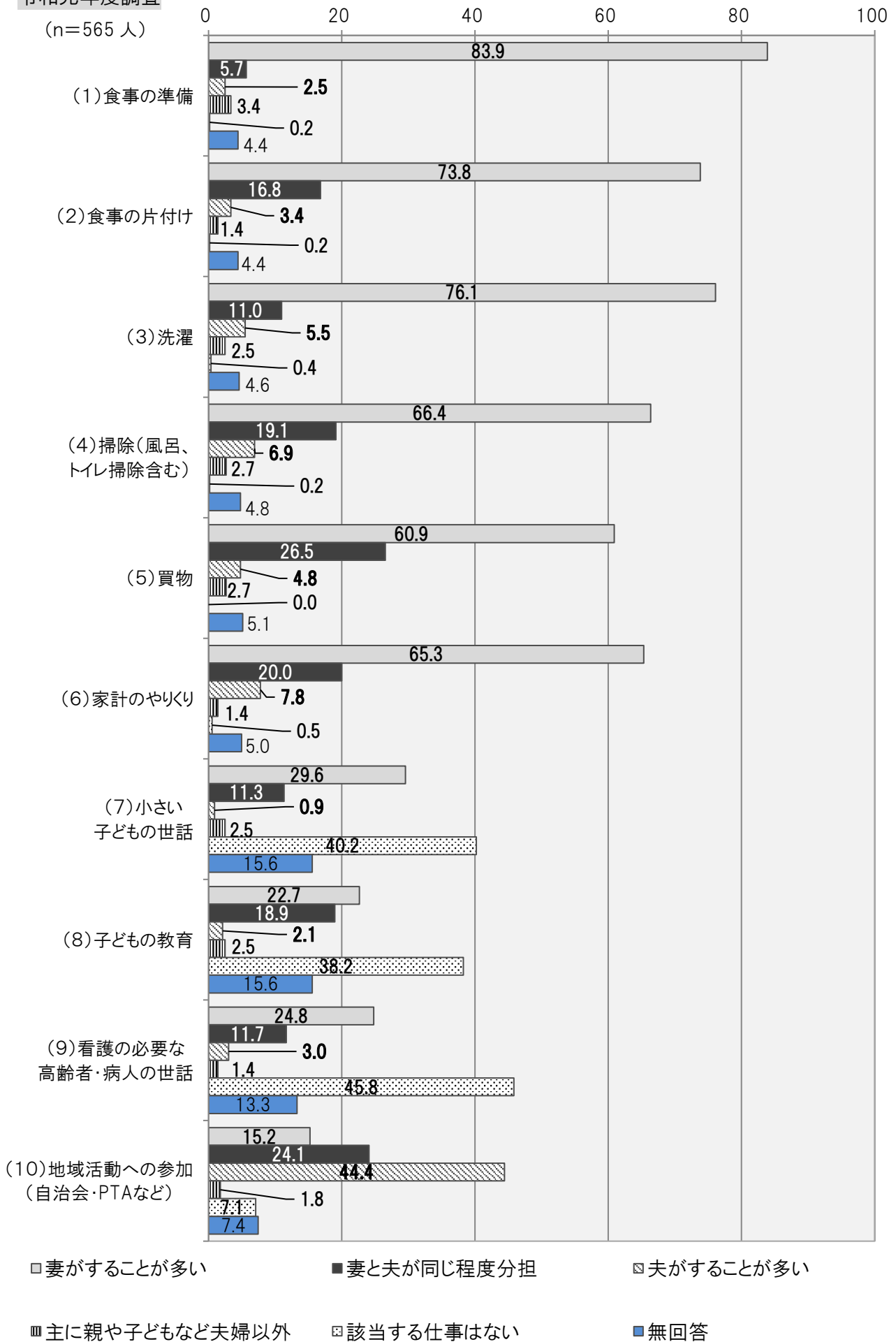
□十分取れている ■まあ取れている ▨あまり取れていない ▩全く取れていない □無回答

問8. 配偶者（パートナー）のいらっしゃる方で、家庭の中では次の仕事について、どなたが担当されていますか。

・日常生活における仕事（10項目）について、家庭の中の誰が主に担当しているかを、パートナーがいる人（565人）に質問した。10項目のうち、家事・育児・介護に関する（1）～（9）の9項目は「該当する仕事はない」を除くと、いずれの項目でも「妻がすることが多い」の割合が高く、1. 「食事の準備（83.9%）」、2. 「洗濯（76.1%）」、3. 「食事の片付け（73.8%）」の順となっている。「夫がすることが多い」項目としては「地域活動への参加（24.7%）」となっている。

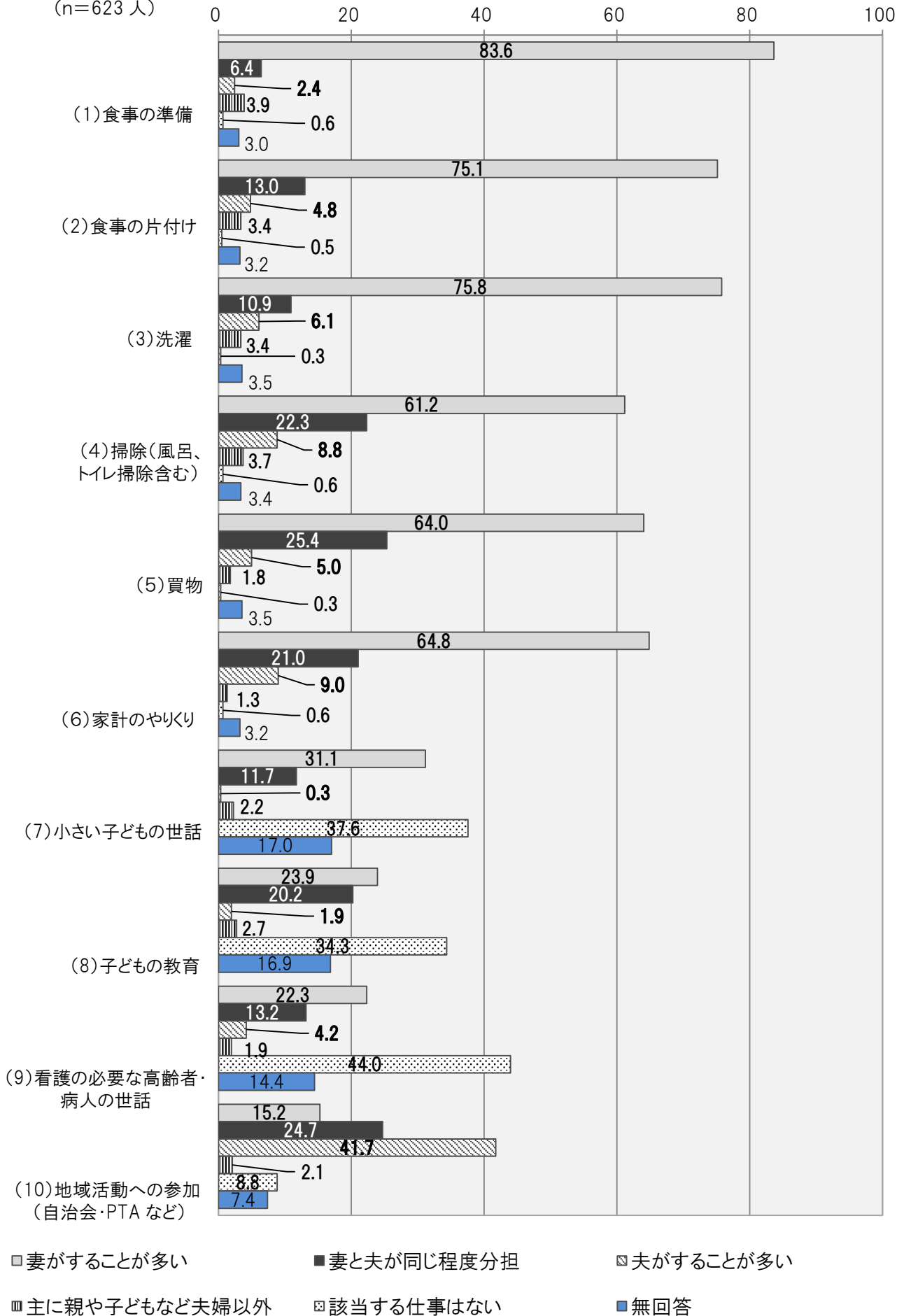
令和元年度調査

(n=565人)



平成26年度調査

(n=623人)



問9. 今後、男女がともに家事、育児、介護、地域活動に参加していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。必要だと思われるものに○印をつけてください。

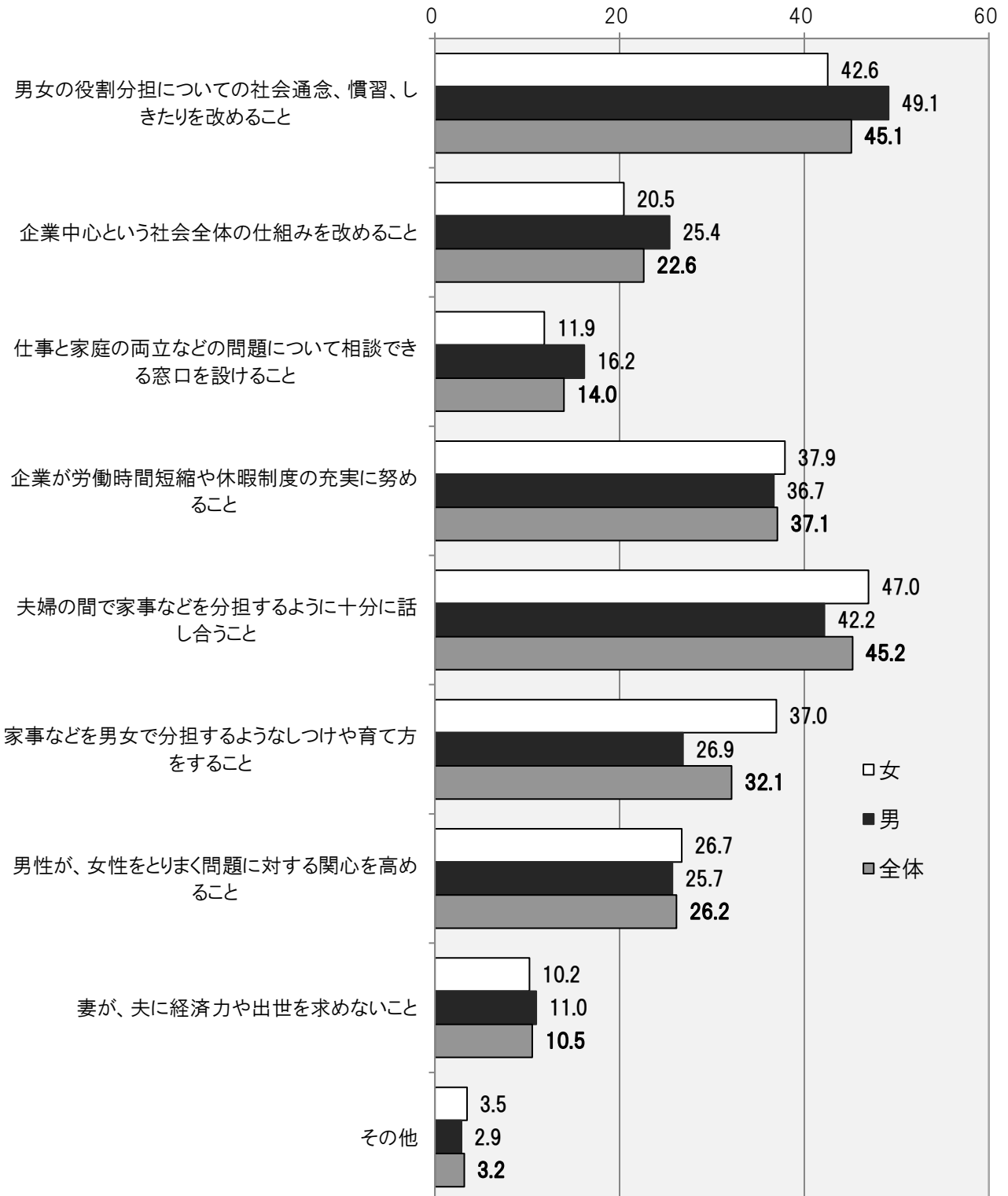
・「夫婦の間で家事などを分担するように十分に話し合うこと（45.2%）」、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること（45.1%）」、「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること（37.1%）」「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること（32.1%）」が選択されている。（複数回答）

・性別で見ると、全体として支持されていた4項目のうち、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」を除く3項目で男性より女性の支持が高くなっている。特に男女差があったのは「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」で、女性37.0%、男性26.9%と10.1ポイントの差があった。また、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は、女性からの支持（42.6%）も高いが、男性からの支持が49.1%と、男女別支持率の中で最も高くなっている。これらの傾向は、H26年度調査とほぼ同様となった。

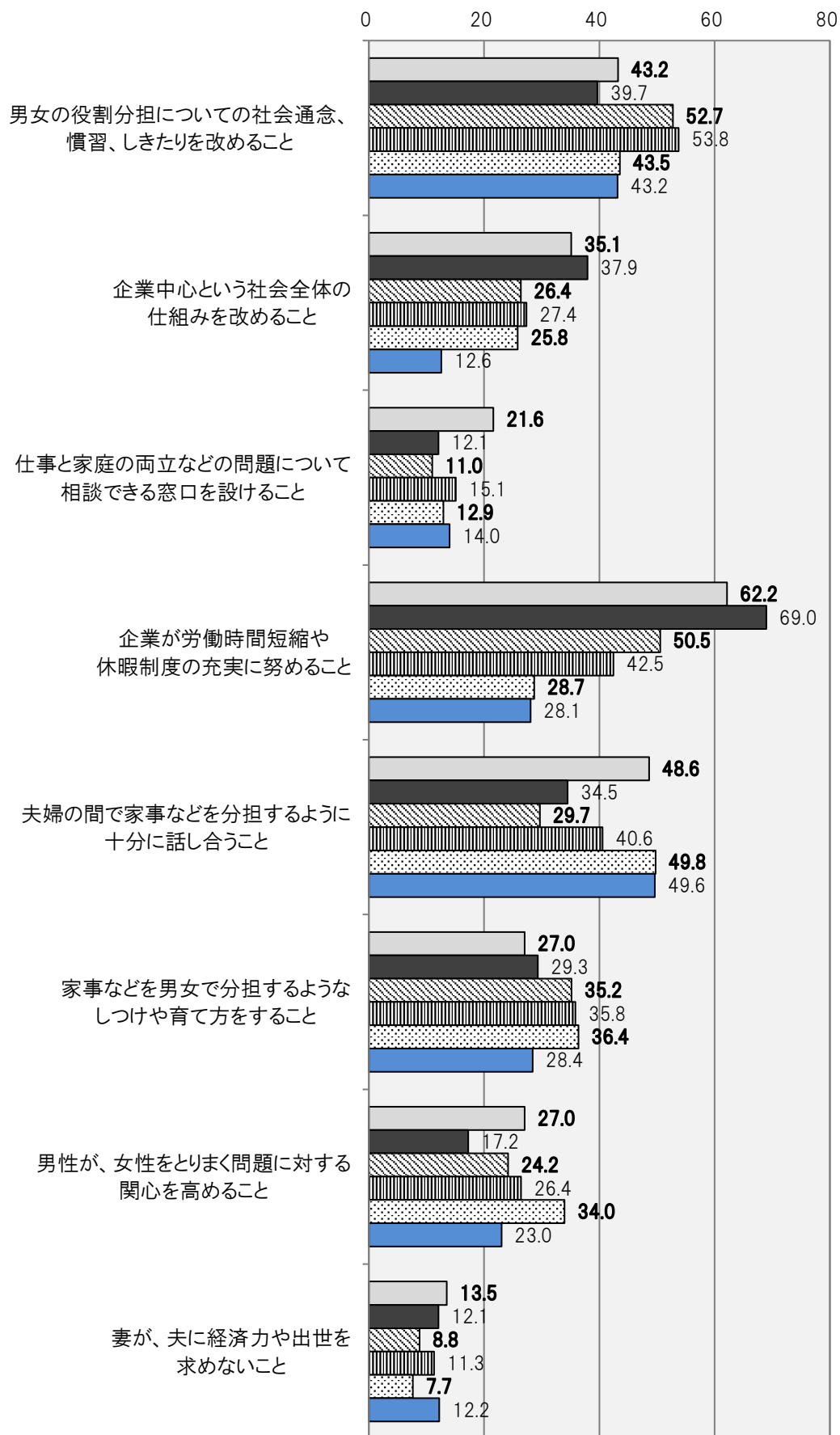
・年代別に見てみると、全体として支持の高かった「夫婦の間で家事などを分担するように十分に話し合うこと」は29歳以下（48.6%）、60歳代（49.8%）、70歳以上（49.6%）の世代から支持されており、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は40歳代（52.7%）、50歳代（53.8%）から支持されている。30歳代は「企業が労働時間短縮や休暇制度の充実に努めること」の支持率が69.0%と、世代別支持率の中で最も高くなっている。この項目については29歳以下、40歳代からの支持率も高く、労働者世代からの支持率が高くなっている。

男女が共に協力していくために必要なこと

(n=787 人)



男女が共に協力していくために必要なこと(年代別)



□29歳以下 ■30歳代 ▨40歳代 ▩50歳代 ▪60歳代 ■70歳代以上

問9記入欄 回答

市の人が増えることが大切。今の2倍。市の税収が増える。

思いやりの心を充実させること。

適材適所を正確に判断。

行政的支援体制の構築！！

体がついていかない。

まずは夫婦がお互いの事を理解しあい協力しあう事。

急に解決できるものではないと思います。やはり学校教育が基本だと思います。

今現時点でできているように感じる 社会全体で見てもわかい世代ではできている システムもできている 時間が経てばもっとよくなると思う。

分担の割合は大切だと思う。女として出産という特技がある以上子育ては主は女性であってほしい。家事分担は夫婦の話合い。介護も同じく。子育ての期間は、企業に待つ体勢を整えてほしい。

我家の場合若い時から都度都度話し合って我家流にこなしてきましたので、夫婦が都合をつけ合っていくことが大事なのではないでしょうか。

政治が変わらなければ何も変わらないので、その仕組みを変えられるような取り組みが必要。

世帯収入のアップ。

他人に求めるのではなく家庭内で！

やりたい事を認め合える男女(夫婦)の関係である事を周りも認める。

お互いへの思いやり、自分だけが働いているのではないことへの意識改革。

職員が抱える仕事量を見直すこと(仕事量が多いままでは、労働時間短縮や休暇制度を充実させても休暇の取得が難しい)。

環境より自分の気持ちがいじ。

男性に家事の分担を進んでしてほしい。

家庭内でしっかり相談して、分担できればよい。

学校での教育。

女性の学習活動を工夫すること。

高齢者には今頃の若い方はうまくやられているように思いますが…私が見聞きする限りは。

気軽に外注できるようになればよい。

格差をなくすよう国が政策をすすめなくてはならない。長時間働いても低賃金。これが続けないといけない状態では、生活の経済的、時間的な余裕がなく、家事、育児、介護、地域活動へ参加が難しい。私の勤める小規模な企業では労働時間短縮などの労働環境の改善は見込めないどころかますます経営が苦しくなっている。大企業や権力者優遇の政治をすぐに変えることが必要。家庭や個人の努力では限界がある。まずは政権交代。少なくとも総理大臣の交代が必要。

女性の意識改革。

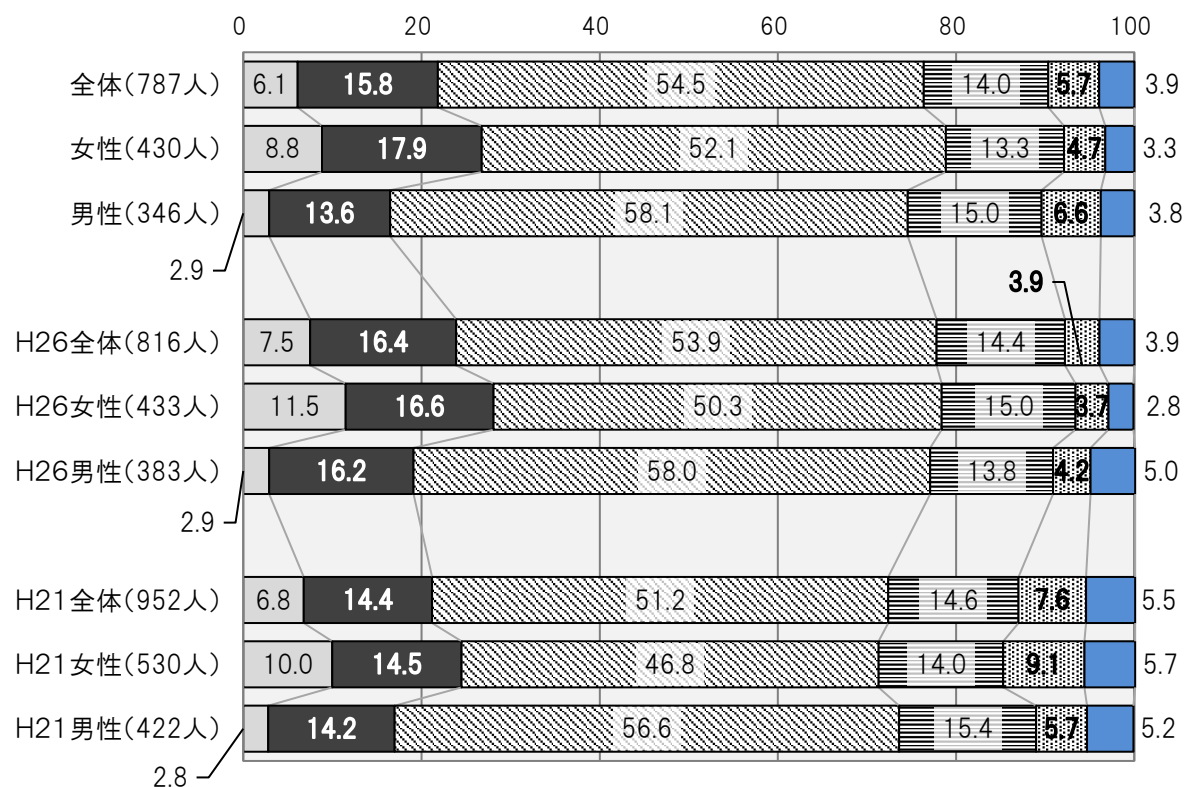
問10. ドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人からの身体的暴力及び心理的暴力・DV）が、家庭内のことであったとしても人権の侵害であると問題になっていますが、あなたはこのような暴力による被害について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。

・DVによる被害について、全体としては「直接経験したことがある（6.1%）」でH26年度調査（7.5%）より若干減少している。「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がある（15.8%）」についてもH26年度調査（15.8%）より減少している。最も回答が多かった「直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した（している）人はいないが、一般的な知識として知っている（54.5%）」の値はH21年度、H26年度調査と増えており、「DVという言葉聞いたことがある」も含め、何らかの形でDVについて認知している（知っている）人の合計は9割を超えている。

・性別で見ると、女性の「直接経験したことがある（8.8%）」の値は男性（2.9%）を上回っており、同様に「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がある」も女性（17.9%）、男性（13.6%）と女性の方が男性よりも高く、自分や身近な人のDV被害経験は女性の方が高い割合となった。一方で、「直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した（している）人はいないが、一般的な知識として知っている（女性52.1%、男性58.1%）」「DVという言葉聞いた事はある（女性13.3%、男性15.0%）」と、『DVを知っている（聞いた事がある）』人の割合は、女性より男性の値が高くなっている。H21年度、H26年度調査でも同様の傾向であった。

・年代別では、「直接経験した」人は50歳代で9.4%と最も高く、次いで60歳代7.2%となった。「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がある」も含めた、自分や身近な人がDV被害を経験している値を見てみると、40歳代（直接経験：4.4%、自分のまわり：30.8%の計）が35.2%と最も高く、次いで50歳代（直接経験：9.4%、自分のまわり：24.5%の計）で33.9%となっている。「言葉を聞いた事はある」を含めたDVの認知度としては、29歳以下と30歳代で100%、40歳代から60歳代で9割を超えている。70歳以上では81.7%に留まり、「聞いたことがない」人も12.2%となっている。

DVIについて



□ 直接経験したことがある

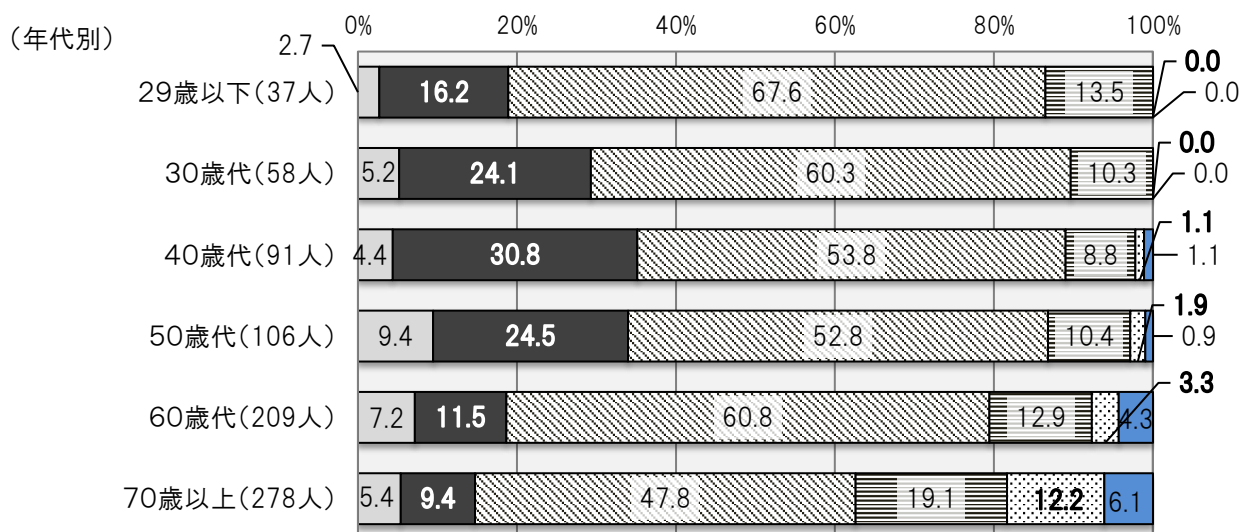
■ 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる

▨ 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている

▩ ドメスティック・バイオレンス(DV)という言葉聞いた事はある

▪ そういう言葉は今まで聞いたことがない

■ 無回答

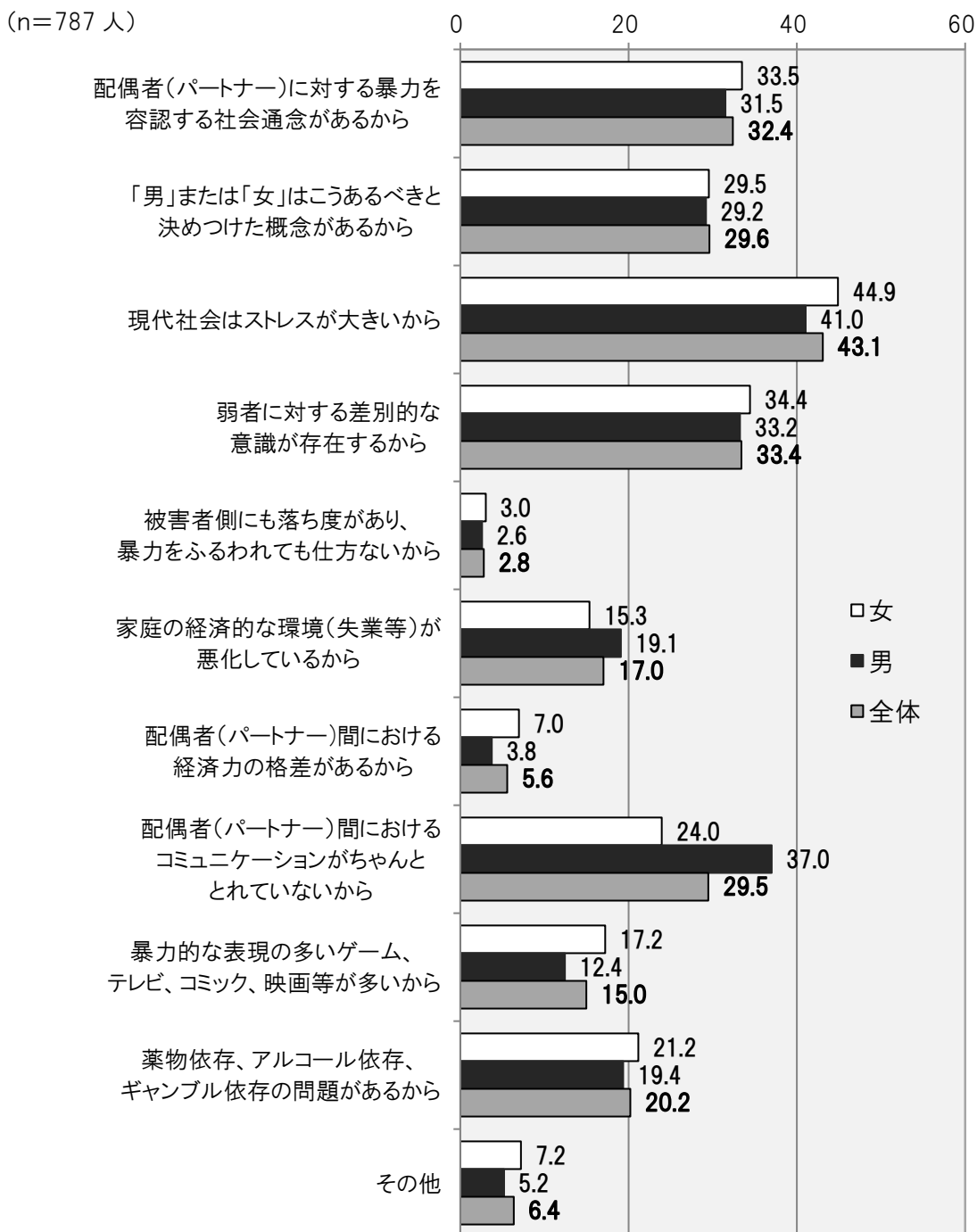


問1 1. ドメスティック・バイオレンス（DV）が起こる背景や要因は何だと思いますか。

・「現代社会はストレスが大きいから（43.1%）」が最も高く、次いで「弱者に対する差別的な意識が存在するから（33.4%）」、「配偶者（パートナー）に対する暴力を容認する社会通念があるから（32.4%）」となっている（複数回答）。

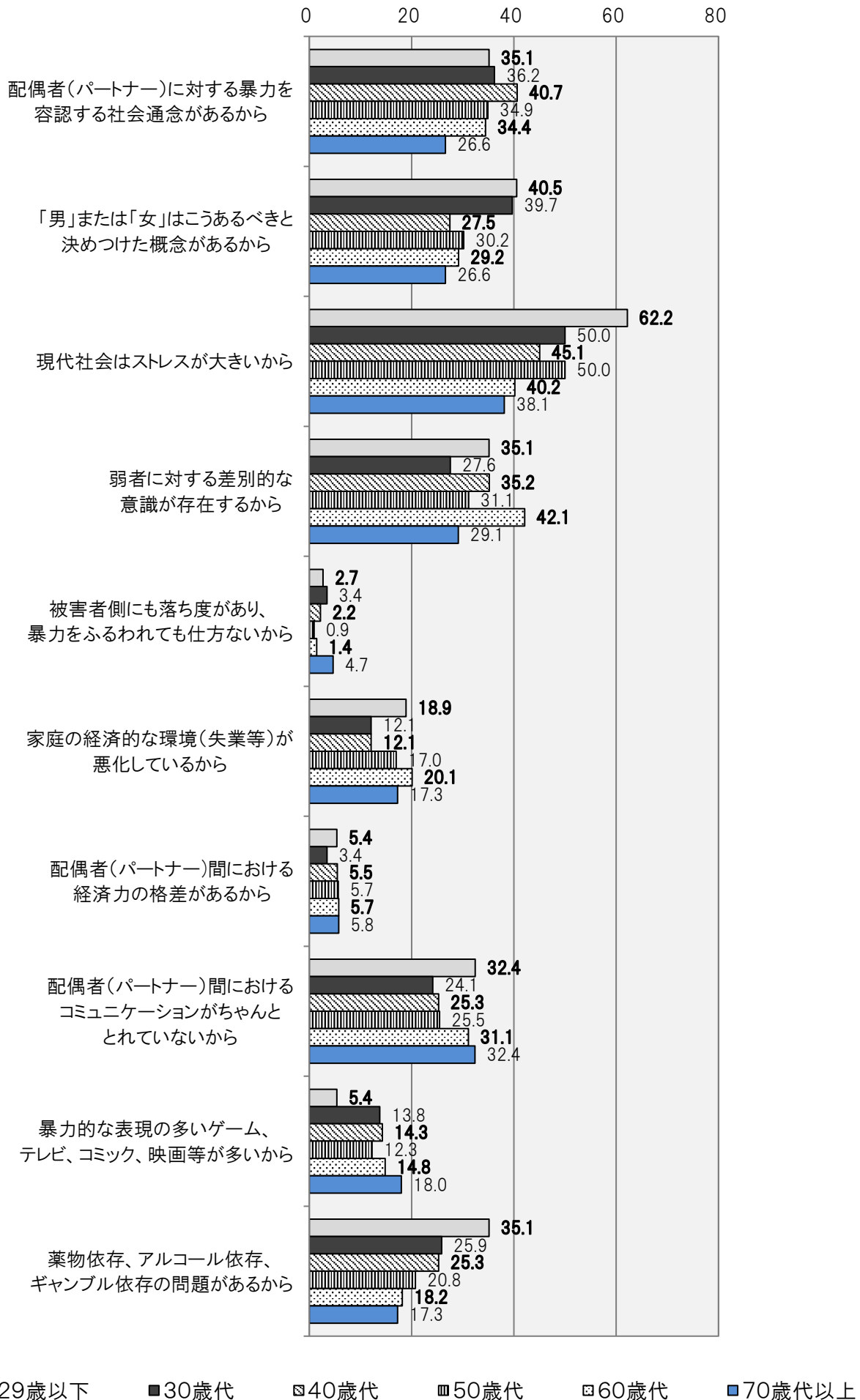
・性別に見ると、男女ともに「現代社会はストレスが大きいから」を支持する割合が高いが、男性の「配偶者（パートナー）間におけるコミュニケーションがちゃんととれていない（37.0%）」の支持率は女性の24.0%と13.0ポイントの差があり、違いが見られた。

・年代別に見ると、最も支持の高かった「現代社会はストレスが大きいから」選択した人は29歳以下（62.2%）が最も高くなっている。この項目での70歳以上（38.1%）と比べると24.1ポイントの差があった。



DVが起こる背景や原因(年代別)

(n=787人)



問11記入欄 回答
本人の性格。
加害者側自身が、子どもの頃に大事にされてこなかったから。
当該人物の育ってきた環境。
わかりません。
そういう言葉を知らないので要因も分からない。
人を思いやる気持ちを育てる事が大事。
私の場合はその「時代」もあったと思います。
育ってきた環境に愛情が足りなかったから。きちんとしつけをされなかったから(加害者が)。
アスペルガーやADHD等の見逃しにより判断能力欠如や精神的未発達のまま成長した為。
行政の豊かな生活への支援がない！！(金持ちケンカせず！！)
親が子供をあまやかして育てたから、育て方が悪い。
もっと複雑な心の問題だと思います。
教育の不備。
育ってきた環境が起因する事もある。
配偶者の片方が信頼できない要因をつくるから。
精神的障がいがある事を見のがしている。
加害者側の人間性の問題(暴力を受けて育ったなど)。
育った環境、認知のゆがみ。
男性に気が短い人がなんでもないので怒り出し暴力を妻にする。
子どもの時の家族または周囲の影響。
暴力をふるう側の性格的なもの、乱暴など。
当事者の脳の障がい。
暴力する奴の思考能力が幼稚だから。男女だから関係ない。性格、育ってきた環境の問題。
人間を個人としての尊重する根本的な思いが育てられにくい社会ではないか。
生育歴の問題があると思う。
自制がきかない心の問題、育ち方の問題。
女性がいじめられる事が多いようですが、女性は経済的に自立できるような何かを身につけたほうがよいと思う。そうすれば男性の言いなりにならなくてすむと思われる。
表向きの顔を持っているから。
虐待などを受けて育った子どもが増加し、大人になっているから。暴力という形しか知らない。
精神的成長が未熟な人が多い。
世代間連鎖。自分の親がDVをしている・されているのを見聞きしていた。あるいはDVを受けていたから。
自分のしている行為がDVだと思ってないから。
育ち、小さい頃の家庭環境、親のあり方。
家庭環境が大きな要因になっていると思います(経済的な事では無く、両親の意識・行動)。
DVをする本人の生育歴や性格や価値観等。
自分の気持ちをコントロール出来ない。
お互い相手の人格を認め合う。
加害者の家庭環境に問題があるから。

弱者に対し暴力でしか怒りを表現できないため(家庭教育の問題。育ちの問題)。

被害を与える人自身の状況を自身で客観視できるようなしくみを社会でつくるべき。会社でのチェックシートやカウンセリングのあっせん。

あんまりよくわからないが私は勉強不足です。

いろんな状況があると思います。選べないです。

性格や成育暦が影響していると思います。

配偶者間が対等な関係を築けていないから。

男性社会の意識が強い親に育てられたから。親の教育が必要。

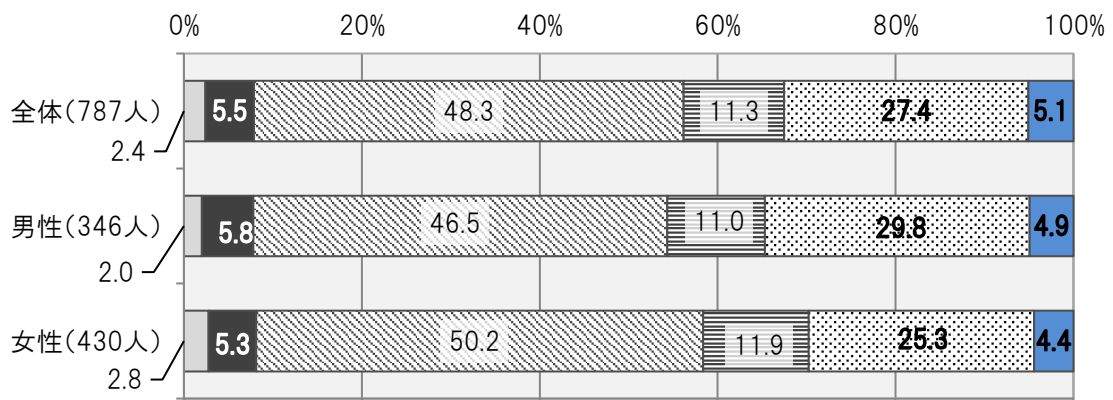
問12. ドメスティック・バイオレンス（DV）は大人だけの問題ではなく、恋愛関係にある若者の間でも同じような暴力（デートDV）が起きています。あなたは、デートDVによる被害を経験した、または見聞きしたことがありますか。

・今回の調査で新たに設定した「デートDVによる被害経験」についての質問では、「直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した（している）人はいないが、一般的な知識として知っている（48.3%）」が最も高い値となった。一方、「直接経験した（2.4%）」、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる（5.5%）」を合わせたデートDVの被害経験は7.9%となっている。「デートDVという言葉を知った事はある（11.3%）」を含めた、何らかの形でデートDVを『知っている』人の割合は67.5%で、「そういう言葉は今まで聞いたことがない」人の割合は27.4%という値になっている。

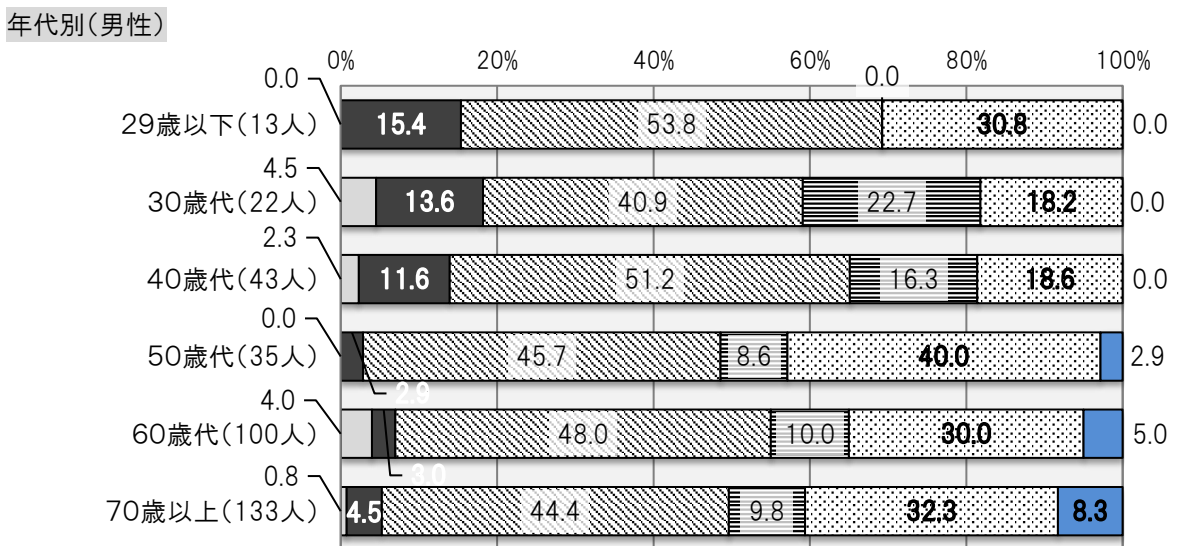
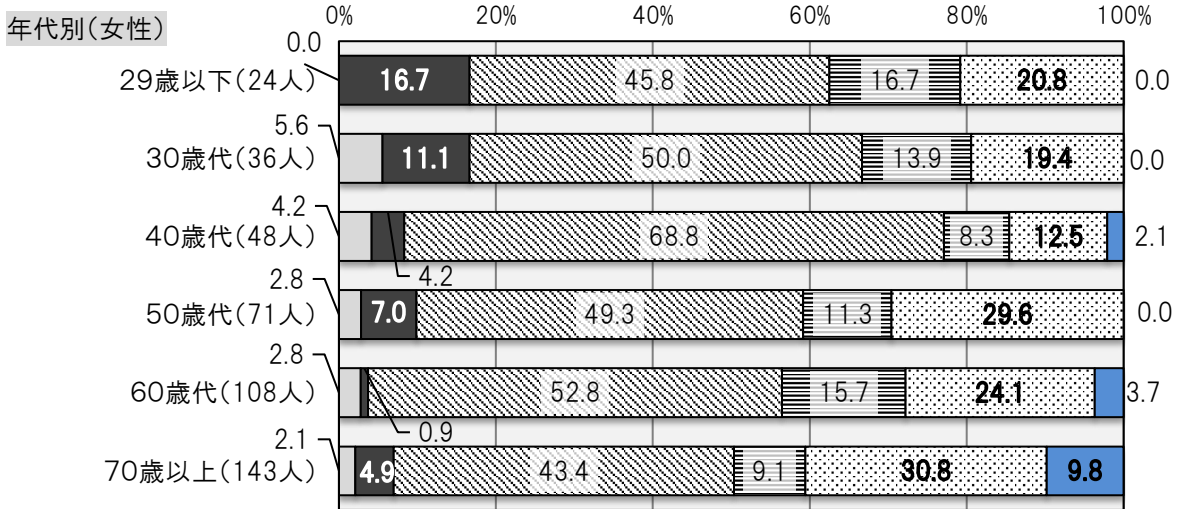
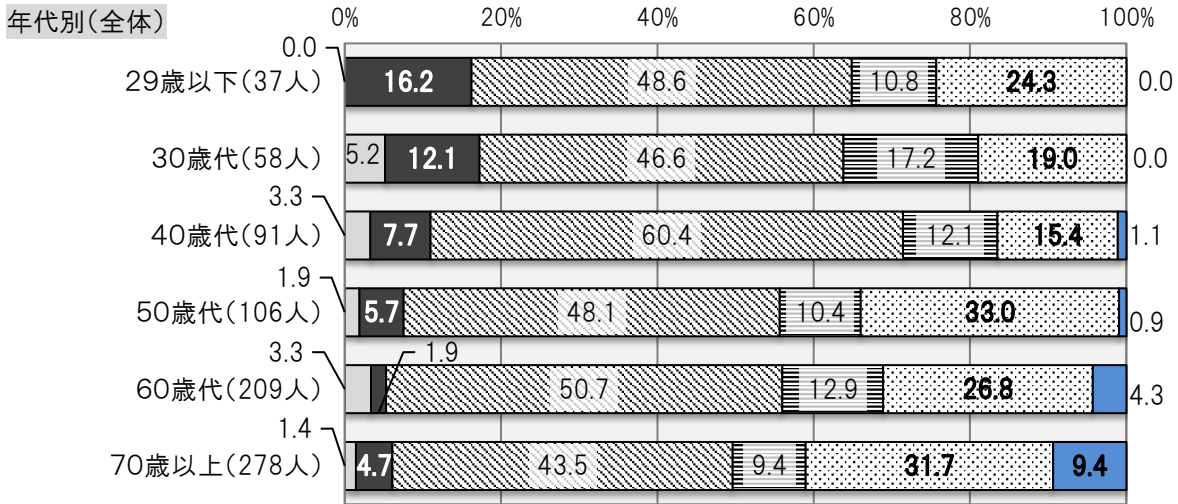
・性別に見た場合、大きな差は見られないが、男性（65.3%）よりも女性（70.2%）の方がデートDVの認知度は高かった（「言葉を知っている」を含む計）。

・年代別に見ると、『知っている』人の割合は40歳代で83.5%と最も高く、一方「そういう言葉を知ったことがない」人の割合は50歳代（33.0%）が最も高い。また、70歳以上では「そういう言葉を知ったことがない」は31.7%であったが、「無回答」も9.4%と世代の中で最も高い値となっている。

・デートDVによる被害経験で「直接経験した」人の値は30歳代女性で5.6%と最も高く、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」人は29歳以下女性で16.7%と最も高い値となり、若い世代の女性で被害を経験した、あるいは身近な人が経験した割合が高くなっている。50歳代では『知っている』女性は70.9%に対し、男性は57.2%と男女で13.7ポイントの差があった。「そういう言葉は今まで聞いたことがない」の値も50歳代男性は40.0%と男女別の全ての世代で最も高い値となっている。



- 直接経験したことがある
- 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- デートDVという言葉を知った事はある
- そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 無回答

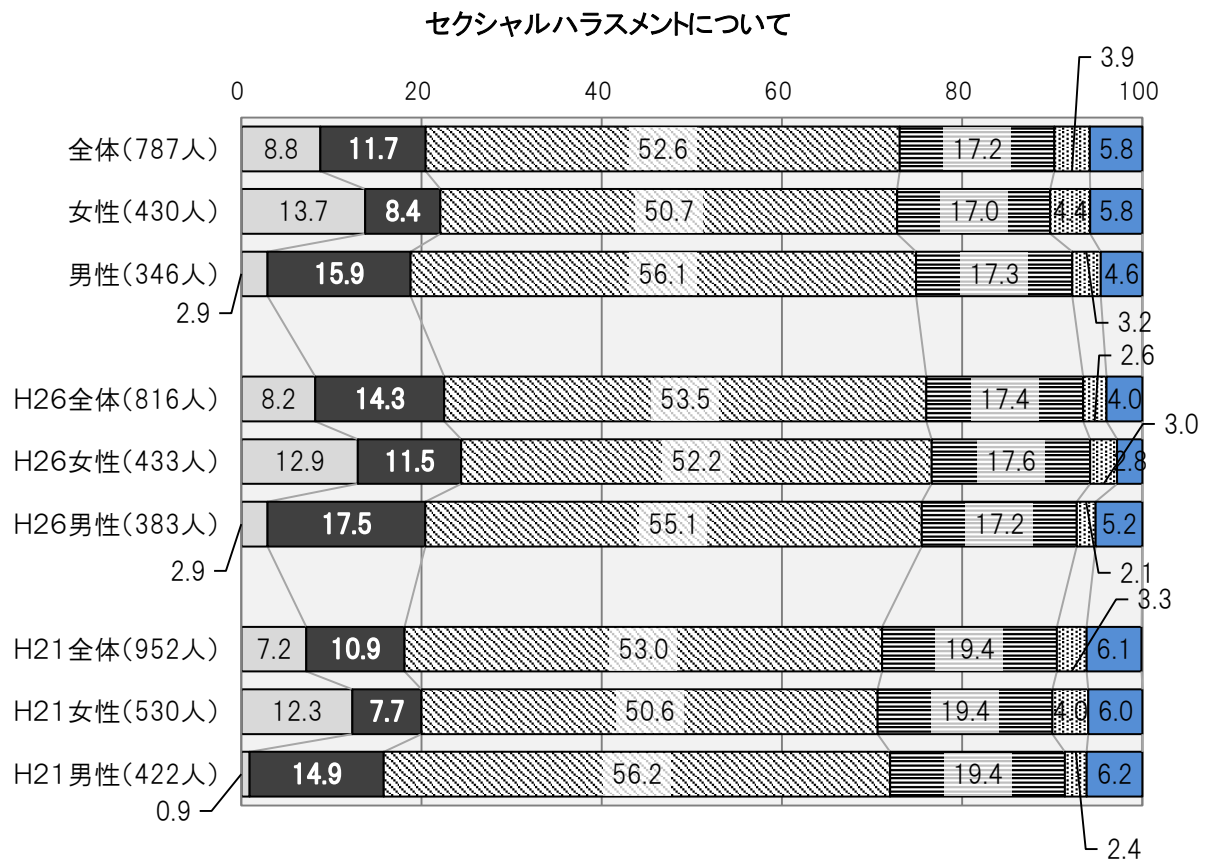


- 直接経験したことがある
- 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がいる
- ▨ 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- ▤ デートDVという言葉聞いた事はある
- そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 無回答

問13. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ・セクハラ）による被害を経験した、または見聞きしたことがありますか。

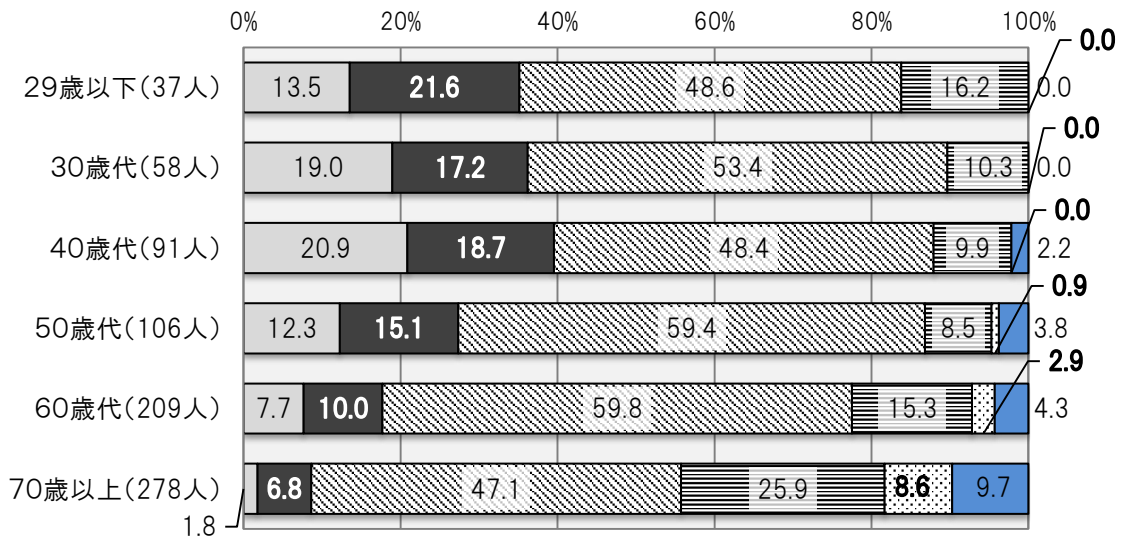
・セクシュアル・ハラスメントについては「直接経験したことはなく、自分の周りにも経験した（している）人はいないが、一般的な知識として知っている（52.6%）」が最も高かった。一方で、自分や身近な人のセクシュアル・ハラスメント被害は「直接経験した（8.8%）」、「自分の周りに経験した（している）人がある（11.7%）」と合わせて20.5%となっており、H26年度調査（22.5%）と比べ変化はあまり見られない。また、「言葉を聞いた事はある」までを含めた『知っている』人の割合は90.3%に留まり、H26年度調査と比べ2.9ポイント減少、H21年度調査（90.5%）も下回る値となった。

・年代別に見ると40歳代で「直接経験した（20.9%）」人の割合が最も高く、「自分の周りに経験した（している）人がある（18.7%）」と合わせると約4割に達する値となっている。「言葉を聞いた事はある」を含めた『知っている』割合は、29歳以下と30歳代で100%となっているが、世代が上がるごとに低くなり、70歳以上では81.6%、「言葉を聞いたことがない」人の割合も8.6%、「無回答」も9.7%と他の世代と比較し、高くなっている。



- 直接経験したことがある
- 直接経験したことはないが、自分の周りに経験した(している)人がある
- ▨ 直接経験したことはなく、自分の周りにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- ▩ セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)という言葉聞いた事はある
- そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 無回答

(年代別)



- 直接経験したことがある
- 直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した(している)人がある
- 直接経験したことはなく、自分のまわりにも経験した(している)人はいないが、一般的な知識として知っている
- セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)という言葉を知っている
- そういう言葉は今まで聞いたことがない
- 無回答

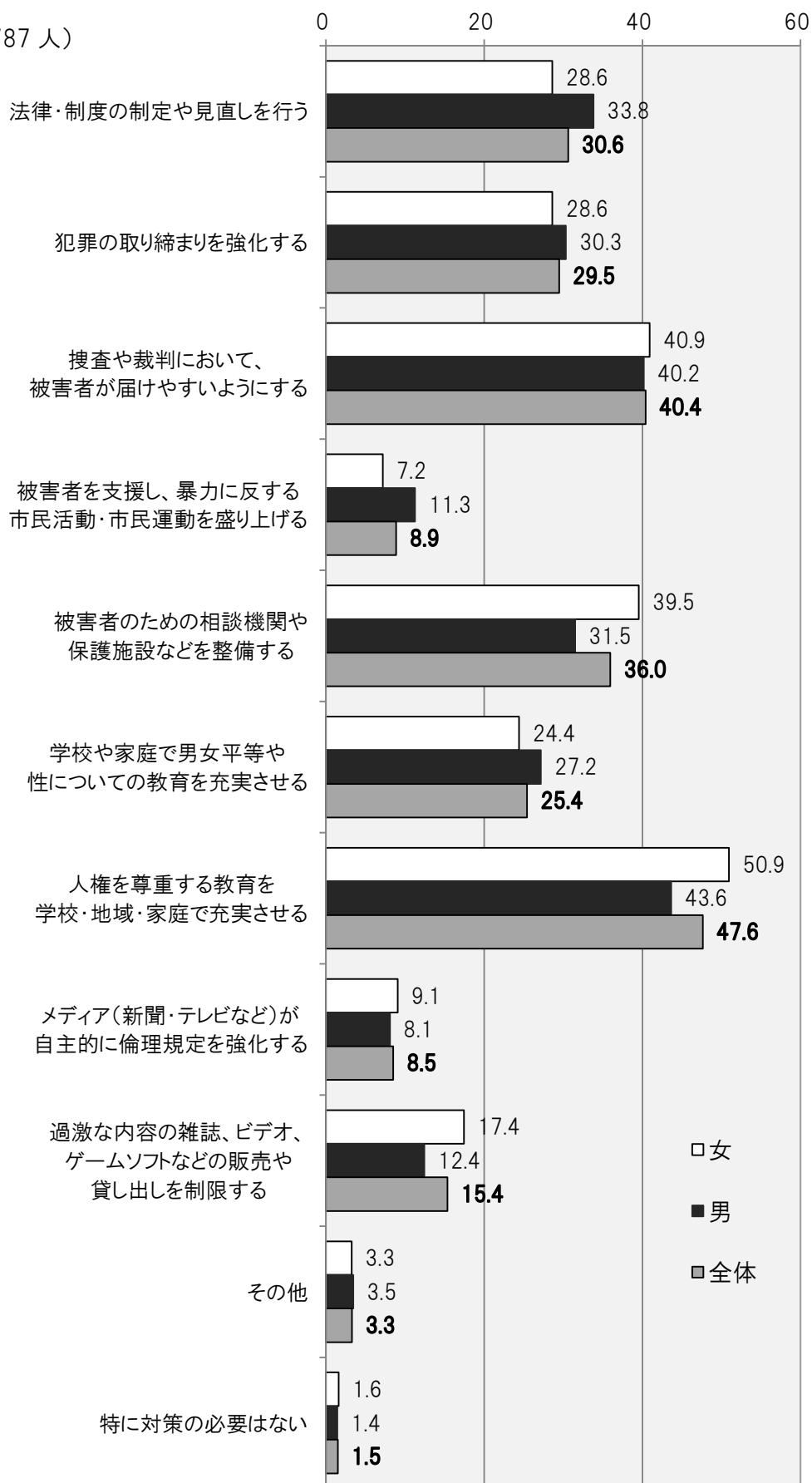
問14. 性犯罪やセクシュアル・ハラスメント(性的ないやがらせ)、暴力などをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。

・「人権を尊重する教育を学校・地域・家庭で充実させる (47.6%)」が最も高く、次いで「捜査や裁判において、被害者が届けやすいようにする (40.4%)」、「被害者のための相談機関や保護施設などを整備する (36.0%)」が支持されている。

・性別で見ると、女性からの支持の方が高く比較的男女差が目立つのは「被害者のための相談機関や保護施設などを整備する (女性 39.5% : 男性 31.5%、8.0 ポイント差)」のほか「人権を尊重する教育を学校・地域・家庭で充実させる (女性 50.9% : 男性 43.6%、7.3 ポイント差)」で、男性からの支持の方が高いのは「法律・制度の制定や見直しを行う (女性 28.6% : 男性 33.8%、5.2 ポイント差)」であった。

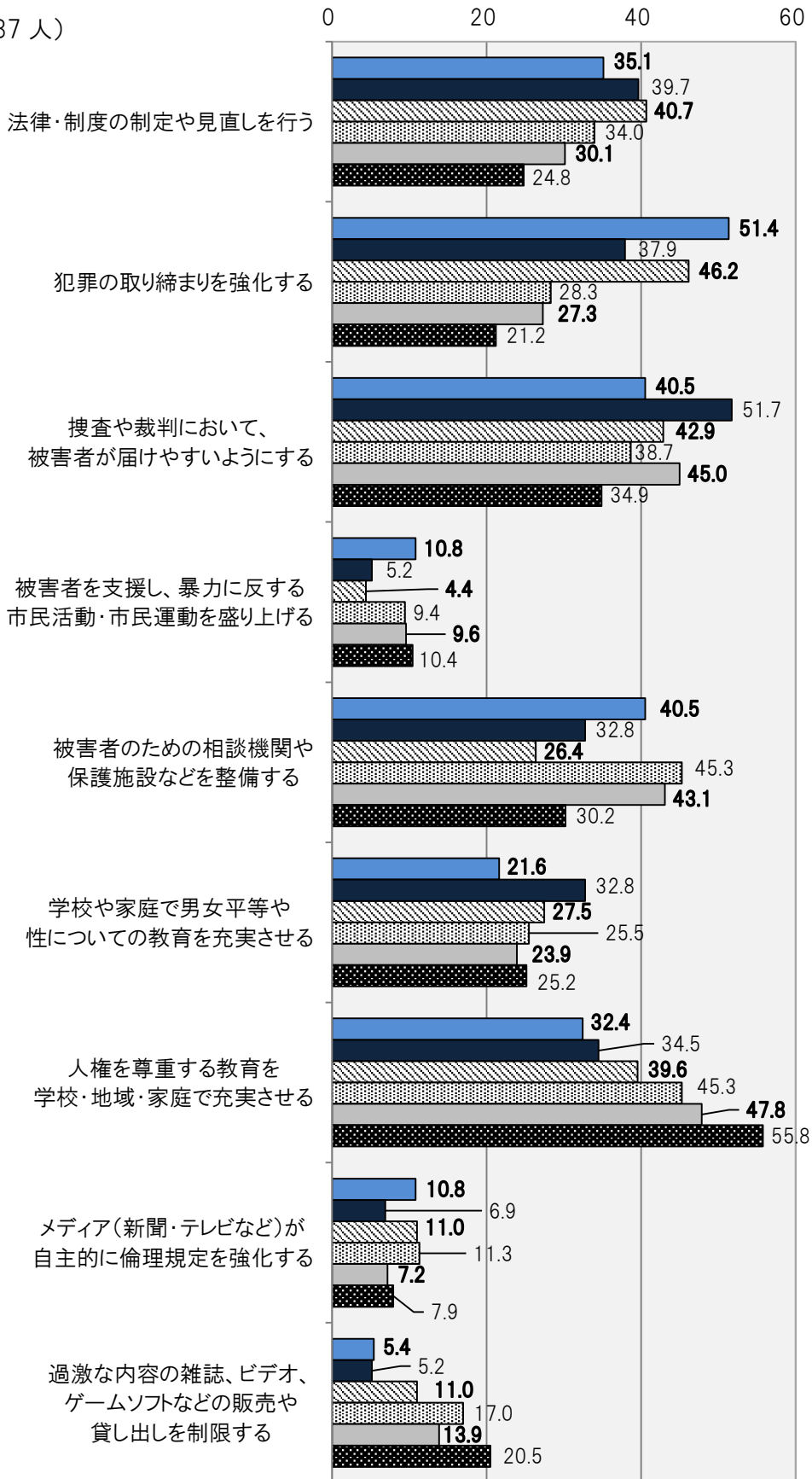
・年代別では、「人権を尊重する教育を学校・地域・家庭で充実させる」は年代が上がるほど支持率が高くなり、70歳代以上では55.8%と、29歳以下の32.4%と23.4ポイントの差がある。29歳以下の年代で支持率が高かったのは「犯罪の取締りを強化する (51.4%)」で、この項目は40歳代46.2%、30歳代37.9%であったのに対し、50歳代以上からの支持率は比較的低くなっている。

(n=787 人)



年代別

(n=787 人)



■ 29歳以下 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代以上

問14記入欄 回答
加害者に対しての充実した更正プログラムの整備。
女性が身を守るすべを身につける必要もあるのでは？
夫に逆らわない。
選択肢にある制限では足りない厳しい制限。
愛情を持って子育てする。愛情がなければその子は犯罪を起こすかもしれない。
報道のしすぎ。
女性に護身術を学ばせる。
そういう行動を起こしている人に悪意の意識がないことが根本的な原因。なくすことはできないと思う。
会社内でのセクハラが多いと思いますので、会社内での研修が必要。法で義務化すべき。
起こる背景を調べる。
大人が「命」の大切さをしっかりと感じ取ることが必要。
職場での教育を充実させる。
マイクロチップを国民全員に埋め込み監視社会を徹底する。
個人により受け取り方の違いがあるため難しいと思う。
相手を尊重するという意識を子供の時から持たせるよう家庭環境を保つ。
主に女性だと思われませんが、女性が強くなること。
小学校で教育勅語的なものを教える。
自分を大切に。
個人個人、とらえ方が違うので難しい。
いちばんに家庭での幼少期からのしつけ、育て方が根本にあると考える。
各人がハラスメントの意識を高めるような取り組みを行う。
勉強不足で何も考えられない。
加害者のための相談機関があればよいのでは？
身近な具体例をもとに、職場や地域で学ぶ機会をつくる。
女性にも意識改革が必要。

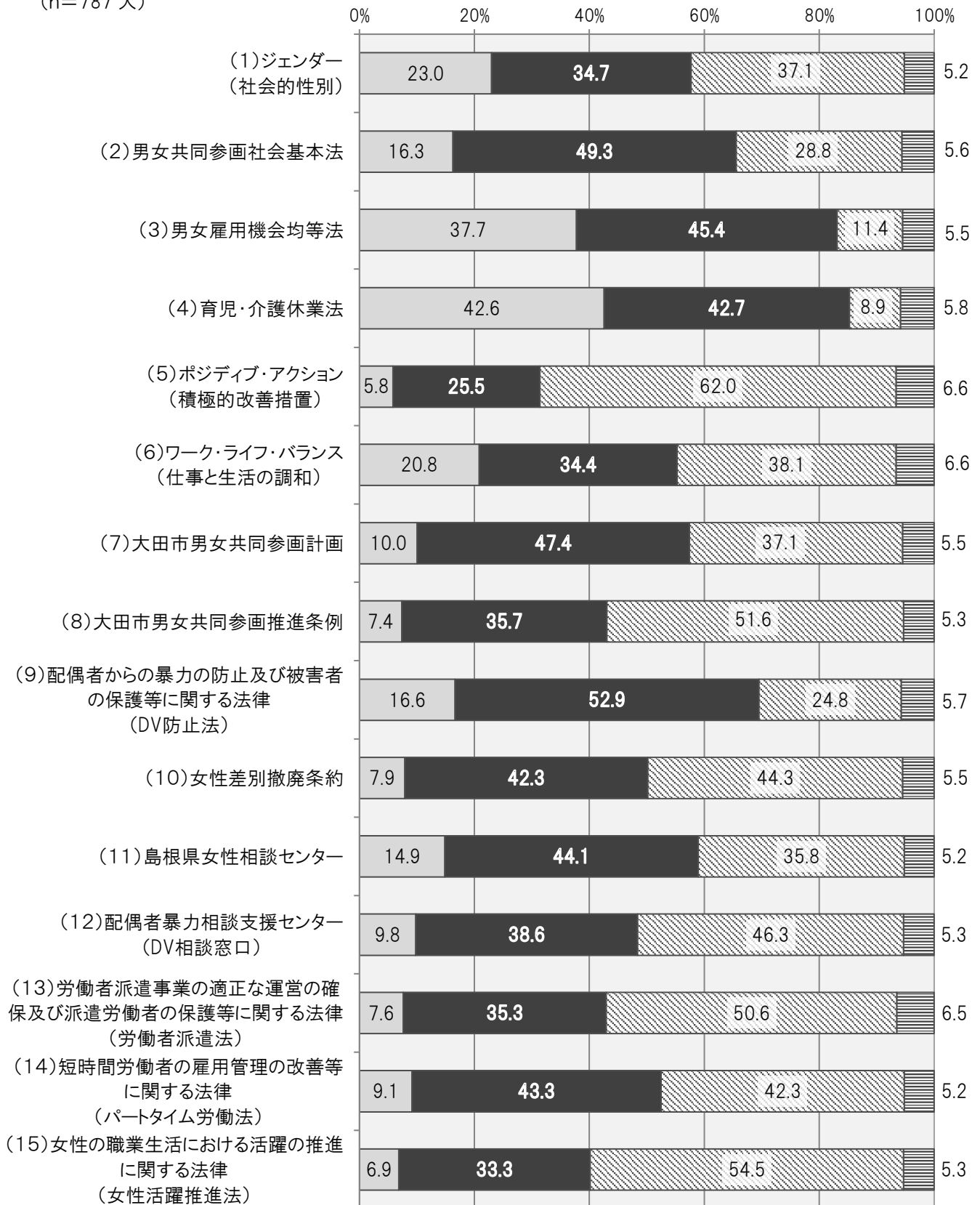
問15. 次の男女共同参画に関する事項を、あなたはどの程度ご存じですか。

・「概要を知っている」人の割合が最も高かったのは「育児・介護休業法（42.6%）」、次いで「男女雇用機会均等法（37.7%）」、「ジェンダー（23.0%）」の順で挙げられる。この「概要を知っている」に「言葉を聞いたことがある」を加えた『認知度』として高いのは、「育児・介護休業法（85.3%）」、次いで「男女雇用機会均等法（83.1%）」の認知度が8割を超え、続いて「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（69.5%）」、「男女共同参画社会基本法（65.6%）」の認知度が6割を超えている。これに対し、「知らない」人の割合では「ポジティブ・アクション（62.0%）」、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（54.5%）」、「大田市男女共同参画推進条例（51.6%）」と続いている。男女共同参画に関する15の調査項目のうち、5項目で『認知度』が過半数に達していない。前回調査と比較して同様の結果であり、変化は見られなかった。

・15項目それぞれについて年代別に見てみると、比較的40歳代から50歳代の世代で「概要を知っている」と「言葉を知っている」を含めた割合が高くなっている。一方、70歳代以上と29歳以下の世代では「知らない」と回答した項目が多くなっている。

・今回調査で新たに設けた「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」の項目については、「概要を知っている」人の割合が最も高かったのは30歳代（12.1%）、次いで40歳代（11.0%）で、そのほかの世代ではいずれも1割に達しなかった。

(n=787 人)



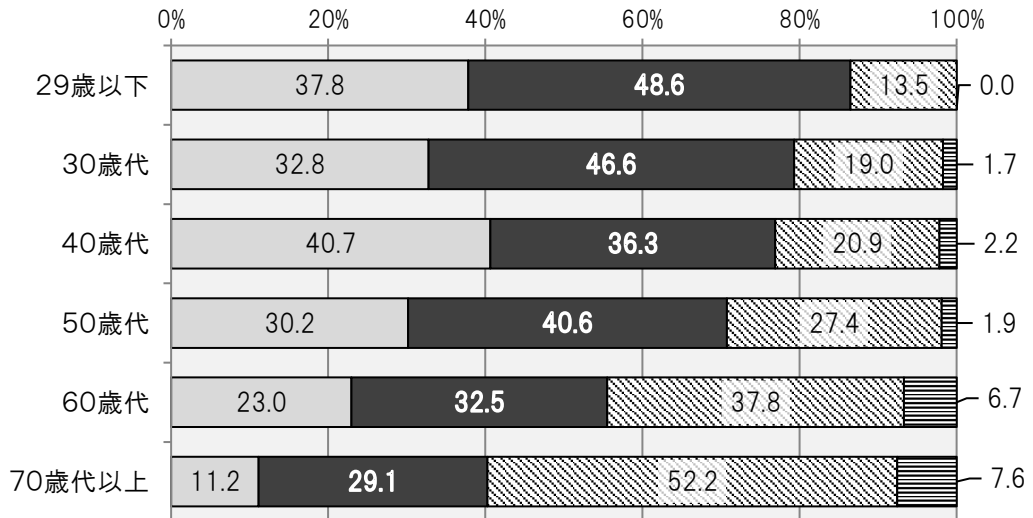
□ 概要を知っている

■ 言葉を聞いたことがある

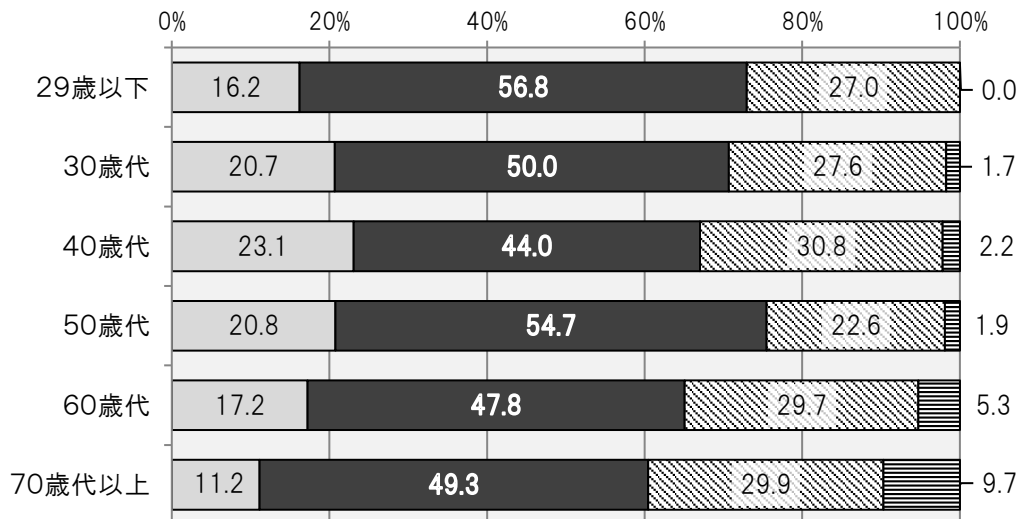
▨ 知らない

▩ 無回答

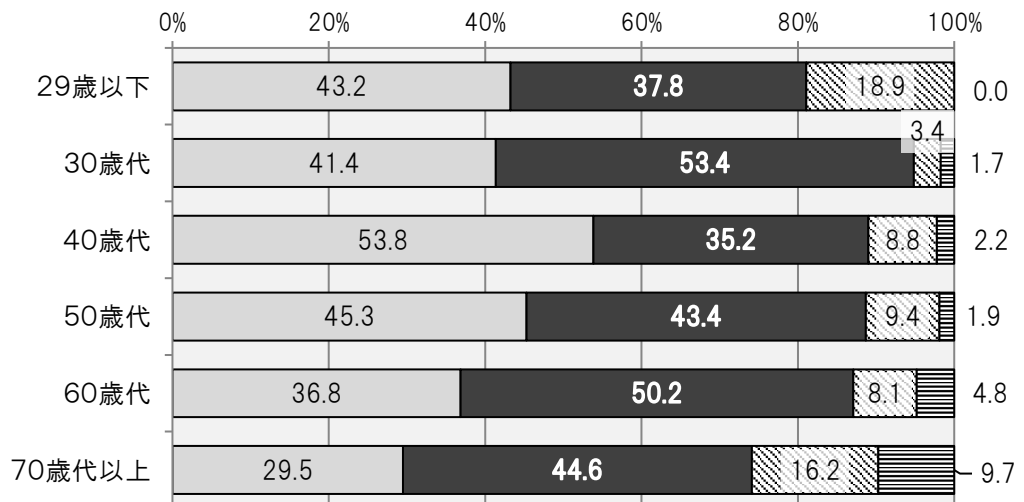
ジェンダー(社会的性別)



男女共同参画社会基本法



男女雇用機会均等法



□概要を知っている

■言葉を聞いたことがある

▨知らない

▨無回答

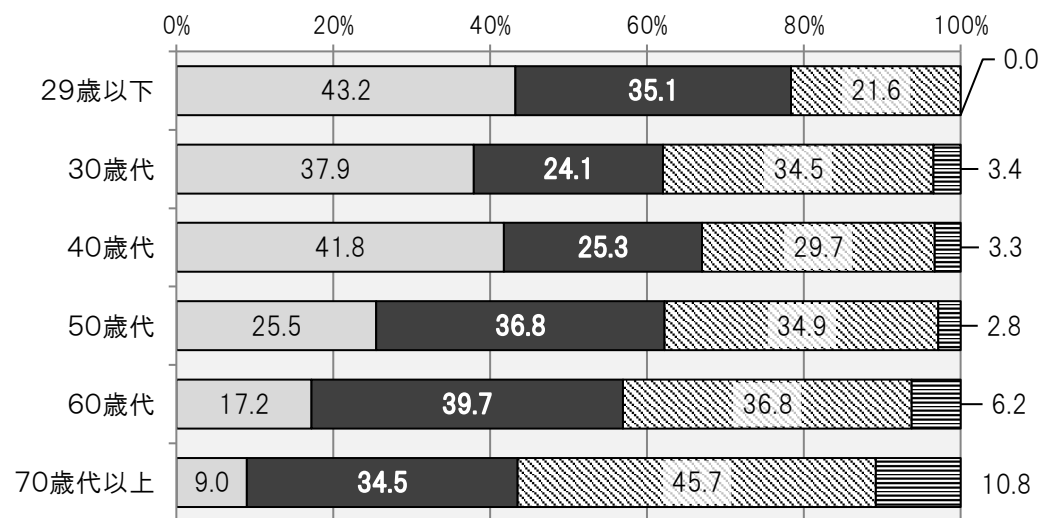
育児・介護休業法



ポジティブ・アクション



ワーク・ライフ・バランス



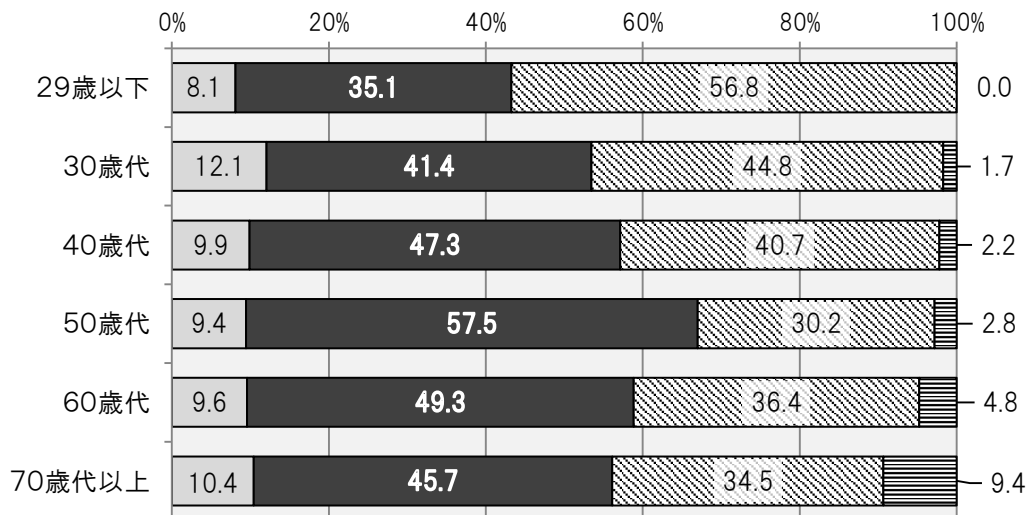
□概要を知っている

■言葉を聞いたことがある

▨知らない

▨無回答

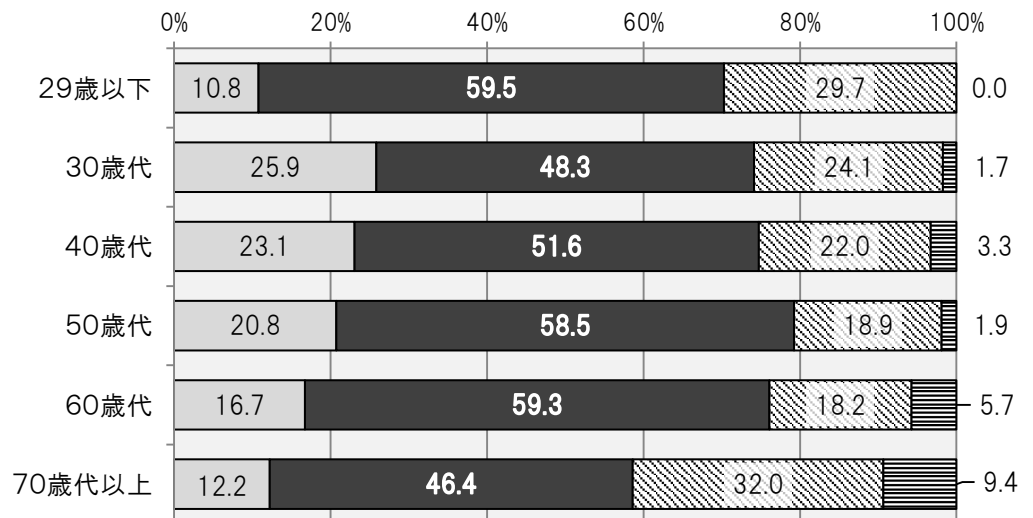
大田市男女共同参画計画



大田市男女共同参画推進条例

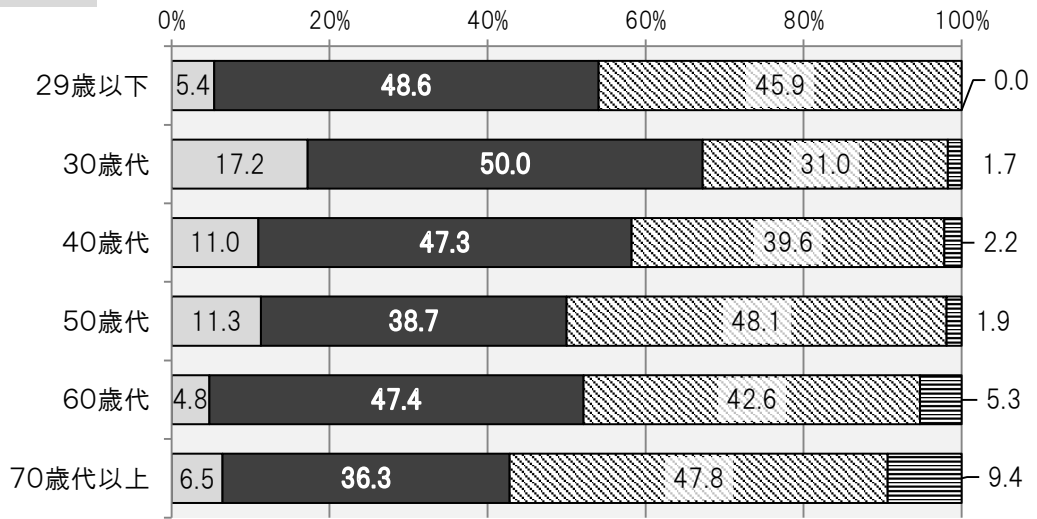


DV防止法

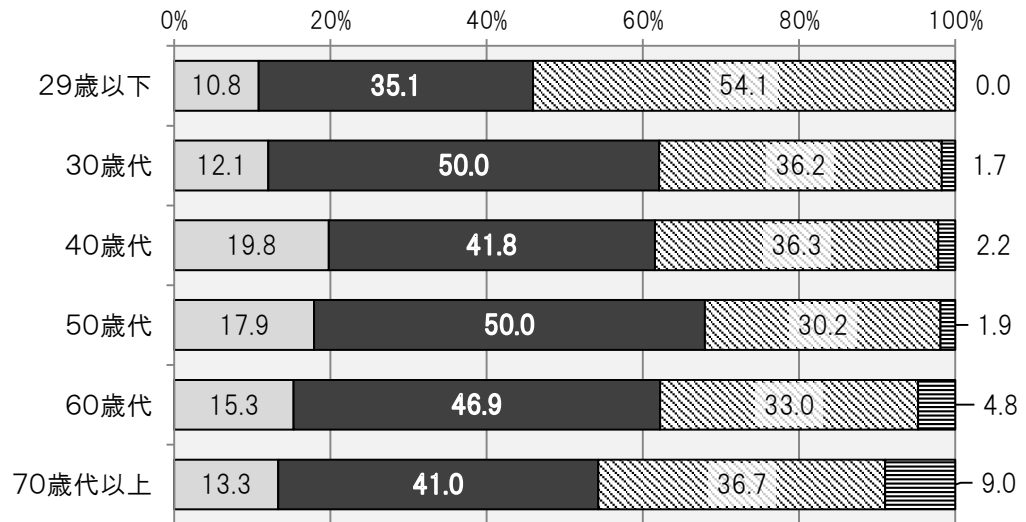


概要を知っている
 言葉を聞いたことがある
 知らない
 無回答

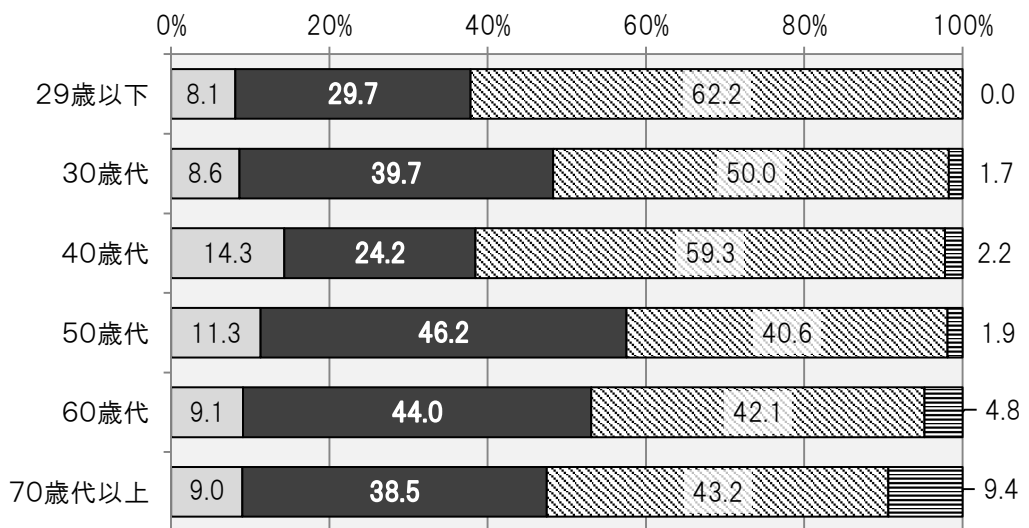
女性差別撤廃条約



島根県女性相談センター

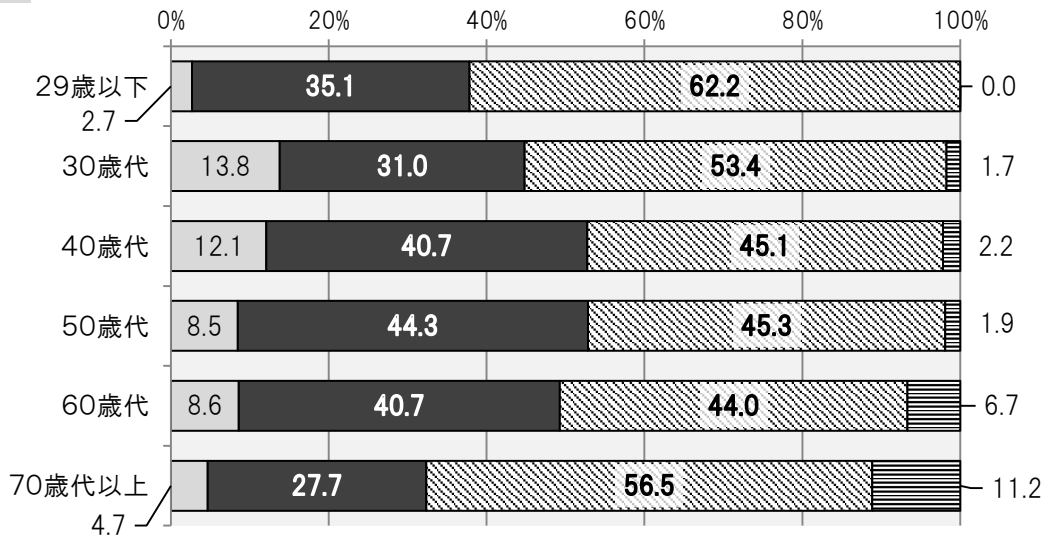


配偶者暴力相談支援センター

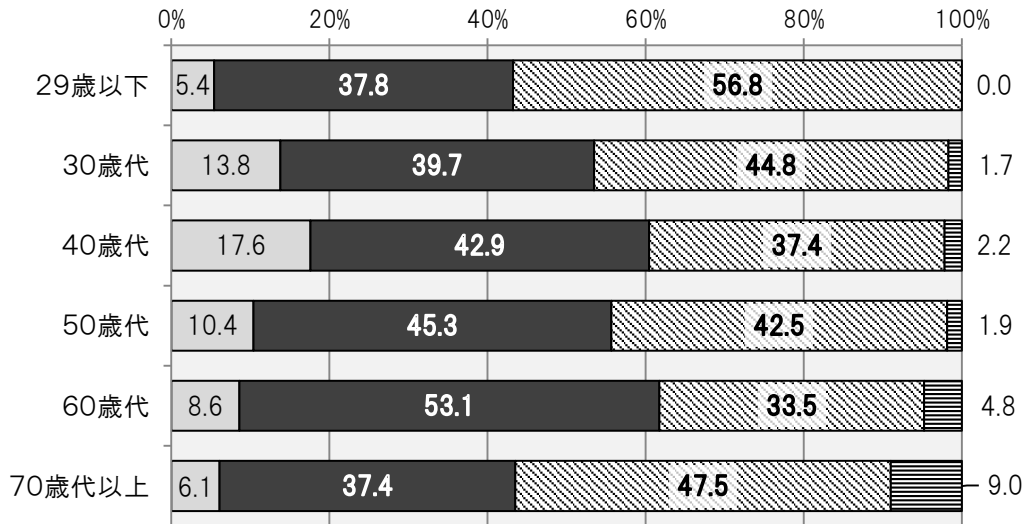


□概要を知っている ■言葉を聞いたことがある ▨知らない ■無回答

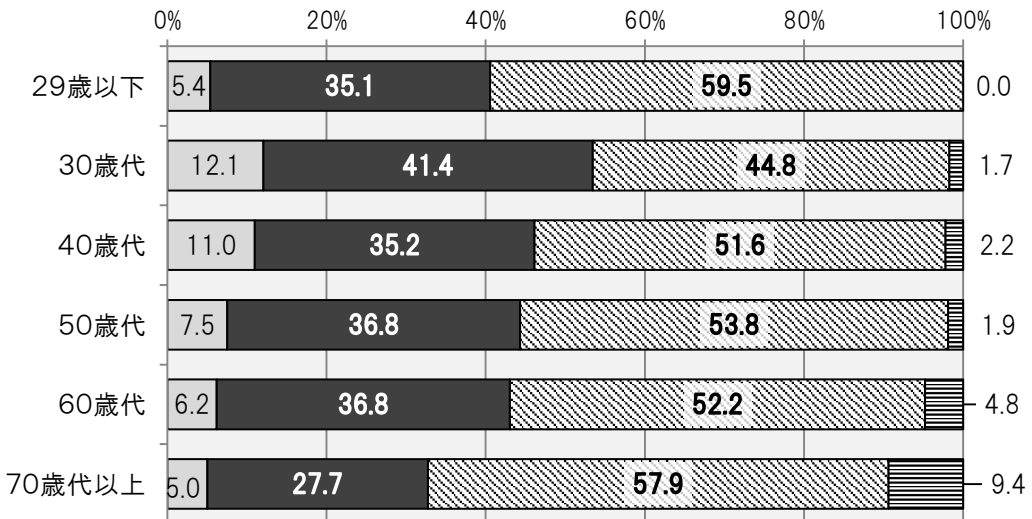
労働者派遣法



パートタイム労働法



女性活躍推進法



□概要を知っている ■言葉を聞いたことがある □知らない ■無回答

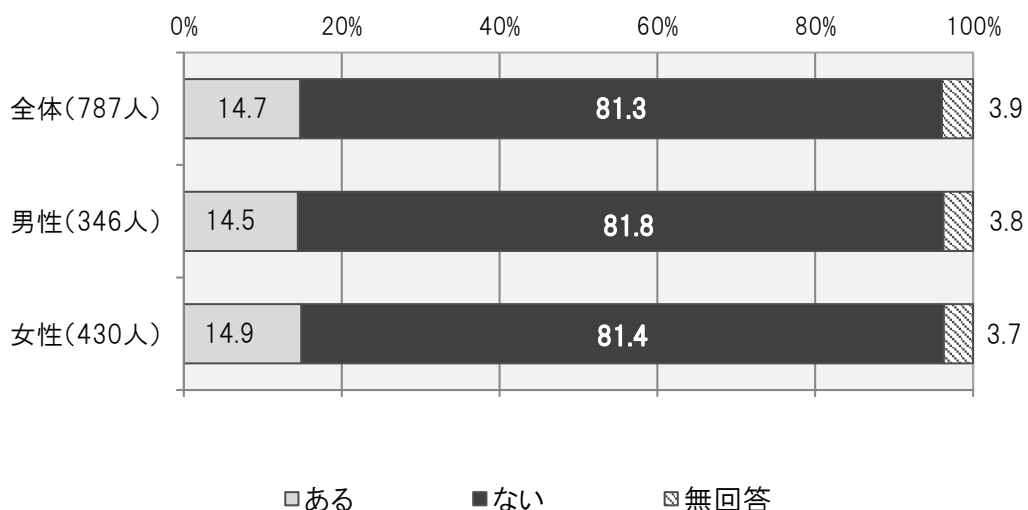
■ 男女共同参画推進事業について

問16. 大田市や他の機関（サンレディー大田、あすてらす等）において実施している男女共同参画に関する講演会や講座・研修会に参加したことがありますか。

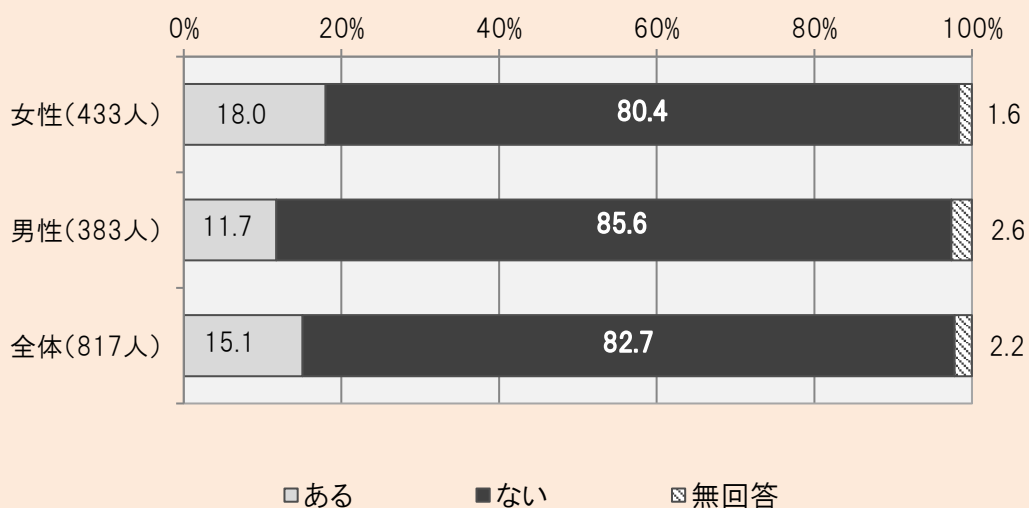
・講演会や講座・研修会への参加について「参加したことがある」人の割合は14.7%で、H26年度調査と同様、2割に達していない。

・性別で見た場合、女性と男性ほぼ同じ値となっている。

令和元年度調査



平成26年度調査

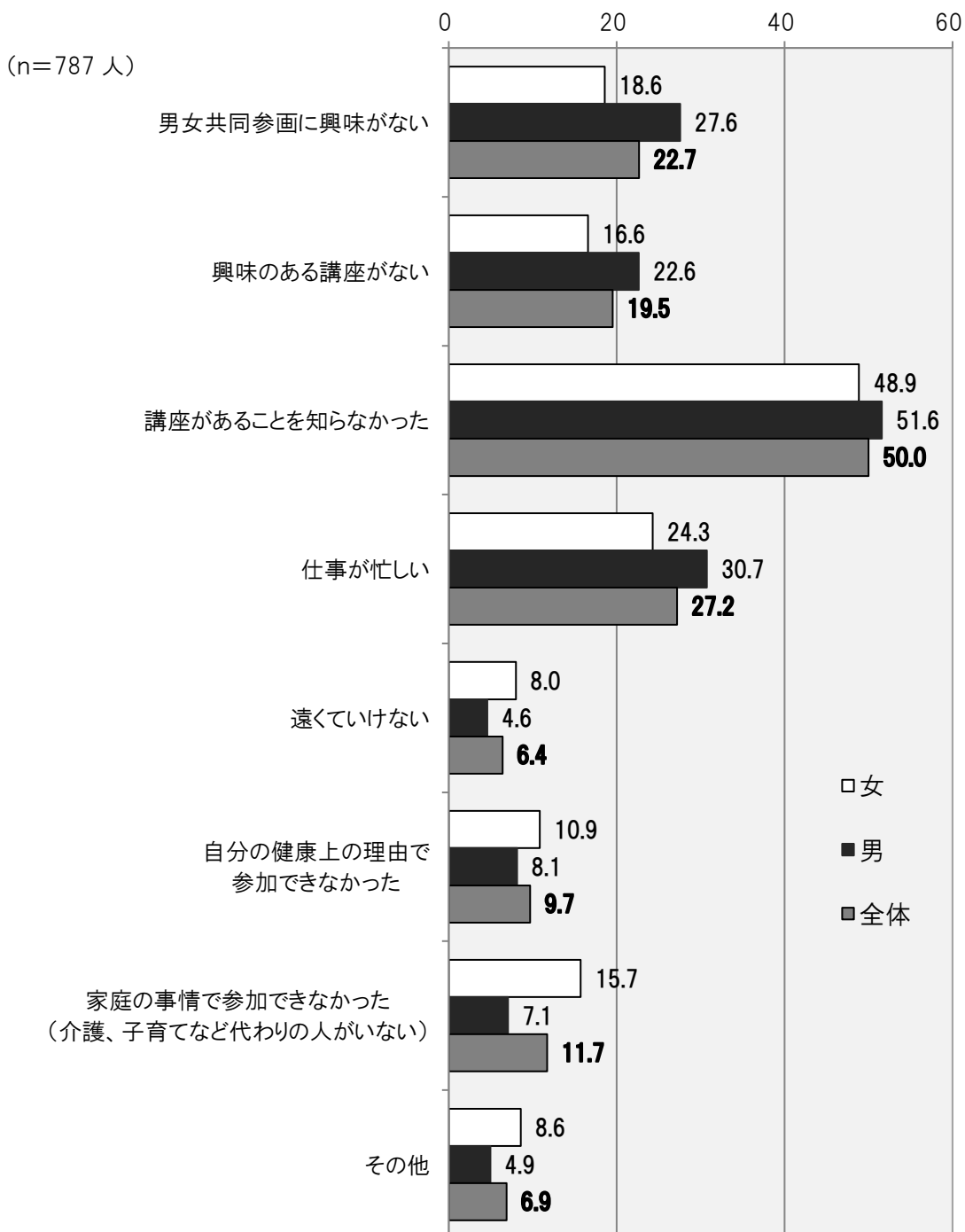


問17. 参加したことがない方にお尋ねします。「参加しない」または「参加しなかった」理由は何ですか。

・「講座があることを知らなかった (50.0%)」の値が最も高く、次いで「仕事が忙しい (27.2%)」、「男女共同参画に興味がない (22.7%)」、「興味のある講座がない (19.5%)」と続いている。

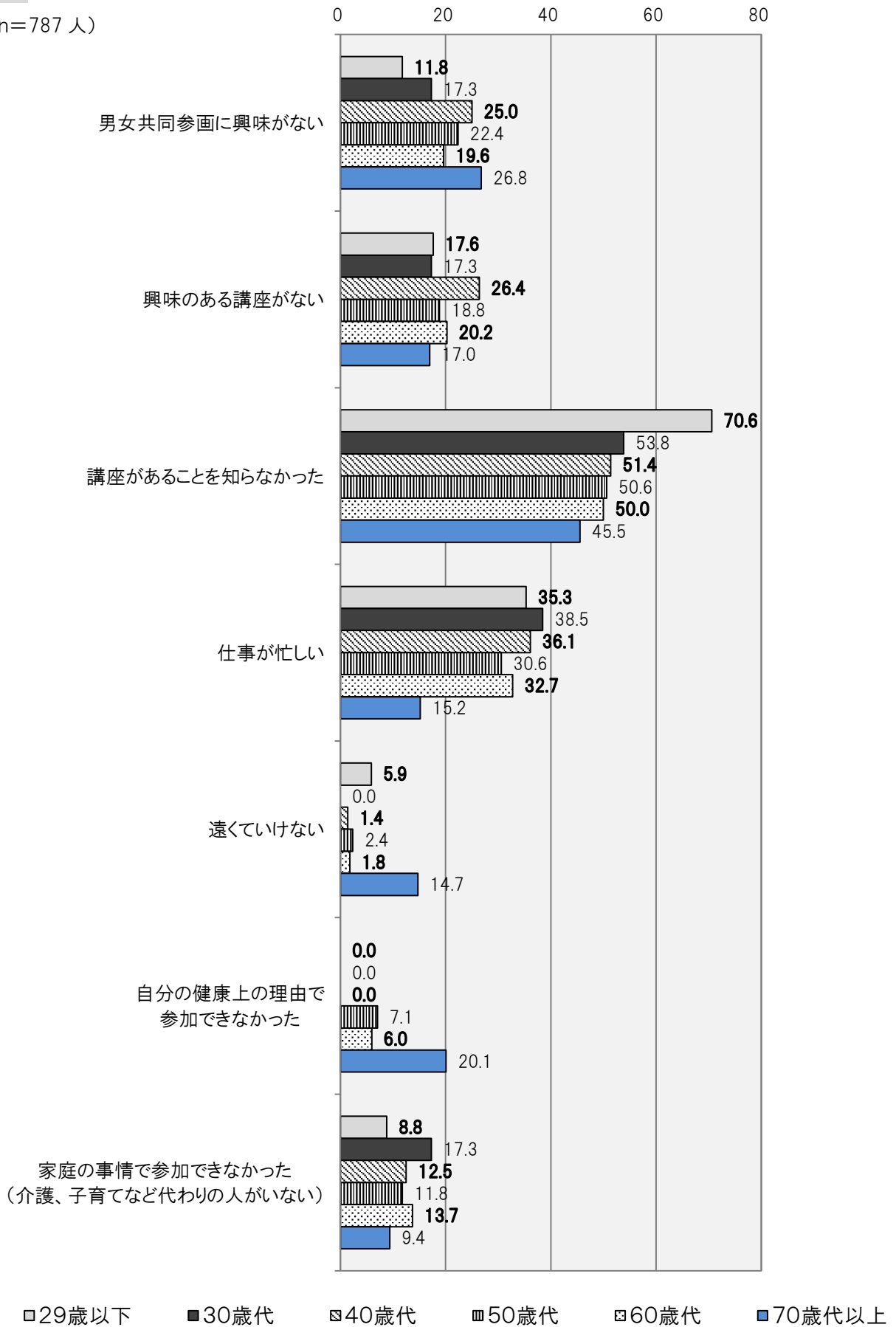
・性別で見ると、女性で「家庭の事情で参加できなかった (15.7%)」人の割合は男性 (7.1%) と比べ 8.6 ポイント差があった。男性の割合が高かったのは「男女共同参画に興味がない」で、男性 27.6%、女性 18.6% (9.0 ポイント差) となっている。

・「講座があることを知らなかった」では 29 歳以下が 70.6% と最も高くなっており、70 歳代以上では「自分の健康上の理由で参加できなかった (20.1%)」や「遠くて行けない (14.7%)」の割合が高くなっている。



年代別

(n=787人)



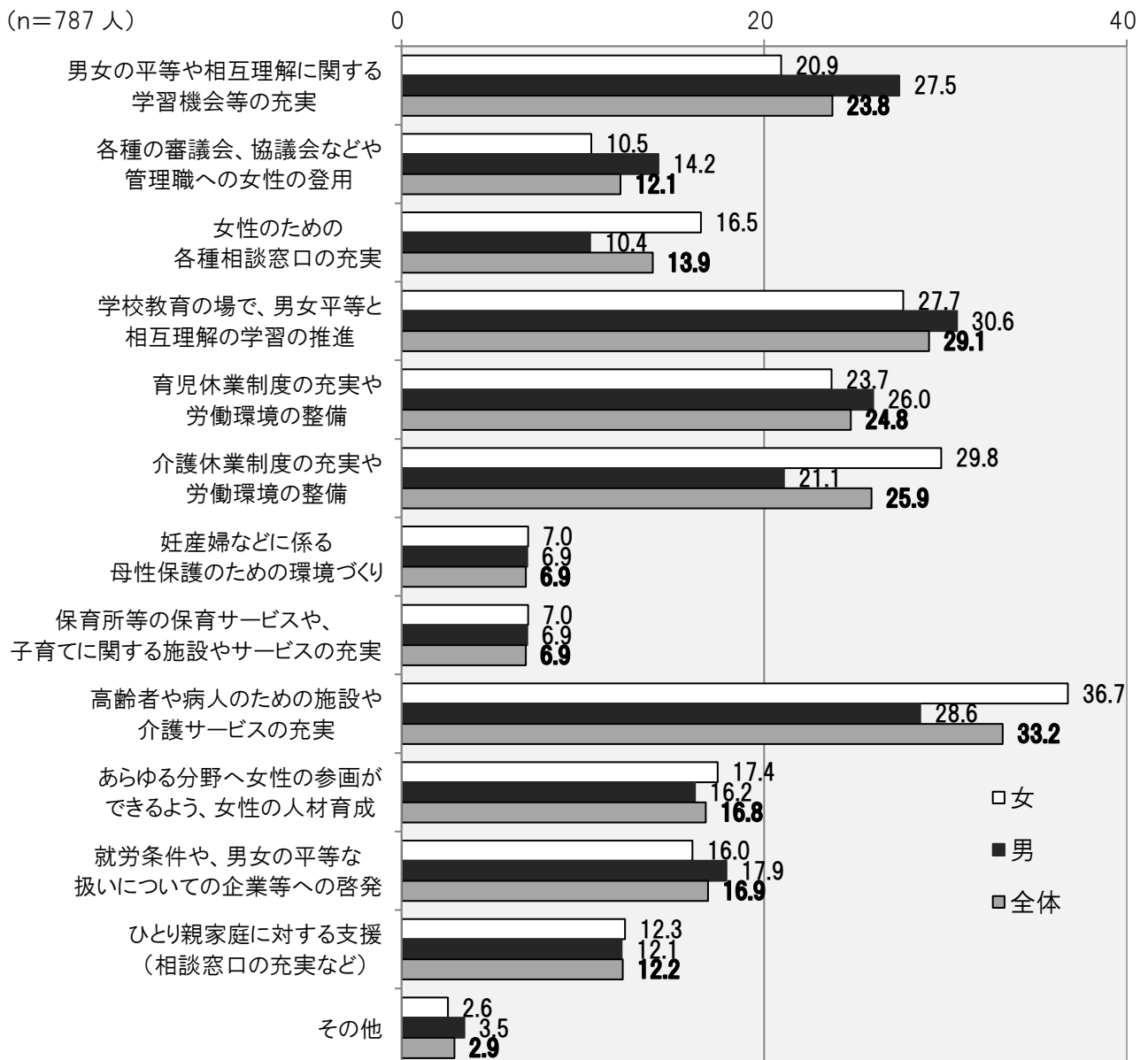
問17記入欄 回答
学生なので。
一人だと行きにくい。
知らない。
年齢的に必要と感じないため。
店を閉めて行くわけにはいかない。
男とか女とか区別する事じたい差別の気がする。
今のところ必要でない。
仕事との日程が合わない。
仕事をしている時期は講座がなかった。今は直接必要ない。
バスの時間が合わない。
年寄の為行く機会がない。
車にのれない。
家庭の用事が忙しい。
参加するタイミングがなかった。
高齢のため出席できない。
転入して日が浅いため。
強度な必要性に迫られていない。
駐車場が少ない。
他の用事を優先した。
体調を考えると参加できにくい。高齢ということもある。
介護。
単身で大田にいない。
都合が合わない。
家庭の事情(農作業)。
ぎんざんテレビで映るから。なるべくなら静かに講座を受けたい。
講演会を受ける興味がない。
日々の生活(仕事や家事)で、どうしてもいきたいと思う企画がなかった。
平日は参加できない。
日時等、タイミングが合わない。
まちづくりセンターでもしてほしい。大田は遠くて車がないから行けない。
言葉では理解していても年齢的に参加は無理。
男女共同参画、もっとわかりやすい言葉がほしい。
退職した後自分の生活を大切にする時間が欲しかったのであえてその必要性を感じなかった。
たまたま他の用事とかちあっていけなかった事が多い。
共同参画よりもわかりやすい、なじみのある単語になっていたら参加しやすい。
多分自分の事として聞いていなかったし考えもしてなかった。今はもう子供にお世話になっているのみ…。

問18. あなたは、男女共同参画社会を形成していくため、今後、大田市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

・今後、大田市がどのようなことに力を入れていくべきかという質問（複数回答）に対しては、「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実（33.2%）」が最も高く、次いで「学校教育の場で、男女平等と相互理解の学習の推進（29.1%）」、「介護休業制度の充実や労働環境の整備（25.9%）」、「育児休業制度の充実や労働環境の整備（24.8%）」が支持されている。

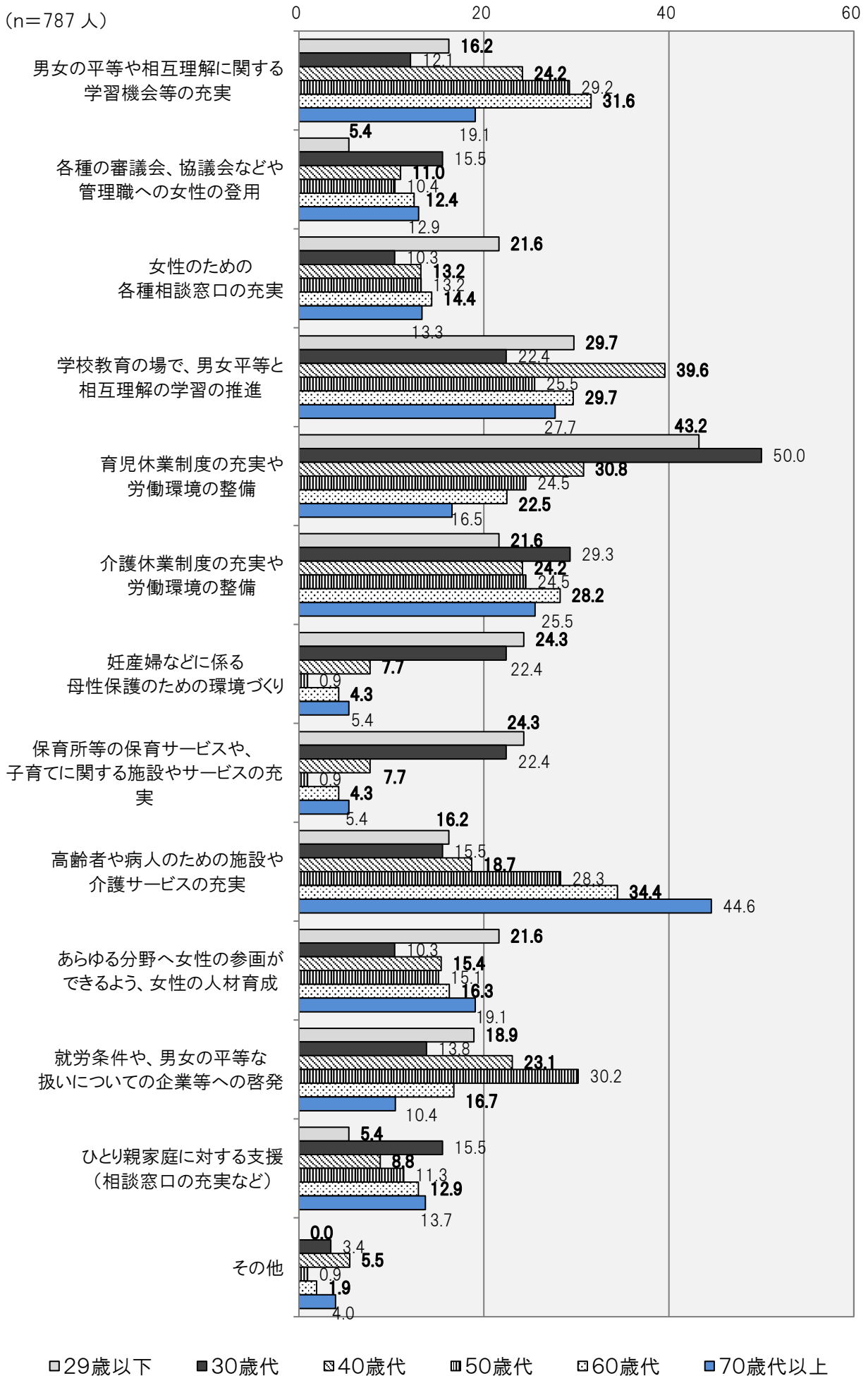
・性別で見た場合、女性からの支持が多く男女差が比較的目立つものは「介護休業制度の充実や労働環境の整備（女性29.8%：男性21.1%、8.7ポイント差）」、「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実（女性36.7%：男性28.6%、8.1ポイント差）」で、逆に男性からの支持が高かったのは「男女の平等や相互理解に関する学習機会等の充実（女性20.9%：男性27.5%、6.6ポイント差）」であった。

・年代別で見ると、29歳以下、30歳代では「育児休業制度の充実や労働環境の整備」や「保育所等の保育サービスや子育てに関する施設やサービスの充実」、「妊産婦などに係る母性保護のための環境づくり」など子育てに関する項目の値が高く、60歳代、70歳以上では「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実」の値が高くなっている。



年代別

(n=787人)



問18記入欄 回答
わかりません
大田市における子どもの数は年々少なくなっています。子育てが充実している町にすべき。
市議、職員への教育強化。知識不足、経験値不足がありすぎ。
経済的支援の充実。
ひとり親をなくしたいですね。
年のため分かりません。
心のゆとりが必要。税金安く！（お金の問題は政治家や公務員など上層部にはわからないほど深刻化している）
選択肢の中から選ぶという趣旨は理解できるが、それが何も「できていない」から大田市のこの現状があるのであり、このようなアンケートに予算を使っている時点で大田市はダメだと思う。
チャンスは認められているので女性の努力次第。
男女のカベがありすぎる、男とか女とか言っている時点で差別。
出来れば選択項目全部。
自治会の男女差別をなくしてほしい。夫婦での強制的な役員参加。交流会での男性は全くうごかない、女性は座る間もなく最初から最後までうごきっぱなし。
病後児保育だけでなく、病児保育をどこかでやってほしい。
各種の審議会、協議会などや管理職へ女性を登用するように、まず市役所内に部長級、副市長を女性に！希望がなければ大田市役所の何が問題なのか、職員に丁寧に聞き取りをすること。しあわせは人、それぞれなので…。
病気がちでそんな気持ちになれない。
とにかく子供達がいる町づくりをしてほしい。第一に結婚して子供出て人口をふやしてほしいです。人口がふえると機械も米も野菜もお店も買う人が増えて大田市も良くなると思います。施設を作る金があるなら今から日本を守ってくれる若い人達に力を入れてほしいです。
社会教育の充実（公民館の復活）
何も考えがつかない。若い方皆さんよくやってらしゃいますし、まわりの方にお世話になっているのみ…
男性も育休とりやすくすればよいのでは？
問9で回答したような、社会が根本的に変わることが必要。大田市ができることは、国に現状を伝えて改善を求めること。

問19. 男女共同参画社会の実現について、ご意見・ご要望がありましたらお書きください。

問19記入欄 回答	属性
土、日、祝日と休みが多すぎる。子どもも大人ももっと学校へ、仕事へがんばった方がいい。ゆとりは考えない方がいいと思う。	50代/男性/商工業 (自営、役員)
困った事が起きた時、誰に相談すれば解決できるのかが分からず、なかなか心にもイライラ感がつきません。落ち込みが取れなくて、今までに何回”死”を覚悟したか……。こういう時、いったいどうすれば気分もラクになるのでしょうか？いいアドバイスがあればおしえてください。お願い致します。	60代/女性/家事専 業
男女の事を考えなければなりません、昔の父母の態度を思い出しての生活、多くのあわない点があるようです。調査あいさつにあるように私たちをとりまく環境は大きく早く変化することを感じます。聴かされながら進ませてもらうことと思います。「生、考、病、死」を知人と仏法をご縁に話すところです。ありがとうございました。	70代以上/男性/無 職
これからは特に、中山間地域での女性の活躍の場が増えていって欲しいと思います。	60代/男性/農業
朝、涼しくなって参りました。毎日お疲れ様です。町センで色々な会があり好きな会へ入会しています。集会での話ですが、市民、町民何でも言いたい事沢山あるようです。各町センへ出かけられて町民の意見を聞いて下されば、何だか一人思うのですが、もっともっと良い社会、街づくり、町づくりができるのではないのでしょうか？毎日不満を持ち続けていると不健康でもあるし、何でも住み良い国、住み良い県、住み良い町であって欲しいと思うのです。大田市が日本一とか、どこがそうであるのか、何がそうであるのか、5W1H聞きたく存じます。住み良い町、市とおっしゃるのちに地震は来る。災害が来ないとは、思っよいいものではないと思うのです。農業をしても野山を荒らすものはいる。農民が育てた食物は取られて、泣き寝入りしています。あんな、こんな事で良い市、町と言えますか？お聞き致します。法改正とか願う者です。	60代/女性/家事専 業
今回長男の嫁である私が代筆させて頂きました。本人は少々認知と15年以上ほとんど社会とは無縁で今はほぼ寝たきり状態です。86歳という年齢ですので、たぶん望んでおられる回答ではないと思いますが、今回本人に聞いてアンケートに回答させて頂きました。寝たきりなので、どれにもあてはまらない所は書いていません。寝たきりの人や社会無縁の高齢者には、こんなアンケートは難しいと思います。	70代以上/男性/無 職
共働きの世帯が多い中で、女性が働くことは以前と比べても「当たり前」になってきていると思う。男性と大きく違うのは妊娠・出産だと思うが、企業側がいかにかそれを理解し、有給や子どもの発熱による急な休みに対応していけるかが大事なと思う。仕事さえ、子育ての負担にならない程度でできれば、私はあまり「女性だからどうのこうの」ということは関係ないかなと思います。「男女平等」という言葉そのものが、いつかなくなると良いなと思います。	20代/女性/商工業 (自営、役員)
男性の中には家事を一切妻に任せて仕事だけの人もいます。女性は、共働きでも求められる事は専業主婦の時と変わらない。スーパーウーマンでもないの、家事、仕事をこなすのが精一杯です。	40代/女性/会社員 (公務員、団体職員 含む)
地域の活性化。特に駅前(大田市)の旧パル跡地を早急に開発して頂きたい。健康増進、娯楽、買い物のための総合的な施設を作ってほしい。	50代/女性/無職

一朝一夕には変わらないと思う。特に一定の高齢者の人達の意識を変えるという事はとても難しいと思います。子どもの頃からの教育(学校、家庭での)がとても大事だと思います。育児、家事など子どもの頃から教えたり、させたりするべき(男女両方)。	40代/女性/パート・アルバイト・内職など
女性の特性を活かす。 女性だからというだけで特別に優遇されるのはどうかと思う。 女性も甘えることなく権利の主張にふさわしい努力や研鑽や積極性がほしい。 マスメディアのレベルを上げてほしい。つまらない番組が多い気がする	70代以上/男性/農業
今度の男女共同参画に協力しましたが、この中のいくつか実行に向かったら良いと思います。お疲れ様です。	70代以上/女性/無職
日本の昔は男性上位。80代の私は男女同権は今の若い世代にゆきわたれば良き時代になると思います。この様なアンケートは良き世代への努力の一つと考えます。	70代以上/女性/家事専業
私はもう年齢的にもこの調査には資格はないと思いますが、私は永年働いてきた経験から記入しました。私たちが働いていた時代より今の方が働きやすい環境になってきてはいると思います。でも島根県はまだ他の地区にくらべ考え方も規則もおくれていると思います。家庭での考え方もおくれていると感じます。	70代以上/女性/家事専業
男女共同参画と言っても体力的な面もありやはり男には男の仕事、女はやさしさを求める仕事となる事は仕方ないと思います。	70代以上/男性/農業
教育現場での男女平等はある程度浸透していると思う。しかし、昔から続く習慣は変化があまりみられないように思う。特に高齢者は、男性優位があたり前の時代を過ごしている。大田市は高齢者が多く、古い考え(家は長男が継ぐ、男児を産め、みたいな)を次の世代にも押しつけている感じがする。同和問題も同様のように思うことがある。若年層よりも問題なのは年齢が上の世代。この人たちの意識が変わらないと、家庭内、職場、社会全体が変わらないように思う。	30代/女性/会社員(公務員、団体職員含む)
男女問わず仕事に就いて家庭、地域の活動も含めて育児、介護、看護等全てを協力者なしには出来ません。その協力者は家族であり、会社であり、行政であり、地域社会です。そして理解し合う事。最近ひきこもりをよく耳にします。ひきこもる理由は様々あると思いますが、なんとか社会とつながっていて、そしていつか社会に参加出来る様になって欲しいと思う。そのために何をすべきか誰もが他人事と思わず考えられる社会になって欲しい。	60代/女性/家事専業
役所の人アンケートを取って調査しても前に進むことはないように思われる。女性の実体験者や知識人で作る会を発足させた方が良いのではないか。幼児が虐待で何人も死んでもまだ自分たちの調べでは何事もなかったようなことを言う役所の人には何もできない。	70代以上/女性/商工業(自営、役員)
何かと女性が強くなってきている時代。もう少しアンケートの中に男性を擁護する項目もあってほしかった。	60代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)
大田市は男性でも仕事がなかなかなくて、それを男女共同社会はまだ早いのでは？仕事ができる大田市にしてほしい。自分もIターンで来たが、仕事がないから江津市で働いています。来た意味がありません。	40代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)
何と言っても家庭が大切です。夫婦仲が良いが一番。	60代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)

男女共同参画社会の実現は理想ではあるが、個人的な差異はあり、能力も多様であるから男性であれ女性であれ、そのもっている特性を自分ではっきり把握する必要がある。その上で自分が納得しうる方向に行くべきである。まず自分が何に向いているのか、自己の個性を自分自身が自覚する必要がある。…と抽象的に思うのである。	70代以上/男性/農業
幼少時からの教育が大事。現状は手遅れ感があるが現在においては女性の人材育成が必要！	70代以上/女性/無職
基本的に男女には向き不向きがあると思う。(古いかも知れないが)しかしこれからの社会、人口も減ってゆく一方ではあるし、これを(向き不向き)乗り越えてゆかねばならないが、時間はかかると思う。子供のときからの意識が重要と思う。教育ですね。しっかり頼みます。 ☆平成18年11月に「大田市男女共同参画計画」を策定、様々に取り組まれて来られたみたいだが、その内容を知りたい。この機会に具体的事例を知らしめるべきではないか。	70代以上/男性/無職
アタラズサワラズの設問 ヤル気があるのか、ないのか。政治的リーダーシップが感じられないぞ。	60代/男性/農業
大田市男女共同参画計画を平成18年11月に策定し とありますが、様々な取り組みとは具体的にどのような事をされたのですか？	30代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
私自身高齢の為全部の質問に答えることは出来ません。気持ちは若いのですがすべての質問が？です。	70代以上/女性/家事専業
70代の夫婦世帯でいわゆる昔の人間です。女性が家事などを主にやる事に抵抗もなく、又自分自身も満足出来るように思います。今更改める気もないのですが、この後、主人が一人で生活するようになったら何も出来なくて困るだろうと思います。	70代以上/女性/商工業(自営、役員)
男女平等には基本的には反対の立場。男も女もちがう生きもの。どんなにがんばっても自分のおっぱいから乳は出ない。異なる生きものを平等にあつかうより、それぞれの性別でしか出来ないことを大事にしたいと考える。妊娠、出産は女性にしか出来ない。仕事は男でも出来る。では女性は何を優先すべきか、女性にしか出来ない事をないがしろにして、男でも出来ることを優先するのは本当に正しいことなのか。今の少子化の原因の一つに「男女平等」という言葉が含まれていると思う。	30代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
社会人になり一通りの事を分かっている人にこれから変えるよう働きかけても考えはなかなか変わらないと思います。社会に出るまでのところで教育しておけば少しずつでも良くなると思います。セクハラ、パワハラは攻撃をしている本人に自覚がなければ良くなりません。ADHDの方が上司にいと部下は全て従わないといけない。何も変える事はできない。	40代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)
後期高齢者には少々アンケートに記入しにくかったです。すみません。催しの利用(見学)が分からず、意外と参加、見に行ってません。	70代以上/女性/無職
日本の女性の地位が世界で110位ほどが続いていることを思うと、この問題は一個人や企業等のみの努力で解決できることではないと思います(もちろん足元から改善の努力はしなければいけません)。まずは国の制度として同一労働、同一賃金等の法律を整備し実施することが国民に男女平等の思いを実感させその土壌を育てることになるのではないのでしょうか。身近な大田市では、女性幹部を育て、市民に大田市で共同参画社会が実現している実感を持たせて下さい。	70代以上/女性/無職

年をかさねた者には少しむり。	70代以上/女性/農業
現在、女性が軽視されていると言う事を前提としての質問が多かった様に感じました。私は、この事に対しての知識が足りないのかもしれませんが、今の日本は女性の地位はずいぶん向上している様に感じます。政治の世界でも、職業の世界では、力とやる気のある女性はどんどん活躍されていると思います。ただ一部の心ない女性が先人の立派な女性たちが(男性もおられると思いますが)勝ち取られた女性の権利を悪用される方がるのが悲しい。こんな事では本当に困った女性を助ける事が出来なくなる様に思います。世界の人類がすべて同じ立場で笑って暮らせる時代がくればいいですね。※男性の本音 何も口答えせず、ただ一言「ハイ」と言っておくと家内安全(私の家庭の事ではありません)	60代/男性/商工業(自営、役員)
福祉、女性のための制度を広めていくこと(こんな制度がありますよ、等)。いろいろな場面や方法での広報をお願いします。	20代/女性/会社員(公務員、団体職員含む)
今現在は元気ですがもし施設でお世話になりたい時にはかんたんに入れないと聞いて居りますが今後多くなるのではないかと心配も考えています。	70代以上/女性/家事専業
いじめ問題、あおり運転の問題、ストーカの問題そしてセクハラやDVの問題の数々問題はいまだに完全解決されていないのはどうしてですか 法律を作っても消えていかないどこかでまた被害者が生まれている。結局加害者から言えば「見つからなければいい」又は「見つかってもし大した罪にならない」と思っているからですかね。また加害者が半強制的に弱者に威圧(いあつ)を加えてバレない様にしているケースもある。加害者になってしまったら大損する人生を送る事になると思うぐらいの抑止力のある法律が必要??又その宣伝ともっと簡単に出来る相談方法の工夫も必要かも。	60代/男性/商工業(自営、役員)
男女共同参画社会についてと問われても最近では男女平等の社会がゆき渡ってると思っていました。時々ではなく耳に入ってくるのは女性へのDV、子供への虐待も男女共同参画問題に入るとは思ってませんでした。	70代以上/男性/商工業(自営、役員)
大田市は県内でも特に保守的で、女性は出世しなくていい、パートぐらいで十分等、女性自身の意識が男女平等に程遠い。男性に負けないくらい働く、活動する!という元気な気持ちを作り上げなければ、いつまでたっても、女性がひかえめに生活する習慣が続くと思う。	30代/女性/会社員(公務員、団体職員含む)
社会保険130万円の壁により扶養に入る方、せつかくの能力があるのに会社で働いてももらえないことがある。	40代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)
見て見ぬふりをしないようお互いに意識を高めあらゆる活動の場で話し合いを。	70代以上/男性/無職
友人の娘が高校在学中に妊娠してしまい出産する為に2年間通った学校を退学しました。友人になぜ休学しなかったんだと聞いたら学校から退学して下さいと言われたとのことでした。なぜ女性だけが出産するのと引き換えに後1年通えば高校卒業資格を取得できるのにその権利を放棄しないといけないのか不思議に思いました。未成年で妊娠する事はあまり良い事とは思えませんがそれでもどうしても産まなければならない状況になった時、その娘達がそれから一生しっかり子育てと仕事をしていけるように市がしっかりと資格や学校の休学制度をみなおしてもらいたいと思います。	40代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)

<p>大田市は昔から封建的な地区ではないか？と思っています。地元の人のが考えが古く新しい考えを受入していません。介護の問題で言うと、以前働いていた会社で、主人の両親を介護しながらがんばっていたのに、会社の方から「人を雇って介護してもらえばいい」と言われ涙が出ました。嫁が看るのが当たり前。男は何をしていいか分からないから仕方ないとか、遠方に居て看なくてもいいとか言い訳ばかりです。子育ても一緒です。今は共働きが多いのに女性に負担が多すぎると思います。是非、少しでも男女差別なく、住みやすい「大田市」にして頂きたいです。よろしくお願ひします。</p>	<p>60代/女性/無職</p>
<p>まだまだ女性が社会へ出れるようになるのは遠いと思います。子どもがいるから買い物にもゆっくり行けない、、市役所に行くことさえ子どもがいるとためらうのです。保育の充実、仕事との両立、男性の理解が深まればと思います。両親も遠方で夫も土・日も仕事で休みなし。私はいつ気持ちも休まるのでしょうか。こんなとき、少しでも一人になれば、、常に子ども達と一緒に。気を張って危ないことがないか見張っている、、そんな生活です。仕事もしたいけど家庭は私がいなきゃだれがやるんだ、、学校行事も全て私。小さい子をつれて学校行事。そんなときに少しでもあずかってもらえたら、、私も仕事ときちんと両立したいです。夫にも家庭に参加してもらえるような環境をつくってもらいたいです。</p>	<p>30代/女性/パート・アルバイト・内職など</p>
<p>アンケートを求められても、今、大田市の実情がどんな物なのか全く分からないので、困った。事例(統計)を少しでもあげてもらえたらもう少し理解できたように思う。以上の様に縁のない人にとっては未知の話であると思う。</p>	<p>60代/女性/家事専業</p>
<p>現在は専業主婦ですがアンケートについて就労していた時の意見も参考にして回答しました。</p>	<p>70代以上/女性/家事専業</p>
<p>男性の意識が変わることが必要。</p>	<p>60代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)</p>
<p>世間では、男性も育児休暇をとということが注目されているが、企業によってはまだまだその認識は低いと思う。もっと大田市の企業でもそのような認識が高まれば女性も仕事を続けられると思う。又、現在、働き方改革が言われているように、残業時間の削減等を考慮して頂くことで、配偶者と協力して育児や地域活動の参加を平等にできると思う。夫婦のどちらかに育児等が偏ることでどちらかの心理的・身体的負担になることはもちろん、男女の格差はなくならないと思う。男性・女性関係なくお互いが望むライフスタイルが送れるよう男女平等の考え方が広まればよいなと思います。</p>	<p>40代/女性/会社員(公務員、団体職員含む)</p>
<p>性差による体力や筋力そもそもの体の構造に差があることを互いに理解し、尊重することが大切である。例えば、女性の生理の事についても学校ではぼんやりとしか教えてもらえない。互いを理解する上では、やはり知識として知っておく必要があると思う。その上で違いを認めることが出来るような教育を行うべきだと思う。</p>	<p>20代/男性/会社員(公務員、団体職員含む)</p>
<p>まず家庭から、父母がお互い尊敬しあって助け合ってる姿が大切だと思います。それぞれの良さを認めあって生活していれば家庭はうまくいきますし、子ども達にも自然と身につくものだと思います。</p>	<p>60代/女性/パート・アルバイト・内職など</p>
<p>職場、労働環境の充実、職場の増加が基本的に望まれる。</p>	<p>70代以上/男性/無職</p>

<p>保育園と小学校に通う子どもがいます。行事や保護者活動への参加は親(自分達)世代は母親がほとんどでしたが、今は父親参加も増えており、とても良いことだと思っています。少しずつ社会が変化し、年代によってジェンダーに対する意識はずい分異なるのだらうと思います。各種の審議会、協議会では若い世代の男女の意見を積極的に取り入れていってほしいと思います(ジェンダーに対する意識は若い世代の方が高いでしょうから)。私の息子2人には「男の子なんだから」という教え方はしていませんが、「女の子には優しくね。」とは伝えています。そして、夫と2人で家事・育児をする姿を見せようとしています。夫は料理が苦手なので炊事は私が中心ですが(好きということもあるので)、子育ての情報は共有するようにし、お互いが家事・育児に「当事者意識」を持って取り組むようにしています。子ども達にはこれがあたり前なんだと思って育ってほしいと思っています。</p>	<p>40代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)</p>
<p>男女共同参画社会の実現も大切だが、まずは「人」として生きていきやすい国にすることが、今一番重要だと思う。大田市が「住みたい田舎」に選ばれたことに、市民の多くが驚いていた。その逆だから・・・。「住みたい」と思う若者がどれほどいるだろうか。そして、子どもを住ませたい。と思う親が、どれほどいるのだろうか。選挙の投票率が低いのも、一つの答え。「人」として生きていきやすい大田市になってこそ、男女共はじめて平等に近づくのだと思う。この度の2,000名の意見や思いが何かしらの形で市政に活かされますように。</p>	<p>40代/女性/商工業 (自営、役員)</p>
<p>大田市はまだまだ女性への差別は多く感じます。友達の職場では、男女の格差が残っている様です。</p>	<p>70代以上/女性/家事専業</p>
<p>男女共同参画社会について男性、女性それぞれ考え方や思いが違うと思うので、学びの場が大切であると思います。</p>	<p>60代/女性/家事専業</p>
<p>昔と比較して、所得が減ってきているこの社会で、夫婦共働きはより増えていっていると思う。その中で、女性は出産などによる仕事からの一時離脱は避けられません。男性と比べると、社会経験が減っていくのは目に見えています。さらに、子育て中の休日をとることへの難しさのため、退職を選ぶこともあります。もっと働きやすい、続けやすいという仕事とは何なのかを考えて欲しいと思います。それで労働基準法などが変われば、女性も長く働きやすくなるのではないかと思います。女性が長く働くことで、男女間の差別なども緩和されると信じたいです。</p>	<p>20代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)</p>
<p>誰もがお互いを認め合い、今までの様な男女関係の役割分担でなく、生きて行く社会とする事が大切です。</p>	<p>70代以上/男性/無職</p>
<p>本人が高齢であり、意見も行動も積極性を失ったので、要望に応えるような回答ができず申し訳ない。</p>	<p>70代以上/男性/無職</p>
<p>問1について、男女には特性があるので区別ではなく適任者がやればよいと思います。片方が無理するのではなく協力して行う。 問4, 5について、育児も介護も家庭内に協力者が同居する世帯が良いと思います。核家族ではなく昔ながらの家族構成で円満な家庭が出来る社会を希望します。核家族において育児と介護が必要になった場合には事業所内に設けられている育児や介護室を利用できるようにして仕事を続けてもらおうと良いと思います。専門施設の入所待ちの方法として考えました。</p>	<p>70代以上/女性/無職</p>
<p>長年の家庭生活において今さら変えられるものでも無くこれからの若い世代が学習して実現してほしいです。</p>	<p>70代以上/男性/無職</p>

<p>もっと取りくむべき問題があります。大田市の10～20年後、どうなっているでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道も上下完備されていません。 ・水道管も老きゆう化しています。 ・観光業もどうでしょうか？(石見銀山、三瓶、温泉津)今現在のまま、維持できますか？すたれていくのでしょうか？ ・若者の流出、高レイ化問題、対策されてますか？ <p>以上</p>	<p>40代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)</p>
<p>パートナーシップ制度の導入を早期に。</p>	<p>50代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)</p>
<p>私は80歳です。以前は地域活動として婦人会、婦人部会等色々な会があり参加して居りましたが、最近では若人も働きに出る方が多くなり会もなくなりました。年齢に応じたお答えしか出来ません。ごめんなさい。</p>	<p>70代以上/女性/農業</p>
<p>何も考えたことがないので、意見などありません。</p>	<p>60代/男性/無職</p>
<p>全体に高齢化しており、行動の範囲も限られている。講演会や講座・研修会を各地区にある『まちづくりセンター』を活用されると行きやすいと思います。一考をお願いします。</p>	<p>70代以上/男性/農業</p>
<p>1.はじめに:男女平等が叫ばれる昨今、男女差別やDVなど男女における問題が顕在化してきている。こうした中で、以下に男女平等参画社会の実現に向けた意見を述べる。 2.問題点及び課題:男女平等にすると国力が低下する。これは女性の社会進出が出生率を低下させている要因があるからである。女性が出産後、仕事をすると子育てに集中できなくなり、家事と仕事の両立などで疲れが出て第2子以降を望むことができなくなるからである。実際に男女平等が推進された平成の時代30年間で740万人出生数が低下している。これは単純に戦争するよりも多い数である。このような状況からいかにして女性の働き方を改善するかが課題である。 3.解決策:解決策としてテレワークという働き方を提案する。近年IOTが進んでいく中で、社会全般として、AIを用いて効率化できることによりテレワークができる整備をしていくことが重要と考える。 4.解決策のリスク:テレワークに対する懸念材料としてコミュニケーションが不足することが考えられる。これは月1回もしくは週1日の進捗状況の会議やスカイプを利用することでコミュニケーションを補えると考える。以上。</p>	<p>30代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)</p>
<p>男女平等は大切な事。お互いに思いやりは必要。○仕事においては子育て期間、長期休める様無給料に近い状態とし、職場に復帰できる様にしたなら一般職場でも公共職場でも休むことが楽になり子供の為にもなる。3年でも5年でも休むことが出来やすくなる。(女性)男のできる事、女の出来る事は違うと思う。そうした中で早く若いうちに結婚をしお互いに助け合い充実した家庭をつくり、地域にも協力してほしい。男女共同参画より地域がなくなる事が気になる。</p>	<p>60代/男性/商工業 (自営、役員)</p>
<p>女性が活躍するという事は大変大事な事だと思う。日本は各国に比べても率が低い。それでも最近はいろいろな方面での女性の働きが報道されるがその人達のこれまでの生き方働き方を考えると並大抵の努力ではないとわかる。女性が自分の意志を正しくきちんと伝えられる社会が必要ではないか？社会全体の啓発活動が必要であることは明らかだ。いろいろな行事に女性が自然に参加している企画があれば「女性・女性」とことさらに意識しなくてもその内、力をつけ活躍できるのではないか。</p>	<p>70代以上/女性/無職</p>

生活が苦しいからいろいろ問題がおこると思う。10月からの10%を全体反対。以上。	70代以上/男性/無職
基本男女差別ではなく男女区別だという考えです。男性には男性の女性には女性の専門分野があると思っています。	60代/女性/家事専業
最近TV等で紹介のあるように、今まで男性しかいなかったような仕事に女性がいたりすることがあります。電気工事士や建設用重機械の運転など女性に向いているとは思いませんが、個人的にやってみたい女の人は、積極的にやってみられたらよいと思います。私自身はいろいろな職種を経験しましたが、これはこれで今まで知らなかったことを知ることができていい経験になると思います。女性もチャレンジ精神が必要かも、ただ原則として女性は子どもを生む義務があると思います。男性には産めませんので。そして〔母の愛は偉大なり〕と思います。	70代以上/男性/無職
地区によっても「男がしないと」「女は出しゃばるな」がある。そんな事を言ってるから若い人が「自治会」に参加しなくなって、役員をしてくれなくなる。自分で自分の首をしめている事にそろそろ気がつかないと、自治会は消滅しますよ。	40代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
いくら男女平等と云っても、年長(年寄り)さんがおられる地域・家庭は、どうしても女性は朝早く起きご飯支度、そして風呂は残り湯。少しでも地域の役職になると“女だてらに”とか“あそこの嫁さんは”と言う批判的な言葉をかけられる。だから、今後とも年寄りの方にも教育する必要があると思う。特に、こういう人は研修など受けないでしょう。昔は、女性は三步下がって歩くとか、家を空けないとか、今でも色々と言われる。それに会合に出ても女性は下の席の方へ、間違っても上席でも座るとすごいブーイングがある現状です。	60代/女性/パート・アルバイト・内職など
皆が安心して楽しく暮らせる町づくりを期待してます。	30代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
母親が十分に安心して子ども(育児)に向き合えるような制度を作って頂きたいです。	50代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)
保育士や看護師など女性が優位にたっている職場もあると聞いていますが、全てを平等にとは難しいことだと思いますよ。	40代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
家庭の中でも地域活動の中でも、男女の考え方の差を実感しています。まず、女性の働きやすい環境作りが大事だと思います。昔から女性の仕事であった育児や介護についての認識不足が根本にあるのではないのでしょうか。	70代以上/女性/家事専業
男女共同参画社会という言葉が分かるようで分かりにくい感じがします。具体的な問題にスポットを当てたイベント等を期待します。	40代/男性/商工業 (自営、役員)
都会より1ターンして来た高齢者の女性ですが男女共同参画も重要ですが、大田市は何事に関しても閉鎖的で住民の声が市政に反映されない。市民が足繁く何事に関しても相談出来る窓口を作ってください。高齢女性にも働ける場所を提供してください。	70代以上/女性/パート・アルバイト・内職など
育児、介護ともに女性の役割って思っている人が多いと思います。だからか、男性の親や介護者の場合育児が大変とか介護はむずかしいとか、周囲も寛容で男性が優遇されるなって思います。おかしいのでは？	40代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)

近居・同居ではない核家族の母親でも、子育てしながら働けるような仕組みがあると良いと思います。病児保育があれば、フルタイムで働けるのに、と思う人もいるのでは…。	30代/女性/学生
母代筆:送られたアンケートは知的障害を持つ娘には無理です。今後この様なアンケートはお答えするのが無理の様ですので送って来ない事を望みます。	40代/女性/無職
アンケート・統計の実施だけに終わらず、本気で住みよい、他方から感心される大田市にしてほしい。	70代以上/男性/無職
今回、たまたま足を悪くし、不自由な生活の中で、このアンケートを受け取りました。 男女、云々というより、それ以前の事案を書かせていただきます。 ①車椅子でも一人で歩ける道作りをしていただきたい。 ②外灯が暗い	60代/女性/家事専業
基本法ができて20年経っても、まだまだ道半ばですね。最近、少子・高齢化に伴う経済対策として女性活躍に力を入れるというのが政府の方針なのでしょうが、本来の人権尊重という視点が土台にあるはずの「男女共同参画」とは離れているように感じます。 別に活躍なんてしなくても、女性も男性も性的少数者の方々も、その人があるがままで、人として尊重され、最低限度の文化的生活を、その人らしく送れるような寛容な社会になることを切に望みます。 大田市には、そういう啓発活動に力を入れていただきたいです。そして、同時に、なかなか進まない数値目標の達成のために、是非ともいくつかの施策にポジティブアクションを取り入れて取り組んでください。	50代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)
先日、久しぶりに“あすてらす”に行くことがありましたが、駐車場から玄関に向かうと、ガラス越しに男性が数人タバコを吸って笑いながら話しているテント張りの喫煙所があり、おどろきました。 ◎以前、職場で仕事の打合せを喫煙所でしていて、女性には事後報告と不愉快なできごとがありました。そして、その後、全面禁煙になると「打合せができにくくなり仕事に支障がある」と上司にグチっている男性がいて、がっかりしたことを思い出しました。 ◎“あすてらす”はDV被害を受けている女性が意を決して相談(かけこみ)に来るところでもあり、その玄関近くで“数人の男性が”たむろっているのは“あすてらす”のあり方としてどうでしょうか！もっと目立たない場所に設置されたらと思いますし、行く行くはあすてらす全面禁煙となる健康的な場所になることを願います。ささいなことですが、こんなことからでも取り組んでいただければうれしいです。よろしくお願いします。	60代/女性/家事専業
・自分が高齢者とはいえ、あまりにも“男女共同参画”について知らない事が多く、情けなかったです。 ・問6、問7…は理解しにくいので無回答にした項目があります(自分の体が思うように動けないので)。	70代以上/女性/無職
私82歳、女性。むずかしく、考えました	70代以上/女性/農業
短期間で、目立った成果がでなくても、継続的な取り組みをしていくことが必要だと思っています。	60代/女性/商工業 (自営、役員)
安心して子育てができる環境づくりが一番大切だと思う。フレックスタイム制の導入や育児中の保障などを改善していく必要あり！	40代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)

依然として、人権に係る様々な課題があり、男女平等社会の実現に向けては、多くの解決すべき課題が山積していると思う。これらを解決していくためには、教育のさらなる充実、そして、日々の生活の中で、少しずつでも良いので、課題解決へ向けての、地道な取り組みがとても大切に思う。一人の百歩も大切だが、百人の一步も重要な解決方法と考えます。	60代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
大田市も早く男女共同参画社会になって欲しいですね。私の育った頃はまだまだいろいろと制約や差別がありました。	70代以上/女性/無職
男女という性の区別が存在する生物である以上、全く平等にしようと思うこと自体に疑問がある。それぞれの特性を存分に生かすことを考える立場から出発すべき問題であるように思う。子育てにしても、自分の腹を痛めた母親と子どものつながりが強くなるのは当たり前だし、その方が子どもも良い育ち方をすると思う。もう一つ、報道の問題としても、結局男女にはそれぞれの特長があり、それをどう近づけるかの形で進められている感じがあり、この問題は人類永遠の課題だと思います。※お願い文にも「支えあいながらのパートナーシップにより、男女とも主体的に生きていく…」とありますネ！	70代以上/男性/無職
とくに乳幼児をもつ母親は大変です。父親母親の役割があります。父が帰ると喜び母が居ると安心しています。これは永遠に変わる事はない様に思います。父親が居るとじじばばの所へは遊びにきませんが、母親がいると安心するのでしょうか、遊びに来ます。「そこに母が居る」という安心です。	70代以上/女性/家事専業
(子供は宝です。)若い男女皆さん日本を守ってください。老人を良くして頂くのも嬉しいですがそれより大田市へ若者達が沢山いる大田市に力を入れてほしいです。空き家のない大田市にして下さい。昔のように子供達が沢山の町にして下さい。お願いします。	70代以上/女性/農業
「男が女を一方向的に差別している」と言った固定した考え方も改めるべきです。その考え土台にした議論はかえって女を優位にしていることに気付かなくなるからです。女は男の前に出させることで、楽をしているところもあることを忘れないでほしいし、女が自分でそれを選択していることは多くの機会で見られます。責任を取る立場に立つ時は女は特に理論武装して逃げます。男女平等をうたうのならば、責任についても平等であるべきです。	50代/男性/会社員 (公務員、団体職員含む)
このアンケートは自営とサラリーマンの区別がなく、主にサラリーマン(勤め人)についてのアンケートなので回答するのが難しい	#VALUE!
女性ということで守られている部分も多く、男女差を感じたことがない。男女それぞれでできないことがあり、差別は男女だけでないと思う。どちらかという、女性に比重を置いたアンケートになっているが男性にもDVや逆セクハラ等感じている方もいると思うし、このようなアンケートを行うことが差別に感じられる。	40代/女性/会社員 (公務員、団体職員含む)
最近男女共同参画社会の現状は数十年前に比べて今変化しつつあるように思います。1人ひとりが忌憚なく話せる場が欲しいですね。	60代/女性/無職
若い方は皆様できばき良くやっついていらっしゃいます。私の意見としては、それぞれの出来る仕事を心良く続けられるように…多分私の意見(見た目には)夫婦で共働きでないとこのごろの生活はむりではないかと思われまますので誰ものささえ合いできずいていって欲しいです。(老バ心ながら)	70代以上/女性/無職

今回のアンケートでは、男女共同参画についての「個人」に対するアンケートだったが、どちらかといえば、「行政」「会社」「地域」などで組織的に「セクハラ」とその延長上にある「組織的パワハラ」についての理解が進んでいないことも大いに考えられる。特に、行政職員をはじめ、会社や自治会、地域での「トップ」といわれる人や実権を握っている人たちが本当に「セクハラ」や「組織的なパワハラ」の概念や具体的事例を理解していないがために、見過ごされたり、被害者が泣き寝入りやせざるを得ない事案が散見される。「個人への啓発」も大切なのは言うまでもないが、市役所をはじめ上述の「組織」にて「絶対にセクハラをしない」という、正しい知識を理解する必要がある、と考える。補足として、このようなアンケートを市役所内の各部署や会社などを対象に行えばよいとも思う。ただし、その際に部課長だけで回答するのではなく、部課内全員で忌憚のない意見を出し合い、実状や実態をきちんと把握しつつ、問題解決をはかっていく意識が上がっていけば、職場内でのアンケートの意義もあると思う。（「報告」のためのアンケートなら、意味がありません。）何といっても、市役所や駅前に「人権尊重のまち」と大きな看板が出ているので、きちんと実態のともなったものにして欲しいです。（まずは市役所及びその関係機関職員の方から率先して取り組んでいく姿勢を見せて欲しいです）

あと、それらをチェックする「女性議員」の存在は不可欠であると思うが、それを後押しするための女性が議員を目指すための「行政塾」のようなものを設立する必要があると思うのだが、いかがだろうか？

50代/男性/商工業
(自営、役員)

■ 調査結果のまとめ

① 男女の役割や平等意識に関することについて

◎「家庭生活」や「職場」における平等意識は高まっているものの、「政治の場」や「社会通念、慣習など」における男性優遇意識は根強く、男女の能力を發揮すること阻害する要因になっている可能性があるため、男女がお互いに認め合い、協力して男女共同参画社会を実現するために、引き続き継続的な意識啓発が必要となっています。

◎男女の平等意識には、性別や年齢による意識差もあることから、不特定多数の方を対象とした啓発だけでなく、性別や年齢に応じた、より効果的な啓発活動を検討していくことが必要です。

◎女性の声を市政に反映させるためにも、現在、約3割にとどまる審議会委員の女性比率を、まずは目標値を達成し、政策決定の場に参画する女性委員等を増やしていく取り組みが必要となっています。

② 女性と仕事に関することについて

◎女性が職業を持つことについては、男女ともに「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうが良い」（就労継続型）を支持する割合が最も高く、男性も女性も就労を継続する意識が浸透していることがうかがえます。

◎女性が働き続けていく上で、障がいになっていることは、男女ともに「育児・介護施設が十分でない」を支持する割合が最も高くなっており、男女とも仕事と家庭生活の両立を支援するための環境整備が求められています。

③ 仕事、家庭生活、地域活動や個人の生活に関することについて

◎男女ともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」を支持する割合が最も高くなっていますが、現実的には男性は「仕事を優先している」を支持する割合が最も高く、女性は「家庭を優先している」を支持する割合が最も高くなっており、性別役割分担意識が影響しているものと考えられます。

◎家庭生活での役割分担の状況を見ると、家事、育児、介護に関する担当は、いずれの項目でも「妻がすることが多い」の割合が高く、家庭生活においては、男女がともに参加することが理想とされていながらも、男性の参加が少ない現状があります。このような現状を理想に近づけ、男女がともに自分の意思によって、地域社会の様々な場面で活躍できるよう、社会全体の意識を変え、固定的な役割分担意識を解消していくことが必要です。

④男女の人権に関することについて

◎DVによる被害について、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した人がいる」と回答した女性が17.9%、男性が13.6%で、自分や身近な人のDV被害経験は女性の方が高い割合となっていました。DVは犯罪被害を発生させる重大な人権侵害であり、被害を防止するための相談窓口の周知が必要です。

◎性犯罪やセクシャル・ハラスメントなどをなくすためには、「人権を尊重する教育を学校・地域・家庭で充実させる」の回答が最も多く、地域全体で取り組む人権教育の推進が求められています。

⑤男女共同参画に関する用語や制度、機関について

◎男女共同参画に関する用語等の認知度について、「ポジティブ・アクション」「女性活躍推進法」「大田市男女共同参画条例」などは5割以上が「知らない」という結果となり、今後の研修会等において用語や制度について認知度を高めていく取り組みが必要です。

⑥男女共同参画推進事業について

◎男女共同参画推進事業（講演会等）に「参加しなかった」理由として、「講座があることを知らなかった」と回答した人が50%と最も高く、今後、市民のニーズに応えることを念頭に事業を展開していく必要があります。

◎男女共同参画社会を形成していくために必要なことについては、30歳代以下では「育児休業制度の充実や労働環境の整備」や「保育所等の保育サービスや子育てに関する施設やサービスの充実」の値が高く、60歳代以上では「高齢者や病人のための施設や介護サービスの充実」の値が高く、子育てや介護のための施設整備やサービスの充実が求められています。

◎教育・学習の場における男女共同参画については、学校教育における男女平等意識の醸成に取り組むとともに、家庭や地域での男女共同参画に関する学習機会を提供し、今後、ハラスメント研修を含めた企業内研修の充実を図ることが必要です。